

チクヤ遺跡

—一般廃棄物最終処分場建設に伴う発掘調査報告書—

2003

甲府市
甲府市教育委員会

序

甲府市教育委員会では、現在、6名の文化財主事を配置し、国史跡武田氏館跡をはじめとする約400か所の埋蔵文化財包蔵地の保護・保存に、鋭意努めているところでござります。

近年では、年間の調査件数が100件を超えることもあり、文献に記録されることのなかつた地域の歴史や文化の解明が急速に進んで参りました。そうした成果の一端は、既にまちづくりへの活用が図られていますが、遺跡の多くが市街地北側の山裾部で発見されているため、甲府盆地の底部に暮らした人々の生活につきましては、なお、不明のままとなっております。

この度刊行の運びとなりました本書は、盆地中央部の低湿地に位置するチクヤ遺跡の発掘調査報告でございますが、一般廃棄物最終処分場の建設に先立って平成13年度に実施された調査では、古墳時代から中世にかけて断続的に営まれた集落の跡が確認され、魚を獲るために用いた投網の鉤^{おもり}や大量の炭化米が検出されるなど、人々の生活を支えた生業の一端を明らかにすることができました。

このほかにもチクヤ遺跡の調査は、水害常襲地帯における集落の歴史的発展過程をたどる上で欠くことのできない数々の情報を提供しておりますので、今後、調査・研究の成果が広く一般市民の地域学習に活用されていくことを願って止みません。

木筆となりましたが、発掘調査から報告書刊行まで御指導・御鞭撻をいただきました関係諸機関・関係者各位に、衷心より御礼申し上げます。

平成15年3月

甲府市教育委員会

教育長 角田智重

例 言

- 本書は山梨県甲府市蓬沢町1014-1他に所在するチクヤ遺跡の発掘調査報告書である。
- 本調査は甲府市一般廃棄物最終処分場の建設に伴い、環境部と甲府市教育委員会の協議に基づき、甲府市教育委員会が実施した。
- 本書に開くる調査は、試掘調査を志村憲一（文化財主事）が担当し、本調査は志村・山崎雅恵（調査員）、伊藤正彦（文化財主事）、望月秀和（嘱託）が担当した。なお、A・B・C区の調査分担は次のとおりである。

A区 山崎
B区 志村・望月
C区 山崎・伊藤

- 本書の執筆は、志村・山崎・望月が分担して行い、文末にそれぞれの文責を記した。
- 本書の編集は、中込功（文化芸術課長）を責任者として、志村・望月が行った。
- 発掘調査における基準点測量は、昭和測量株式会社に委託した。
- 本書の挿図・図版は内藤真千子・栗田かず子・林久美子・鈴木由香・中川美千子・大塚教子・志村・山崎・望月が作成した。
- 本書に開くる出土遺物及び記録面・計測データ・写真等は甲府市教育委員会で保管している。
- 出土した金属製品・木製品等の保存処理は、（財）帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
- 発掘調査及び報告書作成に際し、次の機関及び諸氏からご教示・ご高配を賜った。ここに記して厚く感謝申し上げたい。
帝京大学山梨文化財研究所・岡野秀典・河西 学
柳原功一・齊藤秀樹・田中 要・永井宏幸
賛 元洋・野崎 進・畠 大介・林 弘之
平野 修・宮里 学・望月和幸・百瀬正恒
(五十音順、敬称略)

【発掘調査及び整理作業参加者】

荒木昭彦 雨宮英郎 池谷富士子 岡 悅子
小沢四郎 笠井博幸 金井いく代 齋藤信一
小池幹子 小林正輝 小宮通子 川口格一
岸本美苗 倉田勝子 板本しのぶ 佐田 昇
佐田金子 清水秀樹 鈴木正文 武井英知子
塙原澄子 齋藤 勝 中村孝一 長澤晴雄
波木井祥和 花曲敬子 橋口 進 平沢則子
古屋智哉 本道歌子 本道政清 村田勝利
望月貴美子 望月宏美 森下 豊 渡辺 茂
渡辺百合子
(五十音順、敬称略)

凡 例

- 本書中の遺構名・遺構番号は、現場において形状・検出状況に応じて付したものと、本書作成の際に調査区全体で遺構別の通し番号に改めたものである。
- 本書中の方位は、磁北を示している。
- 本書中の地図は、甲府市発行1/2,500、国土地理院発行1/50,000「甲府」を使用した。
- 周辺の道路（図2）は、甲府市教育委員会1992「甲府市道路地図」から作成し、道路名・道路番号を対応させている。その他の本書作成に引用した文献・資料等については各末に明記した。
- 土層説明及び遺物の色調の土色表示は農林水産省水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」(1997後期版)を使用した。
- 遺構図の縮尺及び方位は各図面上に表示している。
- 遺構断面図・土層図は各図に標高を明記した。
- 本書中の遺構名の略記は以下のとおりである。なお遺構番号の「号」は省略している。

堅穴建物	= 堅
据立柱建物	= 据
土坑	= 土
グリッド・一括	= G・括
炭化物集中範囲	= 炭
試掘時出土及び表面採取	= 試・探
- 遺物図版中の番号は各遺構で付しており、遺構図内のドット番号と対応している。また、遺物番号「1」は、図化した遺物数が1点のみであることを示している。
- 遺物の縮尺は各図版上に表示し、縮尺が1:3以外のものについてはスケールの左に遺構名・番号を明記した。
- 遺構図中のドットマークの用例は、各図面上に明記した。
- 図版中の網掛け及びスクリーントーンの用例、及び遺物実測図の表現は以下のとおりである。

【遺構図】

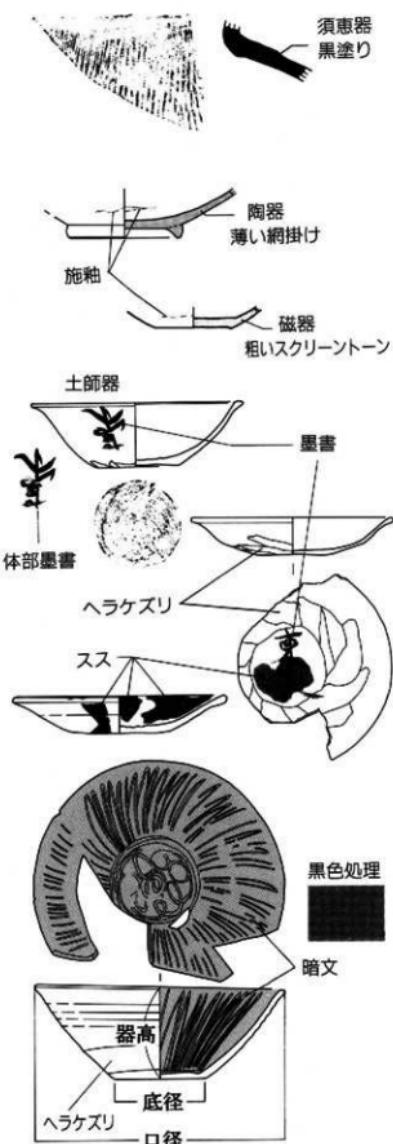
焼 土



炭 化 物



【遺物実測図】



目 次

序
例言
凡例

【本文目次】

第1章 調査に至る経緯	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の概要	1
第2章 遺跡の概観	
第1節 遺跡の立地	1
第2節 歴史環境	3
第3章 調査方法と基本土層	
第1節 調査方法	3
第2節 基本土層	3
第4章 発見された遺構と遺物	
第1節 積穴建物	5
第2節 掘立柱建物	6
第3節 溝	7
第4節 埋甕	10
第5節 土坑・ピット	10
第6節 方形周溝墓	15
第7節 不明遺構	15
第8節 炭化物集中範囲	15
第9節 遺構外出土遺物	16
第5章 まとめ	
第1節 調査所見	
A区	17
B区	17
C区	18
第2節 調査の成果と今後の課題	19

抄録
奥付

【挿図目次】

図1 デクヤ遺跡周辺の遺跡分布	
図2 周辺の遺跡	
図3 トレンチ配置図	2
図4 グリッド配置図	2
図5 層序柱状図	2
図6 基本土層	3
図7 方形周溝墓位置図	27~28

【図版目次】

〔遺構〕

第1図	A区平面図(1) 1～3号溝、1～6号土坑、Pit1～21	23
第2図	A区平面図(2) 4, 5号溝、7～9号土坑、Pit22, 23	24
第3図	B区平面図(1) 6～26号溝	25～26
第4図	B区平面図(2) 27～34号溝、炭化物集中範囲 1～4	27～28
第5図	C区平面図	29
第6図	1号竪穴建物	30
第7図	2・3号竪穴建物、Pit29, 30	31
第8図	4号竪穴建物、5号竪穴建物	32
第9図	6号竪穴建物、7号竪穴建物	33
第10図	7号竪穴建物、35, 36号溝、埋甕	34
第11図	1号掘立柱建物	35
第12図	2号掘立柱建物	36
第13図	34号溝、11, 14～17号土坑	37
第14図	10, 12, 18, 19号土坑、Pit26～28, 33、不明遺構 1	38
第15図	20～28号土坑、Pit34, 36	39
第16図	不明遺構 2	40
第17図	方形周溝墓、29号土坑、Pit37, 38, 39, 40, 41, 42, 43	41～42
第18図	チクヤ遺跡全体図	別添

〔遺物〕

図版1	1号竪穴建物	43
図版2	2・3号竪穴建物	44
図版3	4号竪穴建物、5号竪穴建物	45
図版4	6号竪穴建物、7号竪穴建物(1)	46
図版5	7号竪穴建物(2)、掘立柱建物	47
図版6	4, 5, 7, 11, 12, 15, 18, 19, 28, 30, 35号溝	48
図版7	36号溝、埋甕	49
図版8	6, 10, 11, 15号土坑	50
図版9	16, 21, 23～25号土坑、Pit2, 8, 19, 34～36	51
図版10	方形周溝墓(1)	52
図版11	方形周溝墓(2)	53
図版12	不明遺構 2	54
図版13	炭化物集中範囲、グリッド・一括(1)	55
図版14	グリッド・一括(2)	56
図版15	グリッド・一括(3)、試掘・遺構外	57

【表目次】

表1	土坑・ピット一覧	22
表2	出土遺物観察表	58～65
表3	土製品観察表	66

【写真図版】

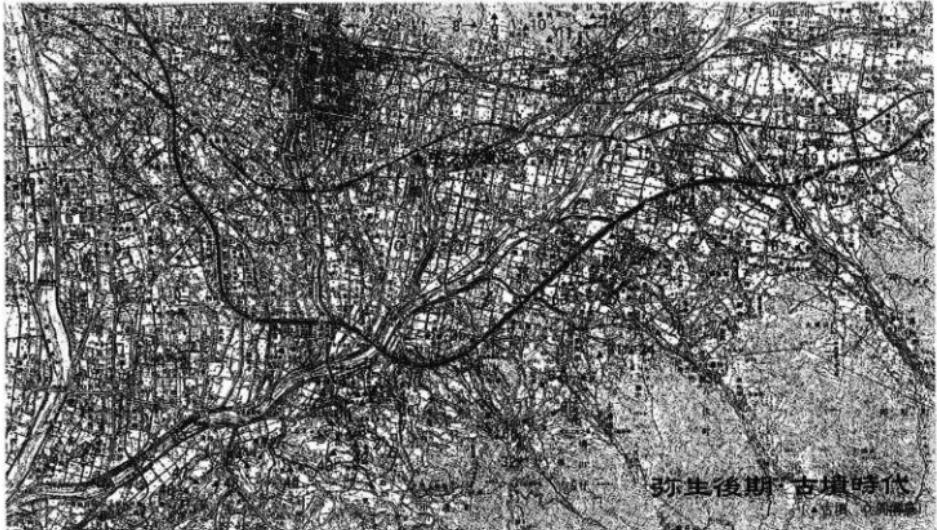
〔遺構〕

写真1	調査区近景	67
写真2	竪穴建物	68
写真3	掘立柱建物	69
写真4	溝、土坑(1)	70
写真5	土坑(2)、埋甕、木根痕、不明遺構、炭化物集中範囲	71
写真6	方形周溝墓	72

〔遺物〕

写真7	1・2・3号竪穴建物出土遺物	73
写真8	4・5・6・7号竪穴建物出土遺物	74
写真9	1・2号掘立柱建物、溝、埋甕出土遺物	75
写真10	土坑、ピット、不明遺構、炭化物集中範囲出土遺物	76
写真11	方形周溝墓出土遺物	77
写真12	グリッド・一括、試掘・表探遺物	78
写真13	墨書き器一覧	79

弥生後期・古墳時代



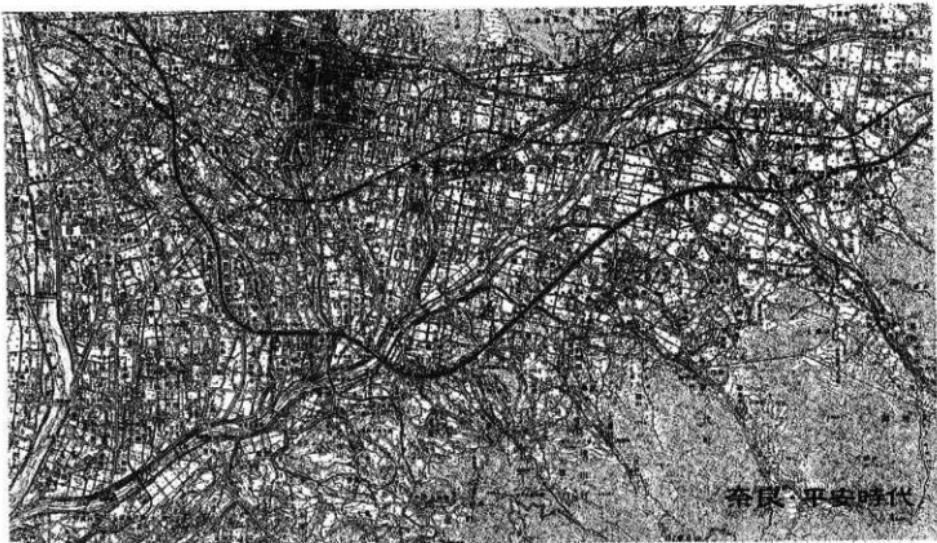
- 1.口開遺跡 2.上の平遺跡 3.米倉山B塗跡 4.東山北遺跡 5.宮ノ上遺跡 6.一条寺跡遺跡 7.一城林遺跡
 8~11.模根・桜井横石塚古墳群 8.模根支葬 9.桜井内山支葬 10.桜井支葬 11.桜井箕支葬 12.春日居古墳群
 13.大殿經寺山第 15.弓塚 14.姥塚古墳 15.危甲塚古墳 16.海船冢古墳 17.井原塚古墳 18.長田古墳群 19.船前塚古墳
 20.猿塚古墳 21.匂分古墳群 22.千木寺石古墳群 23.四ツ塚古墳群 24.筒・桃子塚古墳 25.狐塚古墳 26.須藤塚第1号墳
 27.毛藏塚古墳 28.莊塚古墳 29.辻塚古墳 30.御崎古墳 31.姥塚古墳 32.須河原2号墳(菅原寺遺跡) 33.馬糞山1・2号墳(八乙女塚古墳) 34.船脛塚古墳 35.委門神社古墳 36.大丸山古墳 37.かんかん塚古墳(茶塚古墳) 38.考古学博物館横内古墳 39.小平寺古墳 40.米倉山古墳群 41.祐子塚古墳 42.天神山古墳 43.丸山塚古墳 44.王塚古墳 45.三島院古墳群 46.伊勢塚古墳 47.大塚古墳 48.島居原孤塚古墳 49.おつき穴古墳 50.青沼後跡 51.朝氣遺跡 52.川田瓦窯跡
 53.桜井知道跡 54.二叉遺跡 55.二之宮・姫塚遺跡 56.鶴掛遺跡 57.清水道跡 58.松原遺跡 9.矢倉遺跡 60.馬見塚遺跡
 61.五里原遺跡 62.三光神道跡 63.長崎塚跡 64.保ノ下遺跡 65.牛屋衣塚跡 66.四石田遺跡 67.吉古松遺跡
 68.朝日遺跡 69.石清水道跡 70.東山南塚跡 71.高部宇山平塚跡

*平府市(山梨県)付近



*デクヤ遺跡跡

奈良・平安時代



- 1.大坪遺跡 2.上土器遺跡 3.外中代遺跡 4.米塚遺跡 5.国府道跡 6.守本原寺 7.守方遺跡/御幸道跡 8.新原遺跡
 9.茶かん塚跡 10.蛭跡先遺跡 11.大原道跡 12.甲斐郡分寺跡 13.日斐郡分尼寺跡 14.笠本地塚跡 15.北中原遺跡
 16.北原塚跡 17.半地塚遺跡 18.田村塚跡 19.筑前原草塚跡 20.西田町遺跡 21.東新居遺跡 22.南新居遺跡 23.電ノ木遺跡
 24.筒ノ木社塚跡 25.八王子塚跡 26.堀ノ内塚跡 27.塩白寺 28.石塚条塚遺跡

(『山梨県史資料編1』より作成)

図1 デクヤ遺跡周辺の遺跡分布



■周辺遺跡発掘調査地点

- 1 テクヤ遺跡(本調査地点)
- 2 テクヤ遺跡(H.4年度調査地点)
- 3 明気遺跡
- 4 十丁遺跡(H.14年度調査地点)
- 5 久保田・道々茅木遺跡(道々茅木地区)
- 6 久保田・道々茅木遺跡(久保田1地区)
- 7 久保田・道々茅木遺跡(久保田2地区)
- 8 大坪遺跡(S.50年度調査地点)
- 9 大坪遺跡(S.57年度調査・旧河床地点)
- 10 大坪遺跡(S.57年度調査・教習所地点)
- 11 大坪遺跡(H.6年度調査地点)
- 12 大坪遺跡(H.12年度調査・西区)
- 13 大坪遺跡(H.12年度調査・東区)
- 14 小瀬氏船跡

131 本郷日遺跡	平安	193 南口町日遺跡	平安	210 北堀遺跡	古墳～平安
132 本郷C遺跡	古墳～中世	194 里吉天神遺跡	古墳～平安	211 深田遺跡	古墳～中世
134 内林遺跡	近世	195 十丁遺跡	古墳	212 五本松遺跡	平安・中世
136 中坪遺跡	古墳	196 二又遺跡	古墳	213 錫作遺跡	平安・中世
137 大橋遺跡	中世	197 家之前遺跡	平安	214 篠原遺跡	平安
138 村内石山遺跡	近世	198 十丁B遺跡	古墳	215 熊社遺跡	弥生～古墳
139 山崎遺跡	平安～	199 青葉町遺跡	平安	217 藤塚	古墳
140 山田古墳	古墳	200 寺前遺跡	古墳	218 京塚	古墳
141 山田東福寺遺跡	中・近世	201 寺前日遺跡	古墳	219 在原塚	古墳
143 村内遺跡	縄文・古墳～	202 字前遺跡	古墳	222 上ノ木遺跡	古墳～平安
144 村内西遺跡	近世	203 村之内遺跡	古墳～平安	223 宮田遺跡	弥生・平安
145 矢下大畠遺跡	近世	204 北桜遺跡	平安	224 大土井遺跡	平安
146 村内南A遺跡	近世	205 野村遺跡	古墳～平安	225 上町天神遺跡	古墳～平安
147 村内南B遺跡	近世	206 油田遺跡	平安	226 士原遺跡	中世
148 大坪遺跡	古墳～平安	207 居村遺跡	近世	227 小瀬氏船跡	中世
153 船山遺跡	古墳～奈良	208 清之上遺跡	古墳	228 明石西河原遺跡	平安
192 南口町A遺跡	平安	209 落合氏船跡	中世		

図2 周辺の遺跡

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

チクヤ遺跡の調査は、甲府市環境部による一般廃棄物最終処分場建設工事に伴って実施したものである。試掘対象面積は19,272m²、期間は平成13年8月17日から同年9月14日の約1か月間であった。

その結果、調査対象地西側一帯において古墳時代初頭から中世に及ぶ遺構・遺物が遺存している状況を把握し、環境部・財務部・教育委員会の協議を踏まえて、遺構に影響の及ぶ範囲を本調査の対象とした。

第2節 調査の概要

チクヤ遺跡は、甲府盆地中心部の甲府市西高橋と蓬沢にかけて広がる、古墳時代初頭から中世にかけての遺跡である（図2）。

平成4年、濁川右岸で行われた最終処分場建設に伴う試掘調査では、绳文時代・古墳時代・古代の遺物が検出され、「十」・「物」などの墨書き土器も出土している。遺跡は当調査区が位置する濁川左岸にも及んでいる。

試掘調査は、平成13年8月17日から9月14日にかけて行われた。調査対象面積は19,272m²で、T-1~18まで18本のトレンチ（幅2m）を設定した。掘削面積は約1,000m²となる（図3）。

試掘調査区西側地域のT-1~10トレンチでは、地表下1.5~2mの暗褐色粘土層から、甲斐型土器片が出土した。また、T-1トレンチ（本調査時のA区）では、古代と推定される遺構と縄文陶器が、T-3トレンチ（同B区）では、天目茶碗・青磁碗（図版15-3）など中世段階の遺物が検出された。T-4トレンチでは「東大」と書かれた墨書き土器が確認され、T-6トレンチ中央部の擾乱内からは古墳時代初頭のS字状口縁台付甕が検出された。C区にあたるT-9トレンチでは、地表下約2mから須恵器・金属製品・大量の炭化米などが検出された。

西側で多量の遺物が検出された暗黒褐色粘土層は、T-8トレンチ中央部から東方の野間川にかけてながらに傾斜し、T-11~18トレンチでは、地表下約2.5mに位置している。なお、T-11~18トレンチでは、遺構・遺物が検出されなかった。

本調査は、平成13年9月27日から同年12月27日まで実施した。遺構面は地表下1.8~2m（標高252m前後）に位置し、古墳時代・9~10世紀代・中世の3面が検出された。調査総面積は2,200m²である。

古墳時代の遺構は、B区中央部から一辺約9mの方形周溝墓1基が確認された。遺物は周溝周辺からS字状口縁台付甕等、古墳時代初頭の遺物が多く出土している。A・C区においても同時期の遺物が検出された。

古代の遺構・遺物の検出量が最も多く、9~10世紀代に位置づけられる竪穴建物7棟、掘立柱建物2棟、溝14条、その他に土坑20基以上、ピット、埋甕などが検出された。特にB区中央からC区にかけて遺構が集中し、この一帯では炭化物の堆積が多く見られ、炭化米も検出された。

出土遺物は、甲斐型土器編年図（山下1992。以下同）～古代末1期（森原1996。以下同）の土器群が見られ、「東大」・「子北」などと書かれた墨書き土器も検出されている。9世紀後半から10世紀前半にかけての愛知県猿投窯製の縄文陶器・灰釉陶器・中国郊外窯製の白磁など、遠隔地からの搬入品も出土している。

中世段階と考えられる遺構は、溝・戸状遺構19条と土坑1基である。遺物は12~15世紀代の播鉢・中国製白磁・瀬戸美濃系陶器・北宋銭などで、量的には極めて少ない。11号土坑からは、瀬戸美窯製の壺蓋と共に、小刀・籠状製品など中世初頭に位置づけられる遺物も出土している。

第2章 遺跡の概観

第1節 遺跡の立地

チクヤ遺跡は、甲府市街地南西端に位置する蓬沢・増坪・西高橋3集落に挟まれた、平坦な農地の一面に広がる。遺物散布地の中を濁川が流下するため、地理的には右岸と左岸に分離するが、甲府市教育委員会が昭和60年度に実施した遺跡分布調査で、ともに古墳時代から平安時代に至る遺物が表面採取されたことなどから、一つの遺跡として捉えられている。

遺跡の標高は約255mと低く、濁川と笛吹川（現平等川）が西高橋集落の南側で合流していたため、一帯は元禄9年（1696）の改修まで水害常襲地帯であった。度重なる水害によって河床は高くなり、川尻がふさがって笛吹川の水が濁川に逆流して田畠が沼地化した状況も記録されている。慶長6年（1601）の増坪・西高橋両村の検地帳にみえる「ほり田」「ぬまはた」「ぬまの北」といった地名は、その証左である。

遺跡名の「チクヤ」は増坪町の小字で、水車小屋の存在を意味するものと推定される。この地名は慶長6年（1601）増坪村検地帳にまで遡ることができる。

なお、甲府市教育委員会発行の『甲府市の遺跡』（昭和61年）及び『甲府市遺跡地図』（平成4年）では「外河原チクヤ遺跡」の名称を用いるが、これは増坪町内の二つの小字を並べた遺跡名であるため、『甲府市史料編第一巻 原始・古代・中世』（平成元年）にあわせ「チクヤ遺跡」に統一する。

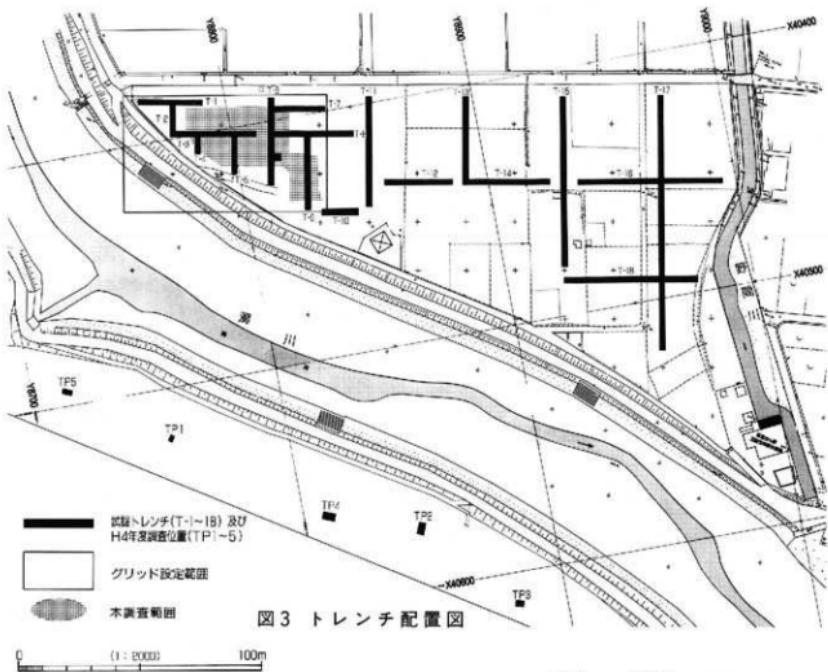


図3 トレンチ配置図

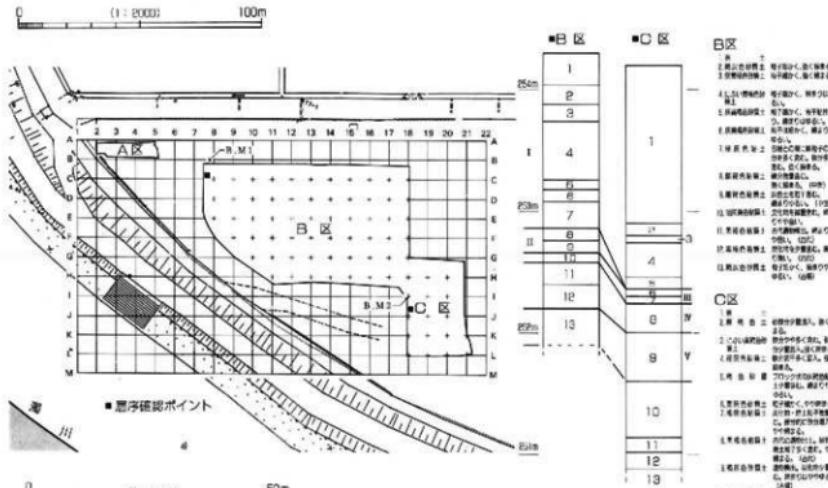


図4 グリッド配置図

図5 層序柱状図

第2節 歴史環境

甲府市中心市街地に端を発する濁川の流域は、水害が多発したためか、これまでに確認された遺跡は少ない。しかし、デクヤ遺跡から約500mを隔てた北側には、蓬沢・里吉から朝氣・青沼へと東方に続く古墳～平安時代の遺跡群が連続する。青沼は古代甲斐国に置かれた「巨麻郡青沼郷」の遺称といい、朝氣周辺がその中心地と推定されている。

中世には、古代青沼郷から一条郷が分離・成立しており、デクヤ道路の所在する蓬沢・増坪がその郷域に含まれたことが明らかである（貞治2年「一蓮寺守領目録」）。

近世初頭のデクヤ遺跡周辺は沼地化していたものと考えられるが、先に触れた元禄9年の河川改修により、濁・笛吹両河川の合流点が約4.5km南西に移ると耕地開発が急速に進み、慶長6年に143石だった西高橋村の石高は元禄14年には214石に増加している。

しかし、今回の発掘調査では古墳時代初頭から中世にいたる遺構・遺物が検出され、濁川改修以前の河川堤防上微高地に断続的に集落が営まれた状況をうかがうことができる。投網に使った土鉤も出土し、河川や沼地での漁労活動の一端を示す。

デクヤ遺跡に関わる研究としては、昭和20年代に山本寿々雄氏が増坪地内で試掘調査を行い、土器や炭化米の検出を報告している（『山梨県西山梨郡増坪遺跡』「日本考古学年報」4 1955年）。ついで、『甲府市史史料編第一巻 原始・古代・中世』（平成元年）は、昭和28年頃の道路工事で出土した個人所蔵資料（古墳時代初頭）を実測して解説した。平成4年には甲府市教育委員会が開発工事に伴う確認調査を実施し、川砂堆積層中から平安時代の墨書き器などを検出している。

第3章 調査方法と基本土層

第1節 調査方法

調査区は東西約88m、南北約48mの範囲である。遺構面までの土砂堆積が厚いため、A区で約1.4m、B区1.4～2m、C区約2mを重機で掘り下げ、現在の土地区画とは平行して、東西方向1～21、南北方向A～Lのグリッドを4m間隔で設定した。A区（グリッドA-1～4、約50m²）・B区（グリッドB-7～H-17、約885m²）・C区（H-18～L-20、約240m²）の3地区（計約1,175m²）に分割し、本調査を実施した（図3）。

遺構の精査及び検出作業は人力で行ったが、地表面から深い土に粘質土壤のため排水が難しく、作業は困難を極めた。掘削した土砂の排出は、ベルトコンベア

一及びクローラーダンプを使用した。検出された遺構は平板測量によって作図し、写真記録した。古代の遺構面の調査が終了した後、古墳時代の遺構面まで0.2～0.3mを重機で掘削した。調査終了後は、調査区東側に仮置きした堆土を、重機等を用いて埋め戻した。

第2節 基本土層

I	Ⅰ層 近世・近代の堆積層。
II	Ⅱ層 中世層。暗褐色粘質土を基調とする。 〔B区〕 地表下約1.4mの8・9層。 厚さ約0.2m。
III	Ⅲ層 灰黄色粘質土を基調とする。
IV	Ⅳ層 古代層。黒褐色粘質土を基調とする。 〔B区〕 地表下約1.7mの11・12層。厚さ約0.2m。 〔C区〕 地表下約2mの7・8層。厚さ約0.4m。
V	Ⅴ層 古墳時代層。 褐灰色砂質層。 〔B区〕 地表下約2.1mの13層。 厚さ約0.3m。 〔C区〕 地表下約2.2mの9層。 厚さ約0.4m。

図6 基本土層

A区に近接するB区西側（B-7）と、C区北西側（I-18）の約50m隔てた2地点において、基本土層の確認を行った。（図4・5）

調査前は平坦面であったが、旧地形は西側のA区から東側のC区にかけて緩やかに傾斜している。両地区における各時代の対応する土層の比高差は、古墳時代で約0.2m、古代で約0.4m、中世で約0.1mとなる。古墳時代から古代にかけては西側の地形にやや高まりが見られるが、中世以降はほぼ平坦となる。

【調査日誌】

- 8月27日 試掘調査開始。
9月14日 試掘調査終了。
27日 調査準備開始。
28日 調査区位置設定。
10月4日 重機による表土除去作業開始。
9日 B区調査着手。
26日 グリッド杭及びベンチマーク設定完了。
11月4日 B区中世面調査完了。古代面調査開始。
15日 A区調査着手。
21日 ベルトコンベアー導入。
23日 C区調査着手。
24日 西高橋地区子供クラブ28名見学。
30日 A区調査終了。
12月12日 B区古代面遺構全体写真撮影。
15日 玉諸小学校4~6年生220名体験発掘。
17日 古墳時代面方形周溝墓調査開始。
20日 C区遺構完掘写真撮影。調査完了。
24日 古墳時代面調査終了。
27日 埋戻し作業完了。

第4章 発見された遺構と遺物

第1節 竪穴建物

1号竪穴建物（第6図／図版1）

【位置】C-12・13、D-11・12・13グリッド

【重複】31号溝を切る。30号溝との切り合い関係は不明。

【形状】プランは不鮮明であるが、南北方向に主軸をとるものと考えられる。長径約5.8m、短径約3.5mの不整形を呈する。床面南側は不明確であるが、北側では標高252.1mに位置する。遺構東側で炭化物の集中が見られ、東壁南東側でカマドが検出された。

【カマド】東壁南東側に位置する。支脚状の石が並んで2基検出された。周辺は約1.4×1.0mの範囲に炭化物の堆積が確認されている。

【遺物】遺物は全場から検出されているが特にカマド周辺及び南側に集中して多く見られる。土師器环、皿11点、壺1点、石製品1点、土鍤等17点を図化した。1・2は判読不明の墨書土器であり、底部に書かれている。3-11は壺、皿である。4・5は底部へラケズリ、他は回転糸切痕であり、甲斐型編年Ⅹ期（山下1992、以下同）～古代末Ⅰ期に相当する。13は砂岩製の砥石であり、一面が研磨されている。14は羽筆である。15-30の土鍤は遺構南側から集中して検出された。長さ3.5~5cm程度で、約4cmのものが多い。径1.5cm、孔径は3mmである。31は径2cmの土玉であり、一部にススの付着が見られる。

2号竪穴建物（第7図／図版2）

【位置】E-13・14、F-13-14グリッド

【重複】30号溝に切られ、2号掘立柱建物・3号竪穴建物を切る。

【形状】プランは不鮮明であるが、南北方向に主軸をとるものと推定される。西側が30号溝によって切られているが、方形プランと考えられ、東西約3.3m、南北約4mを測る。床面は標高252.1mに位置し、遺構確認面より深さ約10cmを測る。

【カマド】東壁北東側に位置する。支脚状の石が1基検出されている。周辺からは炭化物と焼土塊が多く検出された。

【遺物】カマド周辺及びその西側一帯から検出された。セクションの4層及びその上面において、完形の遺物が多数出土している。しかし遺構の切り合い関係が複雑なため、ここでは2号竪

穴建物の遺物として明確なものに関して記載する。11は底部に「東大」、15は体部に判読不明、17は体部に逆位で「日奉日」の墨書が記された七頭器である。19は内黑暗文の坏である。いずれも甲斐型編年Ⅹ期の遺物が多數見られる。

3号竪穴建物（第7図／図版3）

【位置】E・F-13・14グリッド

【重複】30号溝・2号竪穴建物・2号掘立柱建物に切られる。

【形状】N-10°-Eに主軸をとる。東西約3.9m、南北3.1mの方形プランを呈する。床面積は約9.8m²。床面は2号竪穴建物の床面より約30cm下位の標高251.8mに位置する。床面から土坑1基とPit29・30が確認された。南壁で確認された周溝は長さ2.5m、幅5~15cmで、内部から径5~7cmのピット7基が確認された。また西側に見られる幅50~60cmの溝状の落込みは、セクションの観察から竪穴廃絶後の掘り込みと考えられる。

【遺物】遺構の切り合い関係が複雑なため、ここでは3号竪穴建物の遺物として、明確なものに関して記載する。1は回転ヘラケズリが施された土師器皿で、遺構中央部から検出された。9・10・12~14・17は墨書土器である。9は底部に「東大」、13は底部に「東□（大）」、14は体部に逆位で「日」と書かれる。12は小片のため判読できない。18・19・21・22は暗文が施された黒色土器である。23は暗文のみである。24~26の甕は、内外面に炭化物の付着が見られる。甲斐型編年Ⅸ期に相当する。

（志村憲一）

4号竪穴建物（第8図／図版3）

【位置】D-7グリッド

【重複】北側を10号溝に切られる。

【形状】10号溝が重複するのに加え、遺構範囲が調査区壁面にかかり、平面形・軸線は明確でない。遺存部分からほぼ方形と推定され、確認した範囲で長軸約3.5m、短軸2.1m、深さ36cmを測る。確認範囲では明確な貼床は確認されなかった。覆土の炭化層がカマド付近から流出している状況や、遺物検出レベルが一定でないことから、遺構廃棄後に自然埋没したものと推定される。

【カマド】遺構範囲の南東隅で検出した。袖部分は粘土で構築されており、内側は被熱により硬化化している。周辺には炭化物、焼土が多く残る。

遺物とともに繩が検出されたが、支脚や部材であるか明確ではない。

〔遺物〕土師器環・皿15点、甕2点、灰釉陶器1点、須恵器片2点を同化している。環・皿・甕は、甲斐型編年期に相当する。16は猿投窓折戸53号窓式期に比定される灰釉陶器碗である。刷毛彫りにより施釉されているが、内面見込み部は転用窓として使用された痕跡があり、摩耗している。17の須恵器片はカマド前庭部で検出されており、内外面に二次使用による磨耗や擦痕がみられる。

5号竪穴建物（第8図／図版3）

〔位置〕E-7・8グリッド

〔重複〕27号溝に切られる。

〔形状〕遺存状況が悪く、明確なプランは不明であるが、調査区外に広がると推測される。カマドと竪穴底面の一部と思われる部分を検出した。

〔遺物〕土師器皿を2点、环2点、小型甕1点、灰釉陶器1点を同化している。1の小型甕はカマドの支脚石に被せた状態で出土し、全体的に黒変している。2-5は甲斐型編年期に相当する。2の出土位置は27号溝との重複部であるが、出土レベルから本遺構検出とした。6の灰釉陶器は猿投窓黑窓90号窓式期に相当する。小片であるが、内面に転用の痕跡がみられる。（望月秀和）

6号竪穴建物（第9図／図版4）

〔位置〕I・J-19グリッド

〔形状〕ほぼ方形の平面形を呈し、長軸2.8m、短軸約2.5m、深さ約18cmを測る。一部が擾乱を受けている。床面と考えられるよう硬化面は確認していない。南西部分に、縦1.2m、横22cmの焼土範囲を確認している。覆土には炭化米が多く混在していた。

〔遺物〕墨書き土器3点、七輪器環7点、土師器皿2点、羽釜2点、置きカマド1点を同化している。1-3は墨書き土器で、1は体部に逆位で「□(米)」、2・3は判読が困難である。甲斐型編年期～古代末1期に相当する。遺物は底面より若干浮いた状態で検出している。

7号竪穴建物（第9図／図版4・5）

〔位置〕H-17、18、I-18、19グリッド

〔形状〕調査区の壁に一部かかる。平面形はほぼ方形、長軸3.7m、短軸2.5m、深さ20-30cmを測る。床面らしき硬化面は確認していない。南西隅から、縦1.4m、横75cmの焼土範囲を検出した。

焼土層は、厚さ約12cmを測る。造構堆土には炭化米が多く混在していた。

〔遺物〕灰釉陶器1点、土師器環6点、土師器皿1点、土師器皿4点、羽釜2点、金属製品1点を同化している。7は墨書きがみられるが、小片のため判読できない。土師器は甲斐型編年期に相当する。9は釘である。造構の近辺から金属製品が検出されている（図版14-26）。

（山崎雅恵）

第2節 振立柱建物

1号振立柱建物（第11図／図版5）

〔位置〕B-10・11、C-10・11グリッド

〔重複〕13号溝に切られる。

〔形状〕N-13'-Eに主軸をとる、2間×3間の建物である。各柱穴間は、東西で2m、南北で1.6-1.7mとなる。柱穴5以外はほぼ円形を呈し、径0.6-1m、深さ30-60cmを測る。

柱穴1・2・4・5・7・9・10の底部からは礎板が検出された。残存状況が良好な柱穴1・2・4・7・9の礎板は、長さ40-50cm、幅10-15cm、厚さ約3-5cmを測る。柱穴1以外の礎板はいずれも一部分炭化した痕跡があり、火災等による廃材を転用したものと考えられる。柱穴5は不整形を呈し、長径1.65m、短径0.8mほどである。土層観察では確認できなかつたが、礎板と考えられる木材が2箇所から検出されていることから、柱穴が2基あることも考えられる。柱穴7は、礎板下部に、拳大の自然石3個が据えられている。

〔遺物〕土師器片1点と、焼成粘土塊4点を同化している。1は环の体部に墨書きされているが、判読不明。柱穴3からの出土である。2の須恵器甕は、柱穴8から出土した。外面は櫛齒状の叩き目がみられ黒褐色を呈するが、胎土は暗赤褐色である。3-6の焼土塊は被熱のため赤褐色を呈する。部分的にスサと思われる植物纖維の痕跡があり、平坦面や木舞の痕跡も認められることから、壁土と考えられる。

その他の柱穴からは、下記遺物が出土している。

柱穴1-焼土塊・須恵器・土師器小片。柱穴2-焼土塊・須恵器・土師器小片・土器。柱穴3-焼土塊・須恵器・土師器。柱穴5-須恵器・土師器小片。柱穴6-焼土塊・土師器・黒色土器。柱穴7-土師器・皿・須恵器。柱穴8-焼土塊・須恵器・土師器。柱穴9-焼土塊・須恵器・土師器小片・黒色土器。柱穴10-焼土塊・須恵器・土師器・黒色土器。い

ずれも9世紀後半から10世紀前半の遺物である。

2号掘立柱建物（第12図／図版5）

〔位置〕 D-E-14・15グリッド

〔重複〕 2号竪穴建物に切られ、3号竪穴建物を切り、方形周溝幕にかかる。

〔形状〕 N-12-Eに主軸をとる、2間×3間の建物である。各柱穴間は、東西1.5m、南北1.4~1.7mとなる。東側の南北柱穴列は不整であり、柱穴3・5と7・10の間は約1.4m、柱穴5・7間は約2mを測る。北東側に、東西0.8m、南北0.45m、深さ約20cmの楕円形の土坑が検出されている。柱穴のプランは円形または不整形を呈し、径0.6~0.9m、深さ25~50cmを測る。柱穴1・2・3から礎板、柱穴4・5・6・7・9からは、柱根が検出された。東西柱穴1~3の礎板は、ほぼ東西方向に一直線上に並び、長さ25~40cm、幅10~15cm、厚さ約3~5cmを計測する。柱穴1・3・4・6の残存状況は良好で、径13~18cmの円形の柱根が検出されている。材質は不明。柱穴8~10の覆土からは、大量の炭化物と焼土が検出された。

〔遺物〕 1号土師器小片は底部に墨書きがあるが判読不明である。2号柱穴6、3号柱穴8から出土した环があり、甲斐型編年期に相当する。4号柱穴7から出土した环付甕脚であり、柱穴7から出土している。柱穴1~焼土塊・土師器小片・古墳時代土器片。柱穴3~焼土塊4点・須恵器小片2点・土師器小片。柱穴4~焼土塊・土師器・甕。柱穴5~焼土塊・土器3点。柱穴6~焼土塊・灰釉陶器・土師器・黒色土器。柱穴7~土師器小片・台付甕・甕。柱穴8~焼土塊・土器・土師器・皿。柱穴9~焼土塊・土師器・柱穴10~焼土塊2点・土師器小片。

(志村憲一)

第3節 溝

〈A区〉

1号溝（第1図）

〔位置〕 A-2・3グリッド

〔重複〕 Pit15・16・17を切り、Pit19に切られる。3号溝と重複する。

〔形状〕 長さ4.6m、幅0.86m、深さ約14cmを測る。

〔遺物〕 土師器小片多数を検出している。

2号溝（第1図）

〔位置〕 A-2・3グリッド

〔重複〕 Pit20を切り、Pit3・9に切られる。調査区際面に沿って、3号溝とは直角に交わる。

〔形状〕 長さ約6m、幅約0.22m、深さ約17cmを測る。

〔遺物〕 土師器小片を多数検出している。

3号溝（第1図）

〔位置〕 A-2グリッド

〔重複〕 1号・2号溝跡とは直角に交わる。

〔形状〕 長さ2.7m、幅0.43m、深さ約31cmを測る。

〔遺物〕 遺物は検出していない。

4号溝（第2図／図版6）

〔位置〕 A-4グリッド

〔形状〕 長さ2.7m、幅0.45m、深さ約11cmを測る。

〔遺物〕 土師器皿1点を岡化している。他、灰釉陶器1片と土師器小片多数を検出している。

5号溝（第2／図版6）

〔位置〕 A-2グリッド

〔重複〕 Pit22に切られる。

〔形状〕 長さ約3m、幅1.2m、深さ約18cmを測る。

〔遺物〕 土師器皿1点と台付甕の脚部1点を岡化している。他、古墳時代に属する土師器片を多数検出している。(山崎雅恵)

〈B区〉

6号溝（第3図／図版6）

〔位置〕 B-C-7グリッド

〔形状〕 N-12-Eに軸線をもつ。調査区際であり、規模等は不明であるが、現状長さ約4.3m、深さ約10cmを測る。7・9号溝とは平行する。

〔遺物〕 遺物は検出されていない。

7号溝（第3図／図版6）

〔位置〕 B-7・C-7グリッド

〔重複〕 9号溝を切る。

〔形状〕 N-15-Eに軸線をもつ。長さ約2.5m、幅0.15~0.4m、深さ5~10cmを測る。7・9号溝とは平行する。

〔遺物〕 土器小片を検出している。

8号溝（第3図）

〔位置〕 B-7・8・C-7・8グリッド

〔重複〕 9号溝を切る。

〔形状〕 N-16-Eに軸線をもつ。長さ約5.7m、幅0.15~0.5m、深さ3~10cmを測る。7・8号溝

とほぼ平行する。

〔遺物〕土器小片を検出している。

9号溝（第3図）

〔位置〕C-7～9グリッド

〔重複〕7・8号溝に切られる。11号溝との切り合い関係は不明。

〔形状〕S-76°-Eに軸線をもつ。長さ6.5m、幅約0.25～0.6m、深さ10cmを測る。9号溝と平行し、7・8・11号溝と直交する。

〔遺物〕須恵器片、土師器小片を検出している。

10号溝（第3図）

〔位置〕D-7、D-8グリッド

〔重複〕4号竪穴建物を切る。

〔形状〕S-68°-Eに軸線をもつ。現状長さ約1.7m、幅約0.2～0.4mを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

11号溝（第3図／図版6）

〔位置〕B-E-9グリッド

〔重複〕12号溝を切る。9号溝は同時期か。

〔形状〕N-14°-Eに軸線をもつ。上面が削平され、一部が消滅し、長さ約7mと3mに分かれれる。幅は0.4～1.5mを測る。9・12号溝と直交し、覆土が類似する。

〔遺物〕1は鉄釉の陶器製鉢である。内外面は暗赤褐色を呈する。口縁部は内湾し、5条のすり目が確認された。他に図化していないが、土師器小片を検出している。

12号溝（第3図／図版6）

〔位置〕C-9グリッド

〔重複〕11号溝に切られる。

〔形状〕S-76°-Eに軸線をもつ。西側はL字状に北に向かって曲がる。現状長さ約2.3m、幅約0.3m、深さ15cmを測る。9号溝と平行し、11号溝と直交する。

〔遺物〕1の灰釉陶器は猿投窯製の黒底90号窯式期の段皿である。図化していないが、須恵器片と土師器小片も出土した。

13号溝（第3図）

〔位置〕E-10・11グリッド

〔重複〕1号掘立柱建物を切る。

〔形状〕S-76°-Eに軸線をもつ。長さ約2.4m、幅約0.2～0.15m、深さ10cmを測る。

〔遺物〕土器小片を検出している。

14号溝（第3図）

〔位置〕E・H-11・12グリッド

〔重複〕15号溝と同時期。

〔形状〕N-15°-Eに軸線をもつ。長さ約12.4m、幅約0.4～0.8m、深さ約15～30cmを測る。15号溝とほぼ直交する。溝底部には径10cm以内のピットが多数検出され、砂の堆積が認められる。

〔遺物〕図化遺物なし。土器小片、灰釉陶器片を検出している。

15号溝（第3図／図版6）

〔位置〕F-10～13、G-12・13グリッド

〔重複〕14号溝と同時期。

〔形状〕S-73°-Eに軸線をもつ。東側で長さ7m、幅約0.3～2m、深さ約5～40cmを測る。西側は長さ約7m、幅約0.25～0.8m、深さ5～10cmを測る。東側では溝底部から径10cm以内のピットが多数検出された。

〔遺物〕1の灰釉陶器は、長頸瓶である。その他、土器小片、須恵器片・瓦質土器片を検出した。

16号溝（第3図）

〔位置〕E-12～14グリッド

〔重複〕18号溝を切る

〔形状〕S-85°-Eに軸線をもつ。長さ約6.3m、幅約0.3m、深さ約5～10cmを測る。

〔遺物〕土師器片・羽釜片を検出している。

17号溝（第3図）

〔位置〕B-C-14グリッド

〔形状〕N-10°-Eに軸線をもつ。長さ約3.6m、幅約0.2m、深さ約5～10cmを測る。

〔遺物〕土器小片を検出している。

18号溝（第3図／図版6）

〔位置〕C-F-14グリッド

〔重複〕16号溝に切られる。

〔形状〕南北方向に軸線をもつ。長さ約9.3mと4m、幅約0.5～1.5m、深さ約10～15cmを測る。

〔遺物〕1の环は内外面にススの付着が見られ、10世紀前半の所産と推定される。須恵器片・土鍬も検出した。

19号溝（第3図／図版6）

〔位置〕C-D-14グリッド

〔形状〕N-10°-Eに軸線をもつ。長さ約2.4m、幅約0.2～0.25m、深さ約5cmを測る。

〔遺物〕土師器片1点を図化している。甲斐型編年Ⅲ

期に位置づけられる。

20号溝（第3図）

〔位置〕 B-H-14グリッド

〔形状〕 N-13°-E に軸線をもつが、F-14グリッドからN-21°-E に若干軸線を変える。長さ約19mと2.4m、幅約0.3~1m、深さ約10~15cmを測る。

〔遺物〕 土製鉢・土師器小片・須恵器片・焼土塊を検出している。

21号溝（第3図）

〔位置〕 B-G-14グリッド

〔重複〕 22号溝との関係は不明。

〔形状〕 N-13°-E に軸線をもつが、F-14グリッドからN-21°-E に若干軸線を変える。長さ約21m、幅約0.35~0.7m、深さ約5~10cmを測る。

〔遺物〕 土製鉢・須恵器・土師器小片・焼土塊を検出している。

22号溝（第3図）

〔位置〕 E-G-14グリッド

〔重複〕 21号溝とは不明。

〔形状〕 N-21°-E に軸線をもち、21号溝と平行する。北側部分は21号溝と合流する。長さ約6m、幅約0.3~0.4m、深さ約5cmを測る。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

23号溝（第3図）

〔位置〕 F-13グリッド

〔形状〕 N-19°-E に軸線をとる。全長約2.2m、幅約0.3~0.45m、深さ約5~10cmを測る。

〔遺物〕 土器小片を検出している。

24号溝（第3図）

〔位置〕 E-15・16グリッド

〔重複〕 炭化物集中範囲1を切る。

〔形状〕 S-87°-E に軸線をもつ。西側は擾乱を受けているが、長さ約5m、幅約0.5m、深さ5~10cmを測る。北側の25号溝とは接していないが、ほぼ直交する。規模及び覆土に類似性が見られることから、同時期に存在したものと考えられる。

〔遺物〕 土器小片を検出している。

25号溝（第3図）

〔位置〕 D-16・E-16グリッド

〔重複〕 33号溝・炭化物集中範囲2を切る。

〔形状〕 磁北に主軸をとる。長さ3.5m、幅0.3~0.5m、深さ5~10cmを測る。

〔遺物〕 須恵器片・土師器小片を検出している。

26号溝（第3図-P）

〔位置〕 G-10グリッド

〔形状〕 N-9°-E に軸線をとるものと考えられる。蛇行しているが、長さ1.4m、幅0.4~0.5m、深さ5cmを測る。底部には砂粒の堆積が確認された。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

(志村憲一)

27号溝（第4図／図版6）

〔位置〕 E-8、F-8グリッド

〔重複〕 5号竪穴建物を切る。

〔形状〕 確認範囲で幅40cm、深さ12cmを測る。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

28号溝（第4図／図版6）

〔位置〕 C-G-8・9グリッド

〔形状〕 南・北両端は依存状況が悪く、重複関係、遺構範囲は明確でない。長さ約16m、幅約2.4m、深さ約60cmを測る。

〔遺物〕 土師器1点・土器片2点・灰釉陶器片点4点を図化している。他に土師器壺片・須恵器片を検出している。

(望月秀和)

29号溝（第4図）

〔位置〕 G-11・12、F-12、グリッド

〔形状〕 S-32°-E に軸線をとる。上面が削平され、残存状況は良好とはいえないが、全長約7.6m、幅約0.3~0.6m、深さ約5~13cmを測る。

〔遺物〕 須恵器片・土師器を検出している。

30号溝（第4図／図版6）

〔位置〕 B-H-13グリッド

〔重複〕 2・3号竪穴建物、31号溝を切る。32号溝は不明。

〔形状〕 北側はN-10°-E に軸線をとり、中央部からN-29°-E と若干西側へ曲がる。長さ約23m、幅1.1~1.4m、深さ25~70cmを測る。溝底部には、砂粒の堆積が確認され、北から南側への流水の痕跡が窺える。

〔遺物〕 磁器1点・土師器壺2点・須恵器片1点を図化している。1は中国邢州窯製である。2・3は壺。4の須恵器の胎土は暗赤褐色である。馬齒・綠釉陶器片も検出した。

31号溝（第4図）

【位置】 B～D-13グリッド

【重複】 1号竪穴建物・30号溝に切られる。

【形状】 N-19°-Eに軸線をとる。長さ約9.5m、幅0.4~0.6m、深さ10~15cmを測る。

【遺物】 土師器環小片を検出しており、底部回転系切痕が多く見られる。

32号溝（第4図）

【位置】 F-13-16グリッド

【重複】 30号溝不明。炭化物集中範囲1を切る。

【形状】 N-75°-Wに軸線をとる。擾乱を受けた部分もあり全長は不明であるが、東側から長さ約2.3m、0.8m、0.9m、幅約0.2~0.6m、深さ約20cmを測る。

【遺物】 緑釉陶器片、焼土塊を検出している。

33号溝（第4図）

【位置】 D-16-17グリッド

【重複】 ピット31は不明。

【形状】 L字状の溝である。延長約1.9mはN-14°-Eに軸線をとり、続く4.3mは屈曲してN-76°-Wに軸線を変える。幅約0.3~0.6m、深さ約15~25cmを測る。覆土及び周辺南西側から、炭化物・焼土が多く確認されている。

【遺物】 土師器小片を検出している。

34号溝（第4図）

【位置】 B-C-16グリッド

【形状】 N-13°-Eに軸線をとる。長さ約1.8m、幅0.2~0.4m、深さ約10cmを測る。

【遺物】 10世紀前半の土師器環小片を検出している。

(志村憲一)

〈C区〉

35号溝（第10図／図版6）

【位置】 J-18グリッド

【形状】 遺構のほとんどが擾乱を受けており、詳細は不明。36号溝跡と同一の溝とも考えられる。

【遺物】 土師器1点を図化している。

36号溝（第10図／図版7）

【位置】 H-I-17-18グリッド

【形状】 溝跡は、ほぼ90度に曲がるが、遺構のほとんどに擾乱を受けている。

【重複】 2号建物跡・1号埋甕と重複する。

【遺物】 須恵器1点・土師器環4点・置きカマド1点を図化している。

(山崎雅恵)

第4節 埋甕

埋甕（第10図／図版7）

【位置】 H-18グリッド

【形状】 上部を擾乱によって掘り込まれており、検出した部分は甕の体部から底部、約3分の1ほどである。平面形その他、造構の詳細は不明である。

埋甕の内部には炭化した米が詰まっている。一部、穂首の形も確認している。埋められたいた甕に重なるようにして、甕の口縁部分を何点か検出したが、体部とは接合しなかった。

【遺物】 須恵器甕1点・土師器環1点を図化している。

(山崎雅恵)

第5節 土坑・ピット

〈土坑〉

1号土坑（第1図）

【位置】 A-2グリッド

【形状】 径約66cmの円形の土坑である。確認面からの深さ約5cmと、浅い造構である。

【遺物】 土師器小片を検出している。

2号土坑（第1図）

【位置】 A-2グリッド

【形状】 径約60cmの楕円に近い掘り方の土坑である。

【遺物】 土師器小片を検出している。

3号土坑（第1図）

【位置】 A-2グリッド

【形状】 平面形は楕円形、長軸約53cm、確認部分で短軸約33cm、深さ約15cmを測る。

【遺物】 土師器小片を検出している。

4号土坑（第1図）

【位置】 A-2グリッド

【重複】 6号土坑を切る。

【形状】 平面形は楕円形、長軸約58cm、短軸44cm、確認面からの深さ約18cmを測る。

【遺物】 土師器小片を検出している。

5号土坑（第1図）

【位置】 A-4グリッド

【形状】 平面形は長方形、確認部分で長軸が91cm、短軸が78cm、確認面からの深さ14cmを測る。埋土は砂質の粘土層であり、ほぼ一気に埋積した造構と考えられる。

【遺物】 遺物は検出していない。

6号土坑（第1図）

【位置】 A-2グリッド

【重複】 Pit 7・12・21・4号土坑に切られる。

【形状】 平面形はほぼ円形、長径約52cm、深さ約19cmを測る。

【遺物】 土師器壺1片・土師器高环1点を図化している。

7号土坑（第2図）

【位置】 A-3グリッド

【形状】 平面形は方形を呈する。長軸2m、短軸1m、深さ約13cmを測る。

【遺物】 須恵器片1点他土師器片を検出している。

8号土坑（第2図）

【位置】 A-2グリッド

【形状】 直径約83cmの円形の土坑と考えられる。確認面からの深さ約10cmを測る。

【遺物】 土師器小片を検出している。

9号土坑（第2図）

【位置】 A-2グリッド

【形状】 平面形は不正形であり、長軸約1m、短軸72cm、深さ約10cmを測る。

【遺物】 遺物は検出していない。

(山崎雅恵)

10号土坑（第14図／図版8）

【位置】 F-13グリッド

【形状】 径約0.7m、深さ約7cmを測る。

【遺物】 土鍤1点を図化している。須恵器小片も検出している。

(志村憲一)

11号土坑（第13図／図版8）

【位置】 B・C-16・17グリッド

【重複】 14号土坑、15号土坑を切る。

【形状】 長径2.27m、短径1.87mの楕円形で、深さ83cmを測る。最下層の砂層部では、上層の粘質土がブロック状に混在し、地山層と同じ砂粒がマーブル状に混入していることから、人為的掘削と水の対流の痕跡と判断し、井戸跡と推定した。また、上層では造構範囲内から石や礫が出土し、墓坑の可能性も検討したが、下層で植物遺体の堆積が2層確認されたため、井戸廃棄後の自然埋没の過程で投げ込まれたものと推定される。

【遺物】 土師器壺1点・陶器片1点・小刀1点・籠状製品1点を図化している。1は古代末1期に

相当し、ヘラ調整ではなく、回転糸切痕が残る。2は陶器片で、渥美窯所産と推定される。外側は施釉され、内側は輪積み底や粗い調整痕がみられる。

【小刀と籠状製品】 小刀は、形状から平安時代末期の大和伝と考えられる。木製の柄部分が遺存した状態で検出され、全長31.1cm、刀身の長さ29.3cm、刃幅2.3cm、重さ88.07gを測る。柄の端部に刻みがあり、紐または布などで巻いていたものと推定される。柄材の片側は目釘孔が2箇所あり、二つの都材を合わせた下面が削りにより平坦に調整されていることから、目釘の打ち直し又は補修等が施されたと考えられる。同層から検出された籠状製品は、造構セクション上で確認された遺物であり、半裁した際に一部を欠損している。遺存部分の網目の構成は、全部が一定ではないものの、二本越え、一本潜り、一本通りが基調となっているようである。

12号土坑（第14図）

【位置】 B-9グリッド

【形状】 一部が調査区壁面にかかり、壁際の排水溝で上坑の一部を壊している。平面形はほぼ円形で、長径2.25m、深さ47.5cmを測る。上面は28号溝との重複か推定されるが、周辺から古銭、白磁片（岡版13-8・9）が出土するなど後世の擾乱を受けたことが確実である。

【遺物】 土師器小片を検出している。

(望月秀和)

13号土坑（第4図／図版8）

【位置】 B・C-10グリッド

【形状】 楕円形を呈し、長径0.75m、短径0.6m、深さ14cmを測る。

【遺物】 土師器壺片を検出している。

14号土坑（第13図）

【位置】 B・C-16グリッド

【重複】 11号土坑に切られる。

【形状】 不整形を呈し、長さ約2m、幅1.1m、深さ約15cmを測る。

【遺物】 土器小片を検出している。

15号土坑（第13図／図版8）

【位置】 C-16グリッド

【重複】 11号土坑に切られる。

【形状】 不整形を呈し、西側は11号土坑により擾乱を受ける。南北・東西約1.4m、最深20cmを測る。

上面に炭化物の堆積が確認され、多くの土師器壺・皿片を検出した。また遺構北東側で杭を2本検出した。先端には削り加工の痕跡があり、幅約7cm、厚さ約2cm、長さ55cmを測る。材質は不明である。

〔遺物〕土師器壺2点・皿2点を図化した。1は土師器皿で底部と体部下半にヘラケズリを施し、体部に逆位で「子北」と墨書きされている。3・4は外面に炭化物の付着がある。いずれも10世紀前半に位置づけられる。

(志村憲一)

16号土坑（第13図／図版9）

〔位置〕B・C-16・17グリッド

〔形状〕平面形は不整円形で、長径87cm、短径72cm、深さ10cmを測る。遺存状況が悪く、プランの把握が困難であったため、土器検出面の炭化層の広がりから遺構範囲を推定した。

〔遺物〕土師器壺1点・皿2点・鉢2点を図化している。すべて炭化層上のほぼ同レベルから検出されており、1と2、5と6はそれぞれが内面を合わせた状態で出土し、3と4は両間に据えられた状態で検出された。

1と5は土師器皿で、外面は回転糸切痕がわずかに残る。粗いヘラケズリが施されており、1は底面の平坦を欠いている。また内面に焼成後につけられた約2cmの削痕がみられる。2と6は土師鉢で、底部から胴部下半にかけて粗いヘラケズリが施されている。2は口縁部にスス、さらに内面で火を焚いた痕跡がみられる。3は土師器壺で古代末1期に相当する。成形は粗雑でヘラ調整痕はなく、底部は回転糸切により穿孔しており、器体は全体的に黒変している。4は小型壺で、約半分を欠損しており、体部下半にヘラケズリ、底端部に刻みがみられる。

遺物取り上げの際、土器覆土及び遺物検出面の炭化層を任意に採取し、フローテーションを実施した。その結果、遺物検出面の炭化層から炭化米が検出された。土器の配置や供伴関係、または上器を合わせる行為、炭化米の検出から、祭祀等の可能性が窺われ、遺構の性格が推測されるが、ここでは状況の報告に留めておきたい。なお、1と5については皿としたが、実測図は検出状況に合わせて図化・図示している。

(望月秀和)

17号土坑（第13図）

〔位置〕C-17グリッド

〔形状〕方形を呈し、長さ約0.9m、幅0.4m、深さ13cmを測る。

〔遺物〕土器小片を検出している。

18号土坑（第14図）

〔位置〕F-14グリッド

〔形状〕N-10°-Wに軸線をとる。東側は擾乱を受けているが、長さ1.3m、深さ10cmを測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

(志村憲一)

19号土坑（第14図）

〔位置〕H-18・19グリッド

〔重複〕不明遺構1を切る。

〔形状〕擾乱が半分以上に及び、平面形など詳細は不明である。埋土には焼土と思われる、褐色の土粒が多く混じっていた。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

20号土坑（第15図）

〔位置〕I-20グリッド

〔形状〕19号土坑と同じく半分以上に擾乱を受けており、平面形など詳細は不明である。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

21号土坑（第15図／図版9）

〔位置〕J-18グリッド

〔形状〕平面形はほぼ楕円形で、直径約1.16m、深さ約21cmを測る。埋土に若干の炭化米を含む。

〔遺物〕土師器壺を2点図化している。口縁部は玉縁化している。その他、須恵器片、土師器小片を検出した。

22号土坑（第15図）

〔位置〕J-19グリッド

〔形状〕遺存状態が非常に悪い。平面は楕円形を呈し、長軸約70cm、短軸55cm、深さ約7cmを測る。覆土は、炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

23号土坑（第15図）

〔位置〕K-19グリッド

〔形状〕平面形はほぼ円形で、直径約1.3m、確認面からの深さは約9cmと浅い。覆土は、炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕土師器壺1点を図化している。

24号土坑（第15図／図版9）

〔位置〕 K-19グリッド

〔形状〕 平面は円形を呈し、直径約98cm、確認面からの深さ約12cmを測る。覆土は、炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕 壺1点を図化している。小片であるが、折り返し口縁で、古墳時代に比定される。

25号土坑（第15図／図版9）

〔位置〕 K-19グリッド

〔形状〕 直径約32cmの円形の土坑である。深さ約6cmを測る。覆土は炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕 土師器環1点、羽釜1点を図化している。环、羽釜とともに甲斐型編年直期に相当する。

26号土坑（第15図）

〔位置〕 K-19グリッド

〔形状〕 平面形はほぼ円形で、直径約32cm、確認面からの深さ約6cmを測る。覆土は炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

27号土坑（第15図）

〔位置〕 K-19グリッド

〔形状〕 平面形はほぼ円形で、直径約76cm、確認面からの深さ約12cmを測る。覆土は炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

28号土坑（第15図）

〔位置〕 K-19グリッド

〔形状〕 平面形はほぼ円形、直径約96cm、確認面からの深さ約13cmを測る。埋土は、炭化物を非常に多く含む、粘性の弱い黒色層である。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

(山崎雅恵)

29号土坑（第17図／図版11）

〔位置〕 F-13グリッド

〔形状〕 方形周溝墓南西隅に位置する。東西径0.9m、南北1.15m、深さ25cmを測る。周溝の覆土と遺物に類似性が見られることから、周溝墓に関連する造構である。

〔遺物〕 20は碗である。S字腹片等、方形周溝墓と同時期の遺物を検出している。

(志村憲一)

〈ピット〉

Pit 1（第1図）

〔位置〕 A-2グリッド

〔形状〕 平面形は一部調査区外となるため、不明。径は約22cm、深さ約9cmを測る。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

Pit 2（第1図／図版9）

〔位置〕 A-2グリッド

〔形状〕 平面形は円形で、径約32cm、確認面からの深さ約22cmを測る。

〔遺物〕 土師器環口縁部を1点、須恵器片1点を図化している。

Pit 3（第1図）

〔位置〕 A-3グリッド

〔重複〕 2号溝を切る。

〔形状〕 平面形は円形、径約98cm、確認面からの深さ4cmを測る。Pit 4・5とともに柱穴列を構成する。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

Pit 4（第1図）

〔位置〕 A-3グリッド

〔形状〕 平面形は円形で、径約90cm、深さ約8cmを測る。Pit 3・5とともに柱穴列を構成する。

〔遺物〕 高环頭部の他、土師器小片を検出している。

Pit 5（第1図）

〔位置〕 A-3グリッド

〔形状〕 平面形は円形で、径約84cm、深さ約7cmを測る。Pit 3・4とともに柱穴列を構成する。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

Pit 6（第1図）

〔位置〕 A-2グリッド

〔形状〕 平面形は円形で、径約28cm、深さ約36cmを測る。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

Pit 7（第1図）

〔位置〕 A-2グリッド

〔重複〕 6号土坑を切る。

〔形状〕 平面形は不整円形で、長径約36cm、短径約26cm、深さ約22cmを測る。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

Pit 8（第1図／図版9）

〔位置〕 A-2グリッド

〔形状〕平面形は円形で、径約28cm、深さ約29cmを測る。

〔遺物〕灰釉陶器片1点を図化している。手付瓶の底部である。外面は釉薬が垂れ、底面近くに一条の筋が入る。猿投窯黒管90号窯式期～折戸53号窯式期に相当する。

Pit9（第1図）

〔位置〕A-2グリッド

〔重複〕2号溝を切る。

〔形状〕平面形は円形で、径約22cm、深さ約12cmを測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit10（第1図）

〔位置〕A-2グリッド

〔形状〕平面形は長円形で、長径約31cm、短径22cm、深さ36cmを測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit11（第1図）

〔位置〕A-2グリッド

〔形状〕平面形は円形、径約27cm、深さ約24cmを測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit12（第1図）

〔位置〕A-2グリッド

〔重複〕6号土坑を切る。

〔形状〕平面形は円形で、径約23cm、深さ約18cmを測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit13（第1図）

〔位置〕A-2グリッド

〔形状〕平面形は不整円形で、径約15cm、深さ約15cmを測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit14（第1図）

〔位置〕A-2グリッド

〔形状〕平面形は不整円形で、径約26cm、深さ約33cmを測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit15（第1図／図版8）

〔位置〕A-2グリッド

〔重複〕1号溝に切られる。

〔形状〕平面形は長円形で、長径約27cm、短径約20cm、

深さ約35cmを測る。

〔遺物〕須恵器小片、土師器小片を検出している。

Pit16（第1図）

〔位置〕A-2

〔重複〕1号溝に切られる。

〔形状〕平面形は不明。長径28cm、短径15cm、深さ約6cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit17（第1図）

〔位置〕A-2グリッド

〔重複〕1号溝に切られる。

〔形状〕平面形は不整円形で、径約20cm、深さ7cmと浅いピットである。

〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit18（第1図）

〔位置〕A-2グリッド

〔形状〕平面形は略円形で、径約26cm、深さ17cmを測る。

〔遺物〕遺物は検出していない。

Pit19（第1図／図版9）

〔位置〕A-2グリッド

〔重複〕1号溝を切る。

〔形状〕平面形は梢円形で、長径約20cm、短径約15cm、深さ18cmを測る。

〔遺物〕土師器皿を1点図化している。

Pit20（第1図）

〔位置〕A-2グリッド

〔重複〕2号溝に切られる。

〔形状〕平面形は梢円形で、長径46cm、短径36cm、深さ35cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit21（第1図）

〔位置〕A-2グリッド

〔重複〕6号土坑を切る。

〔形状〕平面形は円形で、径約32cm、深さ約30cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit22（第2図）

〔位置〕A-2グリッド

〔重複〕5号溝を切る。

〔形状〕平面形は円形で、径約32cm、深さ27cmを測る。

〔遺物〕土師器小片を検出している。

Pit23 (第2図)

〔位置〕 A-2グリッド

〔形状〕 平面形は不整円形で、径約32cm、深さ約33cmを測る。

〔遺物〕 土師器小片を検出している。

(山崎雅恵)

Pit24~32 表1参照。

Pit33 (第14図)

〔位置〕 B-12グリッド

〔形状〕 1号堅穴建物北側に位置し、円形を呈する。長径0.5m、短径0.45m、深さ10cmを測る。

〔遺物〕 上師器、縁軸陶器小片を検出している。

(志村憲一)

Pit34~47 表1参照。

第6節 方形周溝墓

方形周溝墓 (第17図、図版10・11)

〔位置〕 C-14、D-12・13、E・F-12~15グリッド

〔重複〕 30号溝・2号掘立柱建物・2号堅穴建物・3号堅穴建物に切られる。

〔形状〕 N-21~Eに主軸をとる。上面及び主体部は古代の遺構により削平を受けていた。規模は東西12m、南北9.2m、平面形は方形を呈する。周溝は北辺の長さ約11m、最大幅約1m、深さ10cm、西辺の長さ7m、最大幅1.8m、深さ15cm、南辺の長さ7.5m、最大幅1.5m、深さ30cmを測る。東辺は擾乱を受けているが、長さ9m、最大幅2.8m、深さ25cmを測る。南西隅と南東隅で一部切られるが、遺存状況からはブリッジなどの遺構に伴う施設であるか判断できなかった。北東隅には突出部があり、南北約3m、東西2.1m、深さ25cmを測る。この突出部は、北壁で方形周溝墓と同質の覆土の溝跡が確認され、さらに北側B-13グリッドの出土遺物と接合関係にあることから、北側に存在した周溝墓の溝とも考えられる。

〔遺物〕 壺10点、S字甕4点、小壺1点、高杯1点、ミニチュア土器1点を図化している。遺物は主に突出部(土器集中1、遺物1~11・15)と南溝東隅(土器集中2、遺物12・13・20)から検出された。検出した遺物は、すべて古墳時代初頭に比定される。

(志村憲一)

第7節 不明遺構

不明遺構1 (第14図)

〔位置〕 G-18・19、H-18グリッド

〔重複〕 19号土坑に切られる。

〔形状〕 遺構床面に、底面が緩やかなU字型となり、長さ約1.5m、幅32cm、確認面からの深さ約2~4cmを測る。南北方向に軸をもった3本の短い溝を検出した。東西方向にはほぼ80cmの間隔で平行に並んでいる。また、遺構の西側部分で、南北方向に軸をもつ同様の溝が1本、東西方向の溝と重複していた。

確認できた遺構範囲は、東西約4m、南北約1mの長方形であるが、東側にもう少し広がっていた可能性が高い。

〔遺物〕 遺物は、平安期の土師器小片のみ。他、遺構覆土から大量の炭化米を検出している。

不明遺構2 (第16図/図版12)

〔位置〕 K-20グリッド

〔形状〕 遺構上部は削られており、厚さ約6cmの炭化層が東西約4m、南北約3mの範囲に広がっていた。検出時には住居床面と考えていたが、遺存状態が悪く、部分的な調査に留まっているため、不明遺構として記述する。

不明遺構と遺構範囲を重なるようにして、東西4m、南北2m間隔で4本の杭を検出しているが、不明遺構との関連を判断できない。

〔遺物〕 灰釉陶器2点、須恵器1点、土師器9点、土師器皿2点、土師器蓋4点、羽釜2点を図化している。8~9の土師器片の墨書きは、小片のため判読できない。14の灰釉陶器は欠損部と施釉部分にかかり墨書きの判読は困難である。また内面に二次使用的痕跡がみられる。遺物は遺構東側のトレンチからまとめて検出された。

(山崎雅恵)

第8節 墓化物集中範囲

墓化物集中範囲1 (第4図/図版13)

〔位置〕 E・F-15~17グリッド

〔重複〕 32号溝に切られる。

〔形状〕 東西約6m、南北約7mの範囲に墓化物・焼土の広がりが見られる。部分的に緩慢はあるが厚さ0.1~0.2mほどの堆積が見られる。ピット・土坑等の遺構は確認されていない。

〔遺物〕 灰釉陶器碗1点、土師器皿1点、壺片1点、土師器羽釜1点、高杯1点を図化している。1は灰釉陶器碗で、底部高台内に判読不明の

墨書が記されている。折戸53号窯式期、10世紀前半に位置づけられる。2は土師器羽釜である。3は灰釉陶器壺の頸部で折戸53号窯式期、4は灰釉陶器皿で黒管90号窯式期に比定される。5は古墳時代高环脚部である。他に須恵器・土師器壺・炭化米を検出している。

炭化物集中範囲2（第4図／図版13）

【位置】D-15・16グリッド

【重複】2号掘立柱建物柱穴3にかかる。

【形状】東西約6m、南北約2mの範囲に炭化物・焼土の広がりが見られる。部分的に緩慢はあるが厚さ約10cmの堆積が見られ、2号掘立柱建物周辺では特に炭化物と灰の集中が確認された。

【遺物】土師器壺を図化している。

炭化物集中範囲3（第4図）

【位置】B-12グリッド

【形状】不整形であり、東西0.55m、南北0.35mの範囲に、厚さ2~4cmの炭化物が集中する。1号竪穴建物及びビット33に近接し、同時期の関連構造と考えられる。

【遺物】遺物は検出していない。

炭化物集中範囲4（第4図）

【位置】F-G-15グリッド

【形状】円形を呈し、径約0.4mを測る。炭化物の中に炭化米の混入が多い。

【遺物】遺物は検出していない。

第9節 遺構外出土遺物

遺構外からは古墳時代初頭、古代9世紀後半~10世紀代、中世の遺物が検出された。ここでは極めて残存状況が良好な遺物について図化を行い、主な遺物について図版番号順に記述する。

【図版13・14・15】

A区の遺物は1~6である。1の緑釉陶器は、猿投窯製である。5は陶器製擂鉢であり、A-3グリッドから出土した。同質の擂鉢がII号溝から出土している。

【図版6】

B区の遺物は7~22である。7は古墳時代の器台である。8の古錢は、北宋錢の「元祐通宝」である。9は中国製白磁皿であり、15世紀代に位置づけられる。12の天目茶碗は、中国貴州窯製である。10墨書き器は、体部に逆位に書かれており、判読不明。4号竪穴建物周辺から検出された。15の緑釉陶器は、黒管90号窯式期の猿投窯製であり、見込み部に四弁花の陰刻文様が施されている。2・3号竪穴建物の南側から出土した。

18の土錐は、長さ5.7cm、径2.3cm、孔径0.4cm、重さ29.3gを測定する。19~22の灰釉陶器は、黒管90号窯式期の碗と段皿であり、9世紀後半に位置づけられる。21の底部にある墨書きは油大とも読めるが、断定は難しい。9世紀後半に位置づけられる。20の丸瓦は赤褐色を呈し、厚さ21mmを測る。

C区の遺物は23~52（除46）である。23の須恵器は、35号清周辺で検出された。26の金属製品は鉄製である。釣り針状で断面は四角形を呈し、上面は扁平に加工されている。6号竪穴建物南側から近接して検出された。27の壺は、内外面に炭化物の付着が見られる。28~29の壺は、環体部に墨書きがあるが判読不明である。7号竪穴建物周辺から出土した。33須恵器は梅描波状文がみられ、外面は黒褐色、胎土は暗赤褐色を呈する。34~36は不明遺構2の東側から検出された。34の壺は、回転糸切痕が見られる。35は墨書き土器であるが、判読不明である。36の壺は口縁部にスヌの付着が見られる。37~45は、C区擾乱部周辺から検出された古墳時代の遺物である。37・38はS字彫である。37の壺は、上面に縱方向、下面は横方向の丁寧な磨きが見られる。42は高环である。43の台付甕脚部は、スヌの付着が見られる。45は碗である。46は環底部に「匁（東）」、47は環体部に「匁匁（大東）」と記された墨書き土器である。49の小型壺は、上部は横斜め方向、下部は横方向に、ヘラ磨きが見られる。50の緑釉陶器碗は、見込み部に陰刻文様が施され、猿投窯製の黒管90号窯式期に相当する。51は断面が四角形の鉄製品である。52は厚さ19mmの平瓦であり、赤褐色を呈する。

試掘時出土及び表面採取の遺物は6点を掲載した。1は試掘トレンチT-4で検出した墨書き土器であり、底部に「東大」と記されている。2は試掘トレンチT-1西側拡張部で検出した須恵器小壺であり、猿投窯の所産で8世紀後半に位置づけられる。3・4は試掘トレンチT-3の中央部から検出された。3の天目茶碗は瀬戸美濃系の所産で、古瀬戸後期様式IV期に比定される。4青磁碗は口縁下部に雷文帯があり、14世紀代の中國龍泉窯製と考えられる。5は試掘トレンチT-1西側拡張部で検出した土製の甕と考えられるが、時期等は不明である。6は調査区外北側で表面採取した安山岩製の五輪塔火輪である。

（志村憲一）

第5章まとめ

第1節 調査所見

A区

A区は極めて限られた範囲内の調査であったが、溝5条・土坑9基・ピット23基を検出している。

A区は、時期差に関しては明確ではないものの、全体の造構の切り合いなどから、2段階に分けて考えることができる。

1段階目は、4号溝・5号溝の他、造構は、ほとんど確認できない。遺物は古墳時代のS字甕などが主体であり、平面の形状から考えると、周溝墓の溝の一部とも考えられる。

2段階目は、1号溝・3号溝と周辺のピット群が存在し、Pit3・4・5を境として、西側に造構のほとんどが集中する。これに対して、A-3グリッド以東は、造構がほとんど検出されていない。Pit3~5が何らかの境となっているのだろうか。この段階は、出土した遺物から考えると、9世紀中頃から10世紀に収まる、平安期の造構群であろうと思われる。

全体を見てみると、断面図からもA-3グリッドあたりを境として、調査区東側はいずれの段階でも造構がほとんど検出されていない。造構が分布しない範囲はB区まで広がると思われるが、造構希薄地帯がどのような機能をもって広がっていたかは不明である。

(山崎雅恵)

B区

B区は約885m²と最も広範囲の調査を行った。地形は南と南東側へ緩やかに傾斜している。検出された造構は、竪穴建物5棟・掘立柱建物2棟・溝28条・土坑9基・ピット8基・炭化物集中範囲4箇所・方形周溝墓1基である。古墳時代前期・古代・中世の3時期に大別できる。古代に関しては、さらに細分化され数期の変遷が窺える。

古墳時代面からは方形周溝墓が1基確認されている。造構上面は古代の造構により削平され、周溝のみが検出された。出土遺物はS字甕など古墳時代初頭の遺物が多くを占める。遺物が大量に検出された北東側の突出部については、調査区北壁で周溝と同質の覆土が検出され、さらにB-13グリッド周辺から古墳時代の遺物が検出されていることから、北側に隣接が推定される別の周溝墓の周溝と考えられる。また29号土坑からも周溝墓と同時期の遺物が検出され、周溝墓に連する造構と考えられる。

古代は、9世紀後半から10世紀後半にかけての造構が見られ居住地域であった。主に28号溝西側の4・5号竪穴建物、北側の1号掘立柱建物と1号竪穴建物、

30号溝東側の2号掘立柱建物と2・3号竪穴建物、北東側の土坑集中部の主に4箇所に集中して見られ、南側からの造構・遺物の検出は少ない傾向にある。

1号竪穴建物の両側からは、漁労生活が行われていたことを窺わせる鉢が集中して検出された。甲斐型編年章・古代末I期の遺物が出上していることから、10世紀後半の住居と考えられる。

2号掘立柱建物周辺では、9世紀後半から10世紀前半にかけての造構の複雑な切り合い関係がみられた。3号竪穴建物、2号掘立柱建物、2号竪穴建物、30号溝の順番に4期の変遷が見られた。

4・5号竪穴建物は、甲斐型編年章期の遺物が検出されているが、4号竪穴建物では折戸53号窓式期、5号竪穴建物では黒石90号窓式期の遺物が出土している。このことから、10世紀前半と9世紀後半の時期差があることも考えられる。

1・2号掘立柱建物に関しては、規模は異なるが東西2間、南北3間である。特に1号掘立柱建物の柱穴からは、須恵器の甕片が多數検出されていることから、倉庫跡と考えられる。また両造構の柱穴底部で検出された礎板は、厚さ3~5cm程の板材であり、一部では柱材が遺存しており、礎板上に据えられた状況が確認された。礎板は、砂質土など不安定な地盤に建物を構築するための建築工法と考えられる。

B区南東側では炭化米を含む、炭化物集中範囲が3箇所見られる。特に炭化物集中範囲2は、2号掘立柱建物に掛かるところから、掘立柱建物の焼失に伴うものと推察される。

溝は、27~34号溝の8条が確認された。28・29・30・31号溝の4条は、南下する流水の痕跡が窺える。28号溝は、灰釉陶器が検出していることから9世紀後半以降に機能していたものと推察される。29・31号溝に関しては、延長線上にあることから同一の造構の可能性が考えられる。30号溝は、造構の切り合い関係から、10世紀後半以降に位置づけられる。この溝からは馬齒が1点検出された。

土坑は、10・13・14・15・16・17・18号土坑の7基が古代に位置づけられる。15号土坑は部分的に炭化物の集中が見られ、甲斐型編年章期の遺物が多數検出された。16号土坑では、10世紀後半の古代祭祀等を窺わせる鉢・蓋等が出土した。12号土坑に関しては、描鉢状を呈していることから、井戸の可能性も考えられる。また時期については、周辺から古錢・白磁等が出土していることから、中世段階まで下がる可能性も考えられる。

ピットは、Pit25~33と、古墳時代面からPit37~43の都合16基が確認されており、Pit33からは綠釉陶器が検出されている。

中世段階の造構は、古代の造構と比べて極めて少な

く、溝・戸状遺構・土坑1基が確認されているが、遺構の遺存状況は良好とはいえない。溝の機能及び時期の特定は困難な部分が多い。しかし水路・戸の遺構が検出されていることから、中世になると畑・水田等の耕作地になったものと考えられる。

調査区上層で確認された、南北方向の6・7・8・11・14・17・19・20・21・22号溝は、N-12°-E-N-16°-Eとはほぼ同軸線上にある。また東西方向の9・12・13・15号溝は、上記南北方向の溝と直交し、S-73°-EあるいはS-76°-Eの軸線を持つ。この東西・南北方向の溝はほぼ同一面に位置することから、同時期に存在した可能性が高い。時期の特定については、溝からの遺物の検出が極めて少ないため困難ではある。しかし11・15・20・21号溝からは、陶器製の擂鉢・土製擂鉢・瓦質土器が検出されていることから、中世段階の遺構である。さらに上記11号溝に直交する9・12号溝と、14号溝に直交する15号溝に関しては、覆土に類似性が見られることから同時期の遺構と考えられる。14・15号溝は、溝底部に砂粒の堆積が確認された。さらに調査段階において数箇所において、杭の痕跡が発見されたことから、水路として機能していたものと考えられる。6・7・8号溝はほぼ同規模であり、等間隔に並びほぼ同軸線状にあることから、畑の戸と推察される。

11号土坑は擂鉢状の井戸であり、平安期末と推定される小刀と渥美窯製の陶器片が出土している。検出された範囲製品については、今後の調査研究により器種等が解明されるものと考えられる。出土遺物から中世初頭の12世紀代まで遡る遺構と考えられる。

(志村憲一)

C区

C区からは、竪穴建物2棟・溝2条・埋甕1基・土坑11基・ビット3基・不明遺構2基を検出している。

C区は調査区の地形が顯著にアップダウントしており、南東角が全体に比べて極端に高い。J-19グリッド周辺は若干低くなるが、北東方向に向かって再び緩やかに高くなっている。南東傾斜面から、木根痕を検出している。主な遺構は地形的に高くなる、この南東角、北東側から検出している。

調査区北東側のほぼ全ての遺構覆土には多量の炭化米が含まれていた。炭化米の集中区は、調査区北東の一画で、不明遺構1の周辺である。不明遺構1は、検出時、表層部分が削られてほとんど覆土がない状態であったが、ここからは、まとまつた炭化米と浅いU字型の掘り込みを確認している。あるいは倉庫のような建物の基礎跡とも考えられる。

北東側からは、この他に6号竪穴建物、7号竪穴建物、35号溝、36号溝、埋甕などの遺構を検出している

が、各遺構の切り合い関係は明確なものではない。

この他、特記することとして、H-19、I-19グリッドにまたがる擾乱の南側、6号竪穴建物の90cm余り下から、まとまつた古墳時代前期の遺物（岡版14-37-45）を検出している。擾乱西側の断面観察では、36号溝下面から約40cm余りの地点で、溝底の落ち込みを確認しているが、北側及び東側ではこれを確認できなかったことから、溝は西側の落ち込み確認地点から、大きく南側に曲がっていると考えられる。6号竪穴建物下から出土した遺物はこの溝に属すると考えられ、ここに方形周溝墓のような大型の遺構が存在していた可能性が高いと思われる。

調査区南東角からは上坑群、他不明遺構2を検出している。

土坑群は、埋土に非常に多くの炭化物を含んでおり、一様に含水率が高かった。不明遺構2の断面観察用のトレンチから判断するに、不明遺構2とは同時期の遺構と考えられる。

不明遺構2は、表面部分が削られており、遺存状態は悪かったが、検出時には、ほぼ水平に堆積した厚さ約2cm前後の炭化層が露出していた。これを住居床面と考えることもできよう。

不明遺構2に重なるようにして、杭を4本検出しているが、これを不明遺構2に伴う上層構造の柱と考えるには、間隔が狭いこと、不明遺構2の大きさに比して側柱しかないことが不自然なこと、遺構に伴う明確な遺物を検出できなかったことから、時期、機能、その他不明遺構2との関連について、判断できなかった。

全体的にみて、C区で検出された遺構は、時期的には、ほぼ9世紀中頃から10世紀中頃の範囲内に収まるものが中心であり、平安期に主に居住域として利用されていたと考えられる。

平安期の遺構の下にはB区に統き、方形周溝墓が存在していた可能性が高い。

(山崎雅恵)

第2節 調査の成果と今後の課題

伝説によると、太古甲府盆地は湖であり、富士川の禹瀬を開削してから盆地中央部に人の集住が行われるようになったとされる。現在もこの伝説がまことしやかに語られ、今まで盆地底部の遺跡は極めて少なく、発掘調査も数例しかない状況であったため、盆地底部の古代の様相については謎であった。

しかし、今回の調査で古墳時代から中世にかけての遺構・遺物が検出されたことは、盆地底部における遺跡空白地域を考える上において重要な発見であった。ここでは、各時代ごとに若干の考察を行いまとめしたい。

(1) 古墳時代

甲府盆地の古墳時代の遺跡は、盆地縁辺部に多く、盆地底部には遺跡は少ない。チクヤ遺跡周辺には、藤塚、京塚、原塚などの古墳や、朝氣遺跡、二又遺跡、淵之上遺跡などの集落や散布地が知られているのみであった。しかし、本遺跡において、古墳時代初頭の方形周溝墓が検出され、盆地底部に初めて同墓制が確認された。

検出された周溝墓は、東西11×南北9mの中規模の周溝墓であり、さらに北側には、周溝を接して1基存在した痕跡が確認されている。またA区5号溝及びその周辺、C区の擾乱内からも古墳時代初頭の遺物が検出されている。これらのことから、調査区周辺一帯は古墳時代初頭における墓域であったと考えられる。

(2) 古代

古代は9世紀後半から10世紀代に集落が営まれていた。遺構はA区西側、B区西側及び北側、さらにB区中央部からC区にかけて集中していた。平成4年度に対岸で行われた試掘調査地点においても墨書土器などの遺物が検出されていることから、広範囲に集落は営まれていたものと考えられる。B区の中央部からC区にかけては、炭化物及び焼土の堆積が見られた。特にC区では遺構の多くから炭化物が確認されている。この一帯は、火災に遭ったものと考えられる。さらに上面にやや粒子が粗い黄褐色の砂が、20cm以上の厚さで堆積しているのが確認された。当測定区は集落として、9世紀後半に出現し、10世紀前半から中頃にかけて最盛期をむかえたものと考えられる。そして10世紀後半に火災、さらに洪水と自然災害により集落としての存続が不可能となり、消滅したのではないだろうか。

① 古代の遺構

検出された主な遺構は、竪穴建物7棟、掘立柱建物2棟、溝、土坑、不明遺構2基である。竪穴建物の多くは東壁の中央部又は南側にカマドを持つ。

主な遺構は、甲斐型上器編年Ⅷ～古代末1期の出土遺物が検出されている。これらの遺物から遺構の時期をとらえると3時期の変遷が窺われる。

9世紀後半

3号竪穴建物

10世紀前半

2号竪穴建物、4号竪穴建物、5号竪穴建物、6号竪穴建物、7号竪穴建物、2号掘立柱建物、15号土坑

10世紀後半

1号竪穴建物、30号溝、16号土坑

② 出土遺物

出土遺物は、土師器壺・皿・甕・置きカマド・羽釜・墨書き土器・上鍤・瓦・須恵器・灰釉陶器・綠釉陶器・中国青瓷白磁碗・砥石・金属製品・炭化米・馬齒などが出土した。

1号竪穴建物で集中して検出された土鍤は、県内で出土した平安期の土鍤とほぼ同一の形態である。10世紀後半以降、付近の河川で投網などの漁労生活が営まれていたことを窺わせる遺物である。

墨書き土器は32点検出された。土師器・灰釉陶器の底部と体部に記され、体部に書かれたものは逆位が多い。墨者は、「日奉日」・「東大」・「子北」・「H」・「□□(油大)」などの文字、「×」等の記号的な墨書、則天文字と考えられる「九」などが検出されている。特に建物跡における出土が多く見られる。1号竪穴建物からは2点、2・3号竪穴建物9点、6号竪穴建物3点、7号竪穴建物1点、1号掘立柱建物1点、2号掘立柱建物1点である。またC区不明遺構2からも4点検出されている。2号竪穴建物カマド近辺では、「日奉日」と記された墨書き土器が出土した。文字は吉祥句と考えられ、祭祀的意味で使用された可能性も考えられる。またこの2・3号竪穴建物からは、「東大」2点、「東□」などの墨書が検出されている。県内では一宮町の大原遺跡などからの検出例が確認されている。油大とも判別できる墨書き土器については、濁川下流に位置する油川という地名との関連も考えらるが、現段階においては想像の域を出ない。

灰釉陶器は碗・段皿・手付瓶・長頸瓶・綠釉陶器は碗・陰刻文様の碗などが検出された。また圓化は行ってはいないが、調査区外からは綠釉陶器の素体が1点出土している。時期については、黒釜90号窯様式から折戸53号窯様式の製品である。9世紀後半から10世紀前半にあたり、集落の存続時期と符合する。三河・遠江窯系の製品は見あたらず、いずれも琅投窯など尾張北東部の製品である。東山道経由で搬入されたことも考えられるが、現段階においては不明である。また1

点のみであるがPit33から近江系と考えられる絞釉陶器碗も出土した。

瓦は遺構外から2点検出された。いずれも赤褐色を呈する丸瓦と半瓦の小片である。濁川上流には国分寺に瓦を供給した川田瓦窯跡が位置することから、上流から流されてきたものと考えられる。また、瓦を使用した施設が存在していた可能性も否定できない。

炭化米は、B区東側からC区にかけて多く検出された。特にC区の埋蔵構造やその周辺一帯から集中して見られた。この近辺に倉庫などの遺構が存在することを窺わせ、9・10世紀には集落周辺において稻作が行われていた可能性が高い。

(3)中世

中世は、12世紀から16世紀代にかけての遺構・遺物が確認された。遺構としては源実業製の陶器片と小刀が検出された11号土坑以外は、水路・畝など農業生産の痕跡を示す遺構である。遺物は極めて少ないがB区北側にまとまっている。北宋銭、14~15世紀代の中国製天目茶碗・青磁碗・白磁皿など、遠隔地との流通を示す遺物が出土している。また調査区南側には河川改修により度数移動をしているが、15世紀代前半の安山岩製の六地藏石像が祀られていた。さらに以前調査区北側の水路凌漬の際に、五輪塔などの部材が多く発見されている。以上のことから調査区北側一帯に中世遺構の広がりがあるものと考えられる。貿易陶器等舶載品の出土遺物から、富裕層の屋敷や城館、または交易の場が存在していた可能性も考えられる。

中世この地域一帯は、一蓮寺の所領であったことが一蓮寺文書から確認される。今回の調査ではこの所領を裏付けることはできなかったが、出土遺物などから16世紀代まで栄えていたことが確認されている。この濁川流域には、落合氏館跡、小瀬氏館跡の城館跡、土尾遺跡などが知られている。また笛吹川と濁川の合流地点には高室氏館跡、上流には武田信虎が築いた川田館跡が位置し、中世の遺跡が見られる。甲斐国における舟運は、江戸時代初頭に幕府の命により京都の豪商角倉了以が富士川の開削を行ってから始まったとされているが、中世段階から濁川など内陸河川も交通路として機能していたことが十分考えられる。またデクヤ遺跡北側には、甲斐から駿河へ通じる古道の若彦路が位置していたことから、調査区周辺は若彦路の陸上交通と河川交通の接点として、栄えていたことも考えられる。

(4)近世以降

近世から現代にかけては、1.5m以上の土砂の厚い堆積が確認されている。元禄7年(1694)には、代官桜井孫兵衛により、堤防を築き濁川の流れを笛吹川に合

流させるという大規模な治水事業が行われた。さらに昭和40年代にも河川流路の改修が行われている。近年の台風でも調査区北側が冠水するなど、太古から現在に至るまで水害に悩まされた地域である。

おわりに

デクヤ遺跡は、甲府盆地底部の歴史景観を解明する上で重要な遺跡であると言えよう。しかし厳しい条件の中での調査であったため、遺跡の全体像を捉えることが困難であった。特に遺構が集中して炭化物の堆積が多くみられたC区については、狹隘な調査区であり、遺構の性格等を捉えることに支障をきたした。また大量に検出された炭化米等の植物遺体については、平安期の生産活動及び食生活の実態を知る上で重要である。

今回の調査で現地表下2mと深い位置から確認されたことから、盆地部の遺跡空白地帯において遺跡が発見される可能性は十分あるため、開発事業の際は注意が必要であると考えられる。

文末となったが、夏の残暑にはじまり、秋の長雨さらには厳しい寒さの中発掘調査に従事していただいた方々と、整理作業に協力をいただいた方々に、感謝を申し上げたい。

参考・引用文献一覧

- ・宮町遺跡調査会他 1990 「大原遺跡発掘概報」
甲府市市史編さん委員会 1989 「甲府市史史料編第1巻 原始・古代・中世」
甲府市市史編さん委員会 1991 「甲府市史通史編第1巻 原始・古代・中世」
甲府市市史編さん委員会 1992 「甲府市史通史編第2巻 近世」
甲府市市史編さん委員会 1993 「甲府の石造物」
甲府市教育委員会 1992 「甲府市遺跡地図」
山梨県考古学協会 1992 「甲斐型土器—その編年と年代—」 第1回研究集会資料
韮崎市教育委員会他 1992 「宮の前遺跡」
森原明廣 1994 「山梨県地域古代末期の土器様相—「甲斐型土器」の消滅とその後—」
「丘陵」第14号 甲斐丘陵考古学研究会
平凡社 1995 「山梨県の地名」日本歴史地名大系19
山梨県埋蔵文化財センター 1996 「狐原遺跡」
西田町遺跡発掘調査団 1997 「西田町遺跡調査報告書」
山梨県 1998 「山梨県史資料編1 原始・古代1考古(遺跡)」
山梨県 1999 「山梨県史資料編2 原始・古代2考古(遺構・遺物)」
齋藤孝正 2000 「越州窯青磁と綠釉・灰釉陶器」至文堂
山梨県 2001 「山梨県史資料編3 原始・古代3考古(文献・文字資料遺)」
仙台市宮沢遺跡保存館他 2001 「編む・組む一技の考古学—地底の森ミュージアム」
平成13年度特別企画展
大坪遺跡発掘調査会他 2002 「大坪遺跡—平成12年度調査地点の報告—」
山梨県埋蔵文化財センター 2002 「久保田・道々芽木遺跡」

土坑一覧

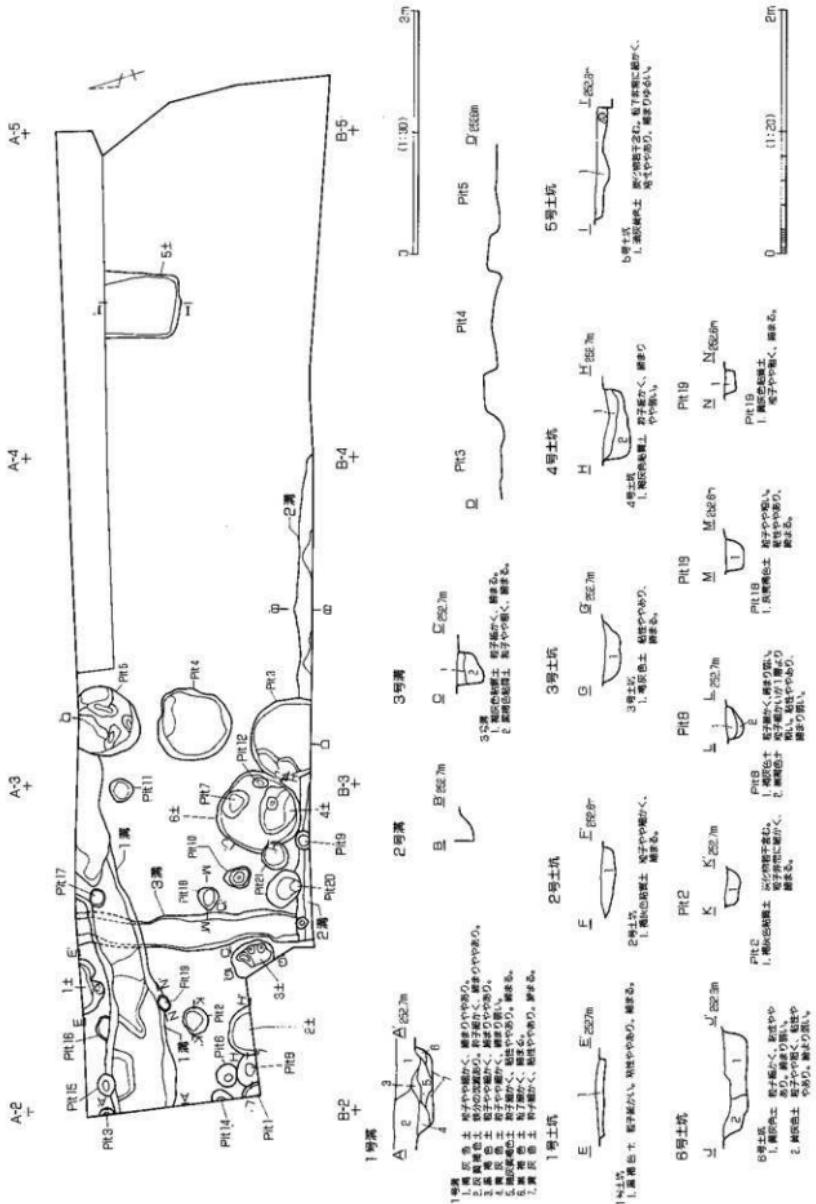
遺構名	平面形態	長径	短径	深さ	備考
1号土坑	円形	66.0	(32.0)	4.7	
2号土坑	略円形	60.0	(30.0)	8.4	
3号土坑	椭円形	53.0	(36.0)	15.0	
4号土坑	椭円形	58.0	44.0	17.5	6号土坑を切る
5号土坑	長方形	(91.0)	(78.0)	14.2	
6号土坑	円形	52.0	—	19.0	Pit7, 12, 21, 4号土坑に切られる
7号土坑	方形	192.0	(104.0)	12.8	
8号土坑	円形か	83.0	(38.0)	98.0	
9号土坑	不整形	101.0	72.0	10.1	
10号土坑	小椭円形	70.0	68.0	9.3	
11号土坑	椭円形	227.0	187.0	83.0	
12号土坑	略円形	225.0	(140.0)	47.5	
13号土坑	椭円形	75.0	60.0	14.0	
14号土坑	不整方形	200.0	110.0	15.0	
15号土坑	不整形	140.0	140.0	20.0	
16号土坑	略円形	87.0	72.0	10.0	
17号土坑	方形	90.0	40.0	13.0	
18号土坑	—	130.0	(10.0)	—	
19号土坑	—	236.0	186.0	6.0	不明遺構2を切る
20号土坑	—	110.0	—	14.0	
21号土坑	椭円形	116.0	—	21.0	
22号土坑	椭円形	58.0	—	7.0	
23号土坑	円形	131.0	—	9.0	
24号土坑	円形	98.0	—	12.0	
25号土坑	円形	52.0	—	8.0	
26号土坑	円形	32.0	—	6.0	
27号土坑	円形	76.0	—	12.0	
28号土坑	円形	96.0	—	13.0	
29号土坑	不整円形	115.0	90.0	25.0	

(単位: cm)

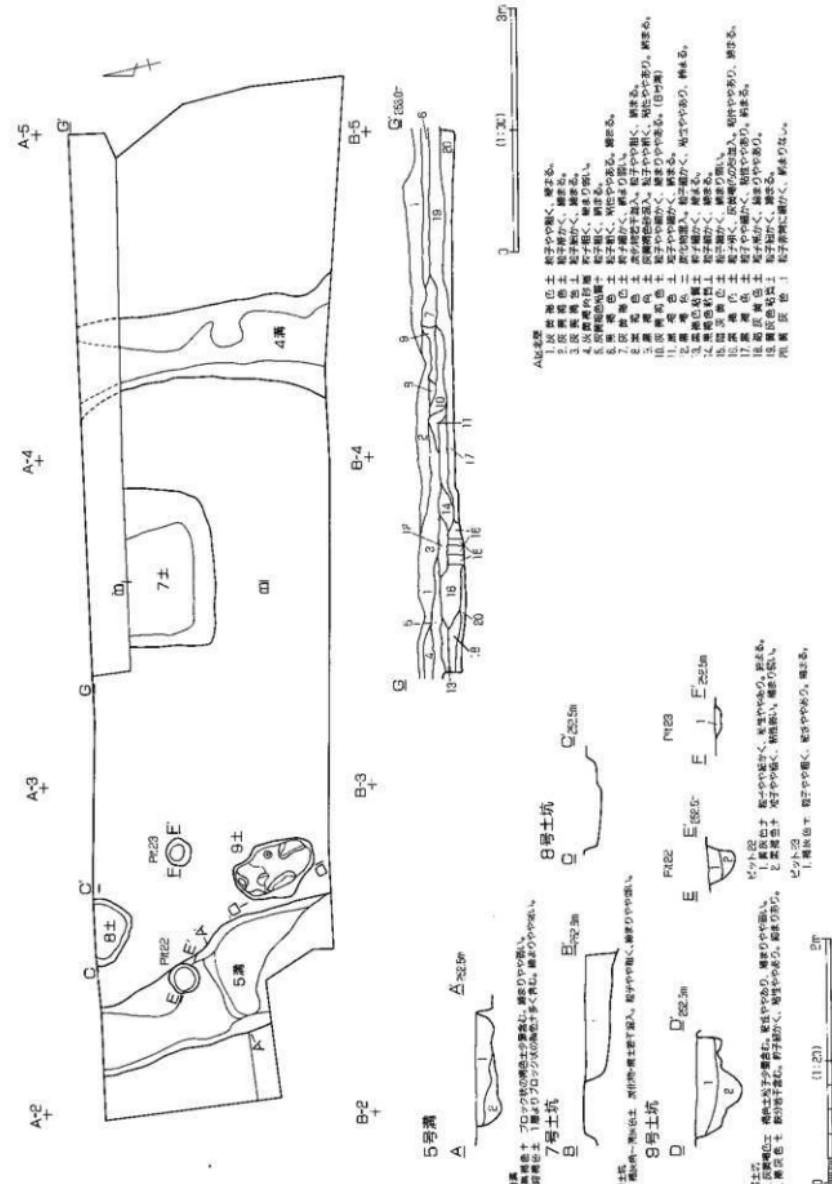
ピット一覧

遺構名	平面形態	長径	短径	深さ	備考
Pit 1	不明	(22.0)	(22.0)	92.0	
Pit 2	円形	32.0	—	22.2	
Pit 3	円形	98.0	—	8.4	2号溝を切る
Pit 4	円形	90.0	—	8.4	
Pit 5	円形	84.0	—	67.0	
Pit 6	円形	28.0	—	36.0	
Pit 7	不整円形	31.0	22.0	36.1	6号土坑を切る
Pit 8	円形	28.0	—	29.4	
Pit 9	円形	22.0	—	11.5	2号溝を切る
Pit 10	長円形	31.0	22.0	36.1	
Pit 11	円形	27.0	—	24.2	
Pit 12	円形	23.0	—	18.3	6号土坑を切る
Pit 13	略円形	(15.0)	—	15.2	
Pit 14	略円形	(26.0)	—	33.1	
Pit 15	長円形	27.0	21.0	34.5	1号溝を切られる
Pit 16	小円形	(28.0)	(15.0)	6.3	1号溝を切られる
Pit 17	略円形	21.0	—	6.8	1号溝を切られる
Pit 18	略円形	26.0	—	16.9	
Pit 19	椭円形	21.0	15.0	17.5	1号溝を切る
Pit 20	椭円形	46.0	36.0	34.4	2号溝を切られる
Pit 21	円形	32.0	—	30.5	6号土坑を切る
Pit 22	円形	36.0	—	26.8	5号溝を切る
Pit 23	略円形	32.0	—	23.3	
Pit 24	円形	27.0	—	—	
Pit 25	円形	42.0	—	7.0	
Pit 26	円形	43.0	—	—	
Pit 27	円形	32.0	31.0	—	
Pit 28	椭円形	52.0	45.0	—	
Pit 29	円形	20.0	—	9.4	3号壁穴内
Pit 30	椭円形	40.0	32.0	13.1	3号壁穴内
Pit 31	椭円形	55.0	46.0	28.0	
Pit 32	円形	31.0	—	8.9	
Pit 33	円形	50.0	45.0	10.0	
Pit 34	円形	44.0	—	15.0	
Pit 35	円形	51.0	—	10.0	
Pit 36	円形	21.0	—	13.0	
Pit 37	略円形	52.0	38.0	14.7	方形周溝帯を切る
Pit 38	不整形	50.0	27.0	29.7	
Pit 39	円形	22.0	—	12.3	
Pit 40	円形	24.0	—	19.4	方形周溝帯を切る
Pit 41	略円形	61.0	43.0	17.0	
Pit 42	不整形	52.0	39.0	15.9	
Pit 43	略円形	34.0	28.0	34.1	方形周溝帯を切る

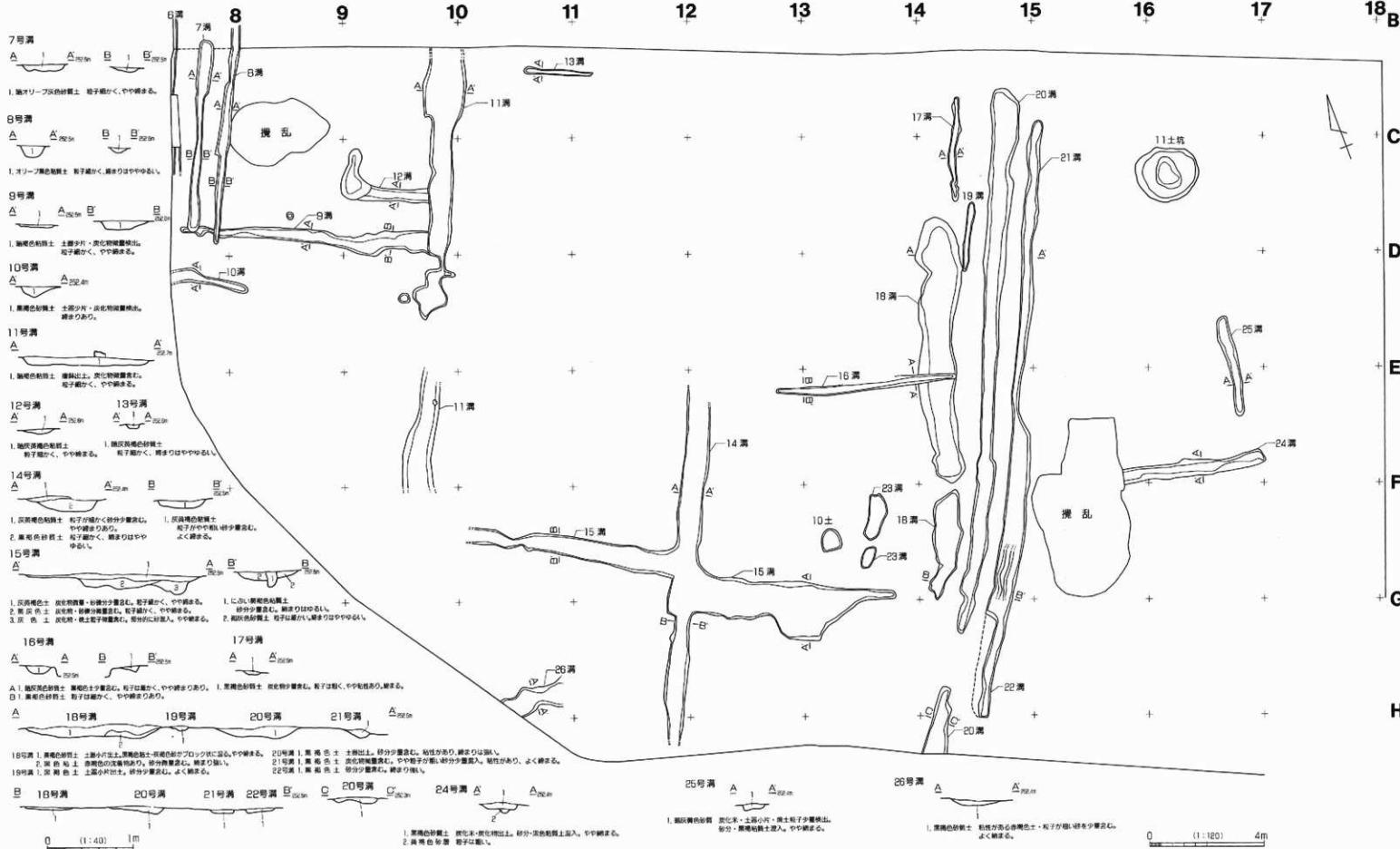
(単位: cm)



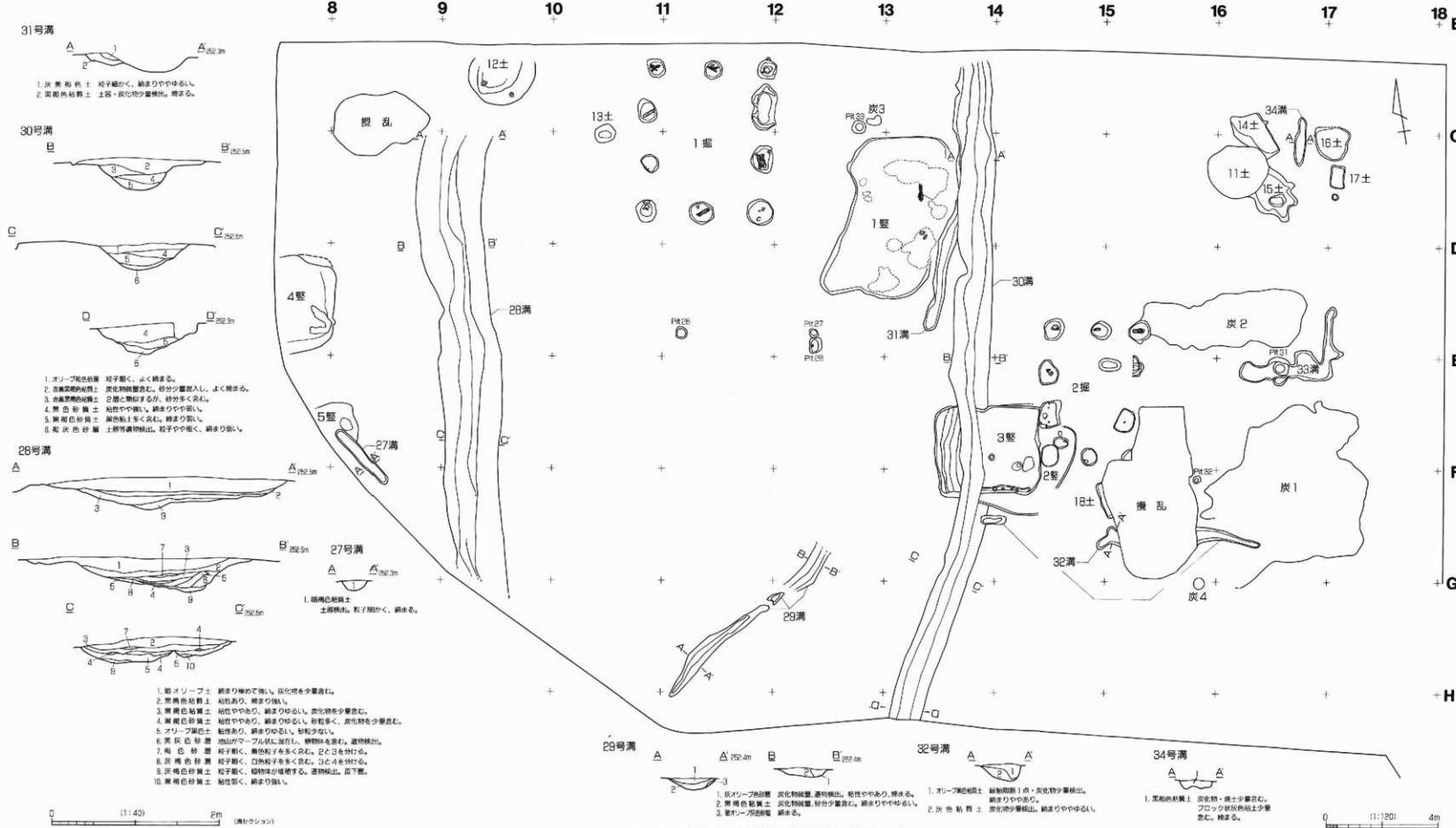
第1圖 A區平面圖(1) ～3號溝、～6號主坑、pit 1～2



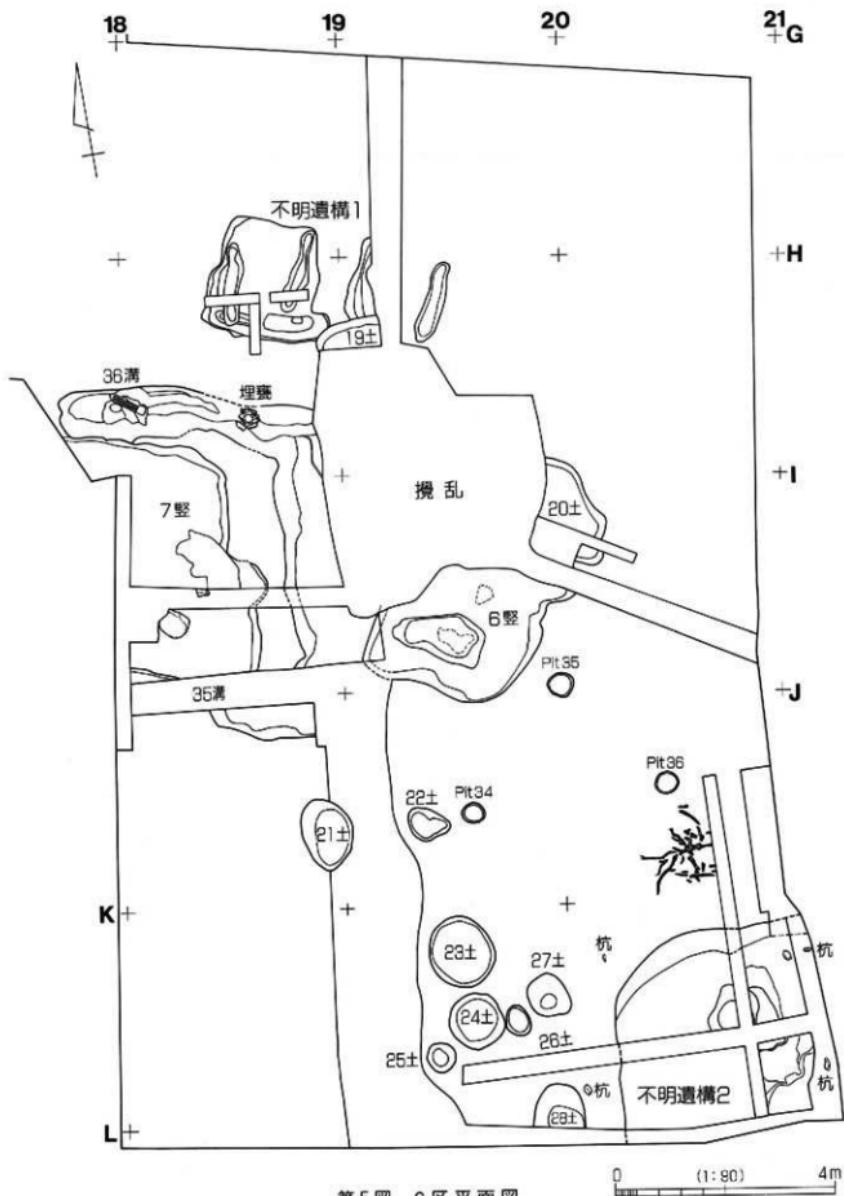
第2図 A区平面図(2) 4. 5号溝、7~9号土坑、Pit 22, 23



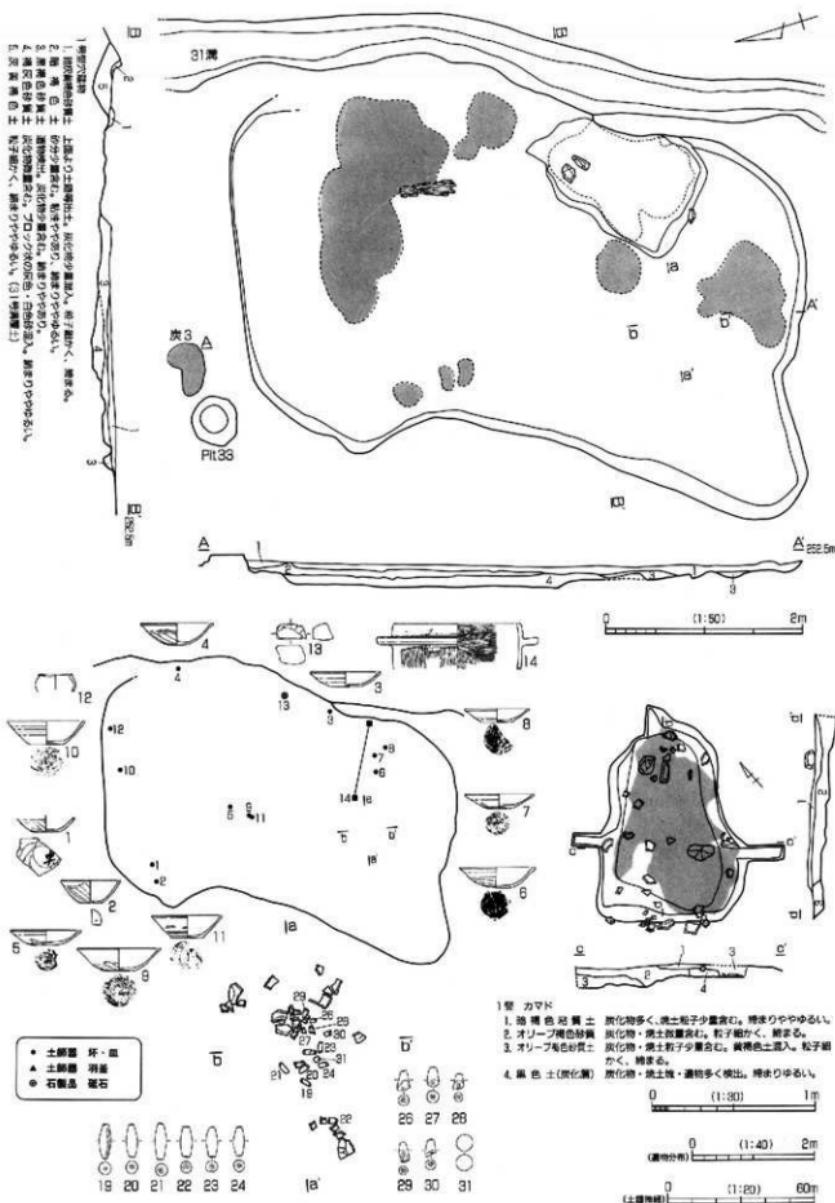
第3図 B区平面図(1) 16~26号溝



第4図 B区平面図(2) 27~34号溝、炭化物集中範囲1~4

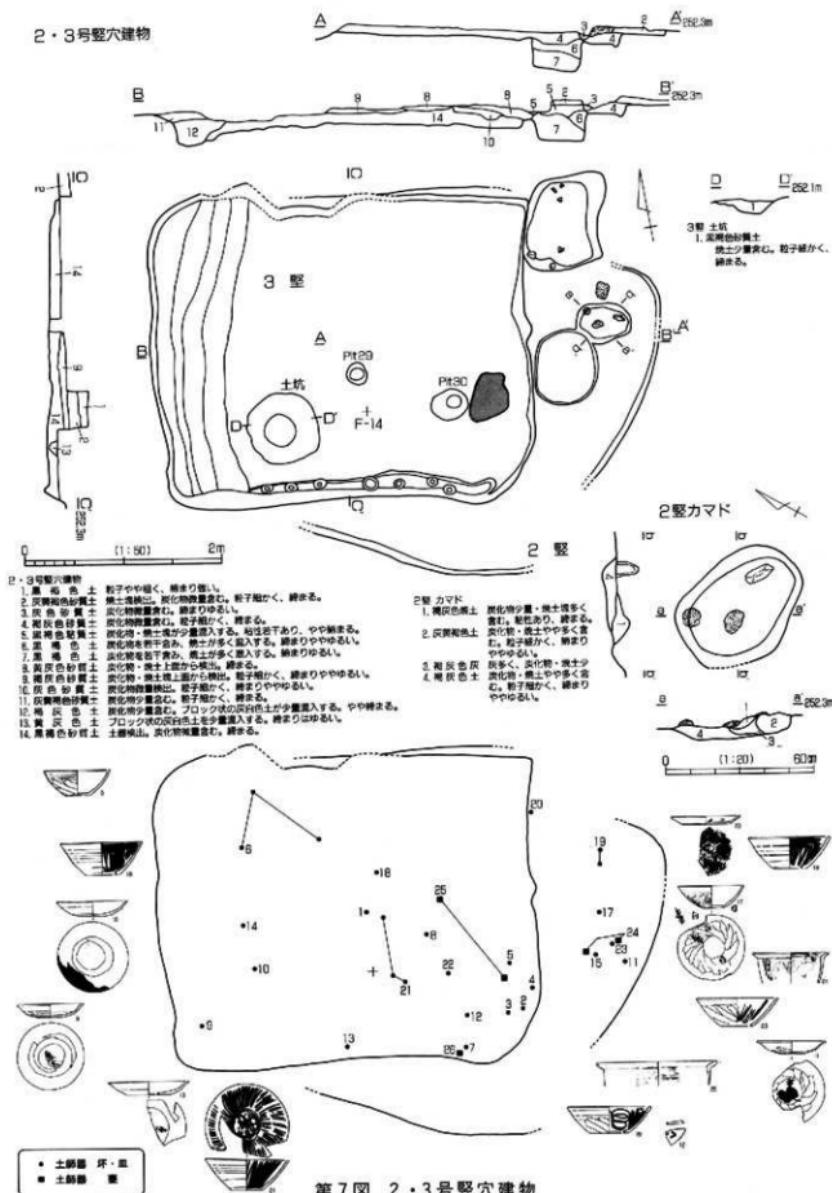


第5図 C区平面図

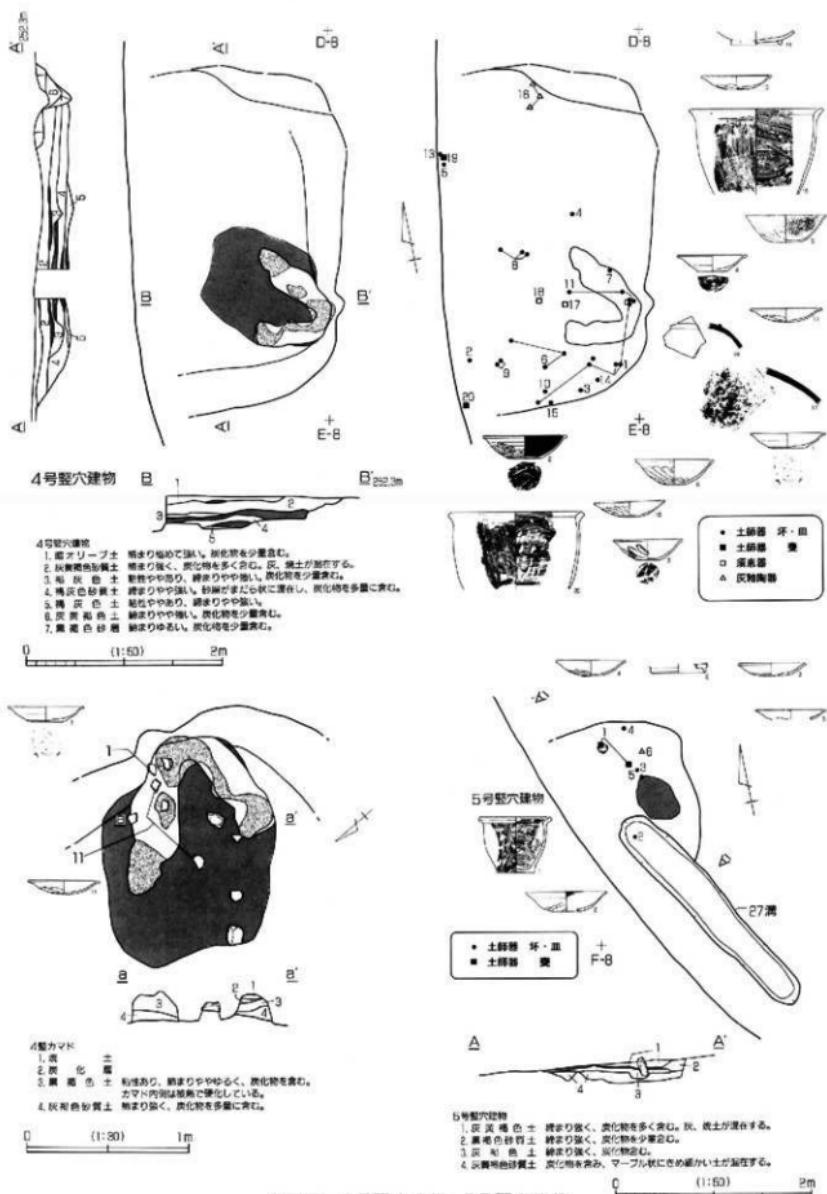


第6図 1号竖穴建物

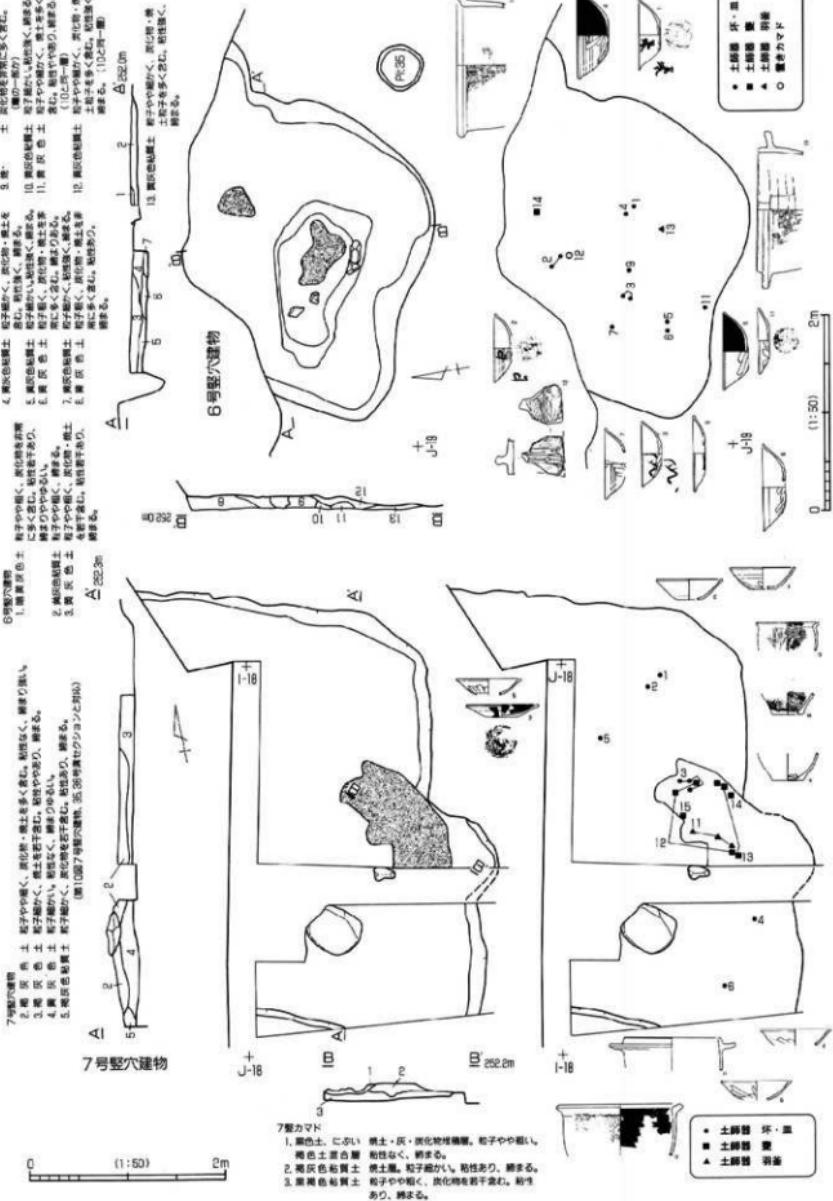
2・3号竪穴建物



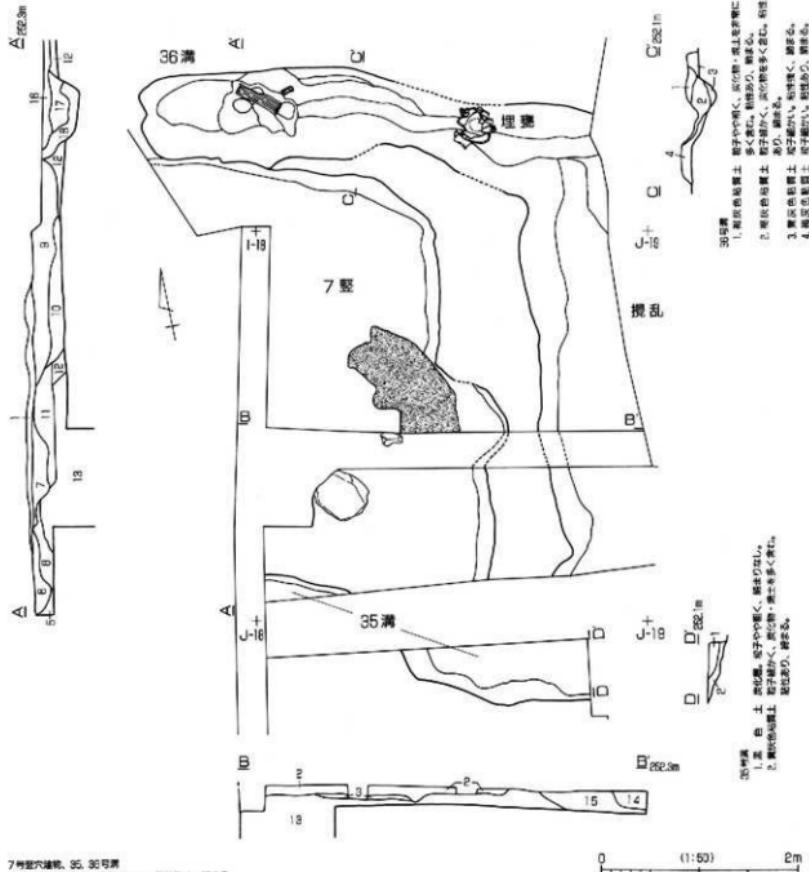
第7図 2・3号竪穴建物



第8図 4号竖穴建物、5号竖穴建物



第9図 6号堅穴建物、7号堅穴建物

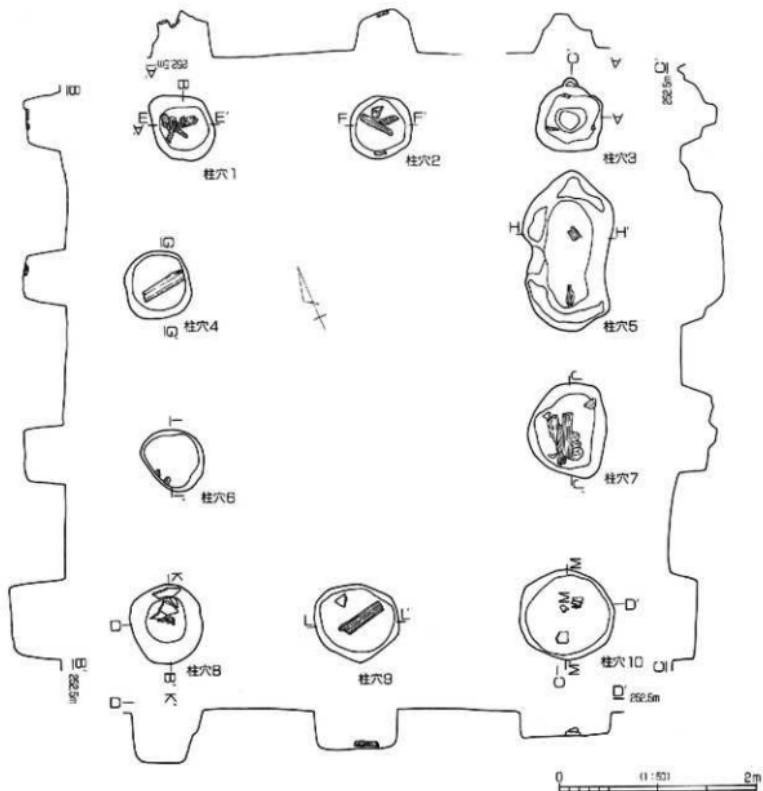


7号竪穴建物、35、36号溝

1. 黄灰褐色質土 粒子細かい。粘性強く、緻まる。
2. 黄灰白色土 粒子やや粗く、炭化物・焼土を多く含む。粘性なく、緻まり難い。
3. 黄灰白色土 粒子細かく、焼土未干渉。粘性ややあり、緻まる。
4. 黄灰白色土 粒子細かい。粘性なく、緻まり難い。
5. 黄灰褐色質土 粒子細かく、炭化物を若干含む。粘性あり、緻まる。
6. 黄灰白色土 粒子やや粗く、炭化物・焼土を多く含む。粘性なく、緻まり難い。
(35号溝土)

7. 黄灰褐色質土 粒子やや粗かく、炭化物・焼土を非常に多く含む。粘性あり、緻まる。
8. 黄灰白色土 粒子やや粗く、炭化物・焼土を多く含む。粘性なく、緻まり難い。
9. 黄灰白色質土 粒子細かく、炭化物・焼土を多く含む。粘性あり、緻まる。
10. 黄灰褐色質土 粒子細かい。粘性あり、緻まる。
11. 黄灰褐色質土 粒子細かく、炭化物・焼土を多く含む。粘性あり、緻まる。
12. 黄灰褐色質土 粒子細かい。粘性あり、緻まる。
13. 黄灰褐色質土 粒子細かい。粘性あり、緻まる。
14. 黄灰白色土 粒子やや粗く、炭化物・焼土を多く含む。粘性ややあり、緻まる。
(36号溝土)
15. 黄灰褐色質土 粒子細かく、炭化物・焼土を多く含む。粘性ややあり、緻まる。
(36号溝土)
16. 黄灰白色土 粒子細かく、炭化物・焼土を多く含む。粘性ややあり、緻まる。
(36号溝土)
17. 黄灰白色土 粒子細かく、炭化物・焼土を15層より多く含む。粘性ややあり、緻まる。
(36号溝土)
18. 焼土層 粒子粗く、炭化物・焼土を非常に多く含む。粘性なく、緻まる。
(36号溝土)

第10図 7号竪穴建物、35・36号溝、埋甕



柱穴1

E=282.5m



1. 黄褐色砂土 砂化土・灰土等の多量混在。
2. 黄褐色砂土 砂化土・灰土等の多量混在。
3. 黄褐色土 灰化土・灰土等の少量混在。
4. 黄褐色砂土 砂化土・灰土等の少量混在。
5. 黄褐色砂土 砂化土・灰土等の少量混在。
6. 黄褐色砂土 砂化土・灰土等の少量混在。

柱穴2

E=282.5m



1. 鹿灰岩砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
2. 黄褐色砂土 砂化土・灰土等の少量混在。
3. 黄褐色砂土 砂化土・灰土等の少量混在。
4. 黄褐色砂土 砂化土・灰土等の少量混在。

柱穴4

G=282.5m



1. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の多く混在。
2. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
3. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
4. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
5. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
6. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
7. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
8. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。

柱穴5

H=282.5m



1. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
2. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
3. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
4. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
5. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
6. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
7. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
8. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
9. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
10. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。

柱穴6

I'=282.5m



1. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
2. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
3. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。

柱穴7

J'=282.5m



1. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
2. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。

柱穴8

K=282.5m



1. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
2. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
3. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
4. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。

柱穴9

L=282.5m



1. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
2. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
3. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。

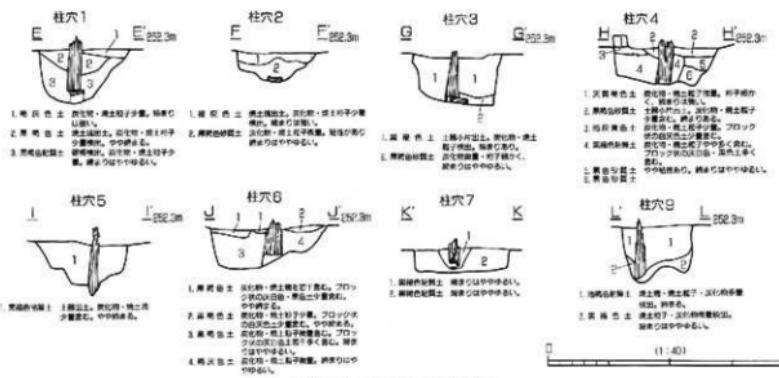
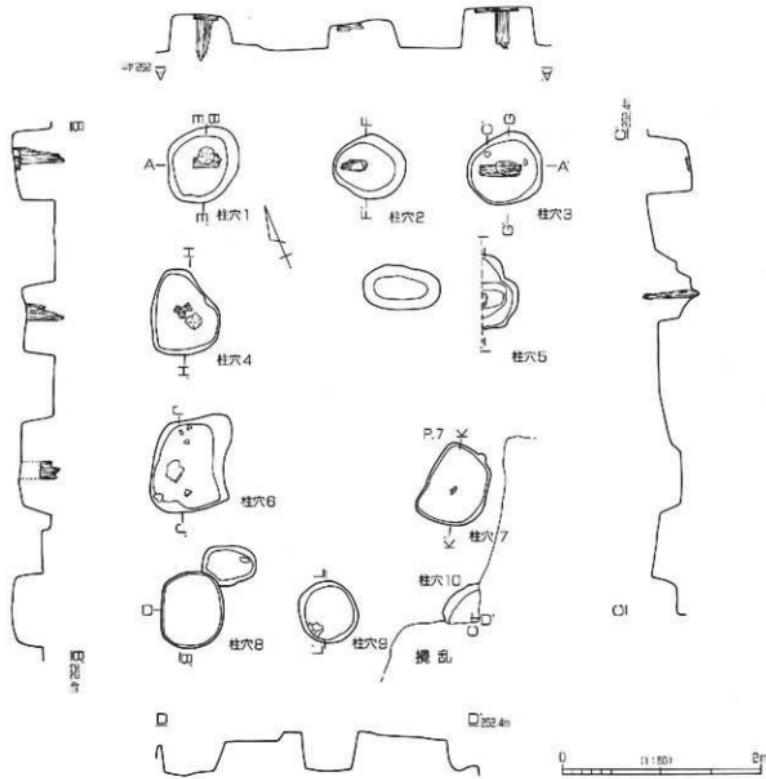
柱穴10

M=282.5m

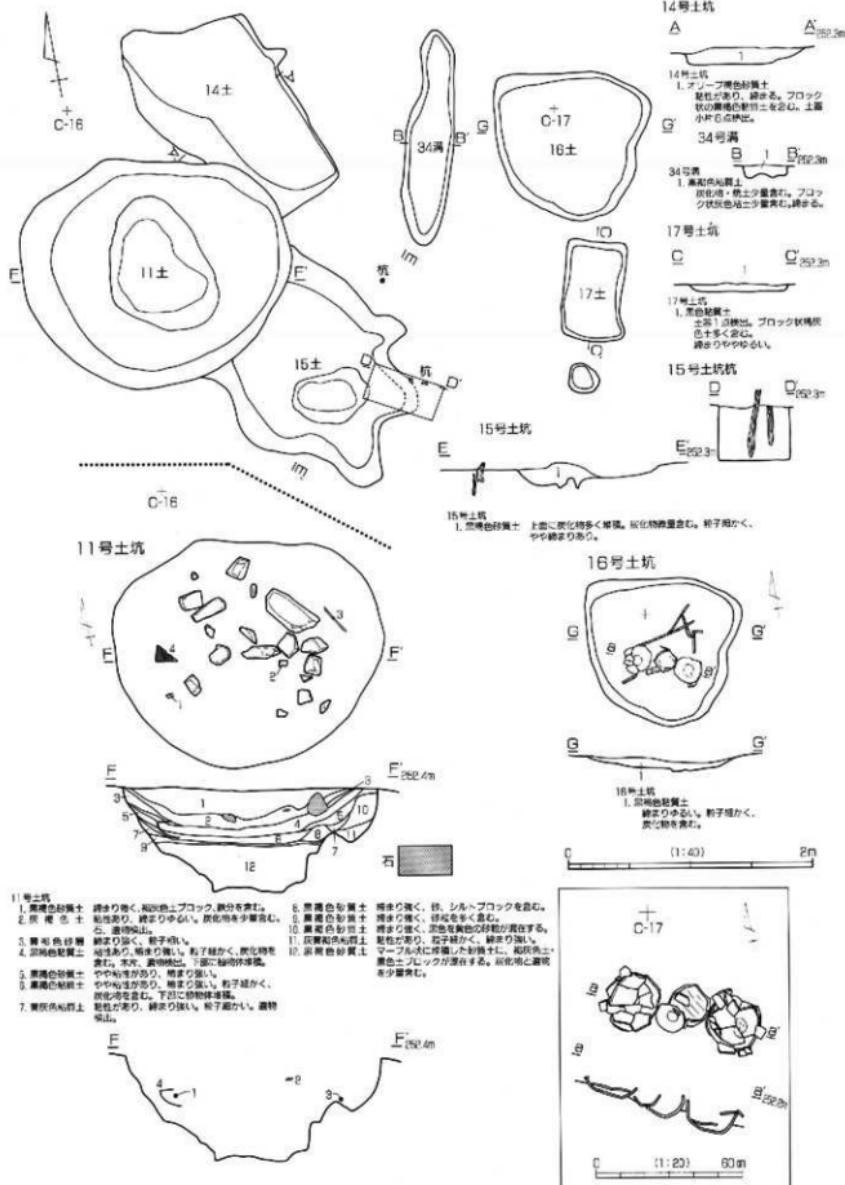


1. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。
2. 黄褐色砂土 灰化土・灰土等の少量混在。

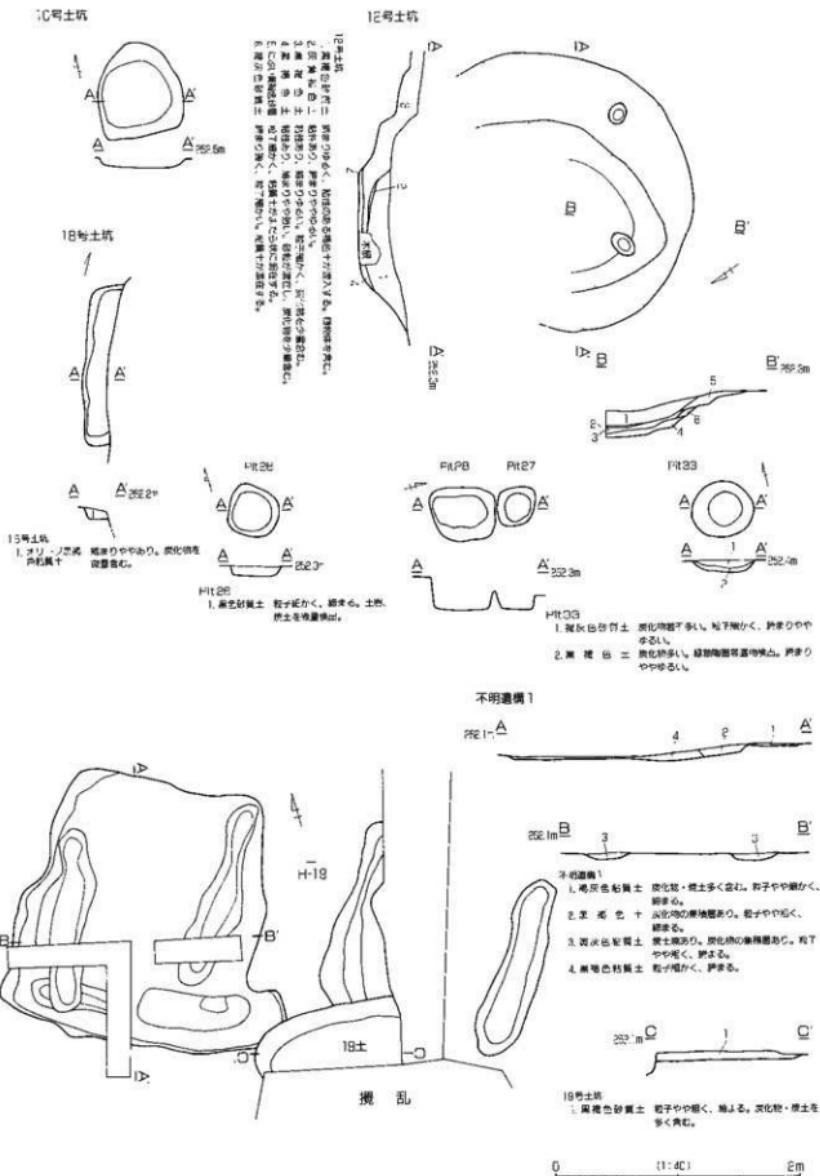
第11図 1号掘立柱遺物



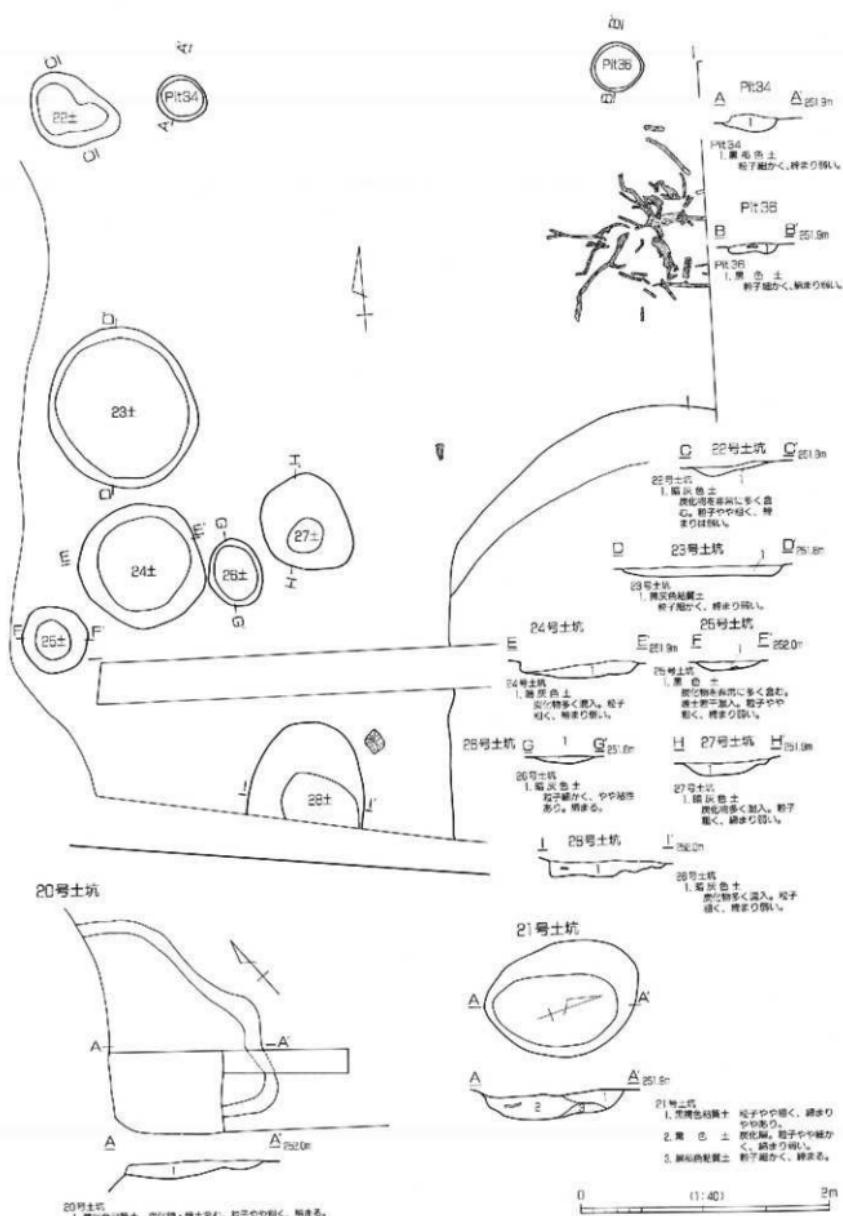
第12図 2号掘立柱建物



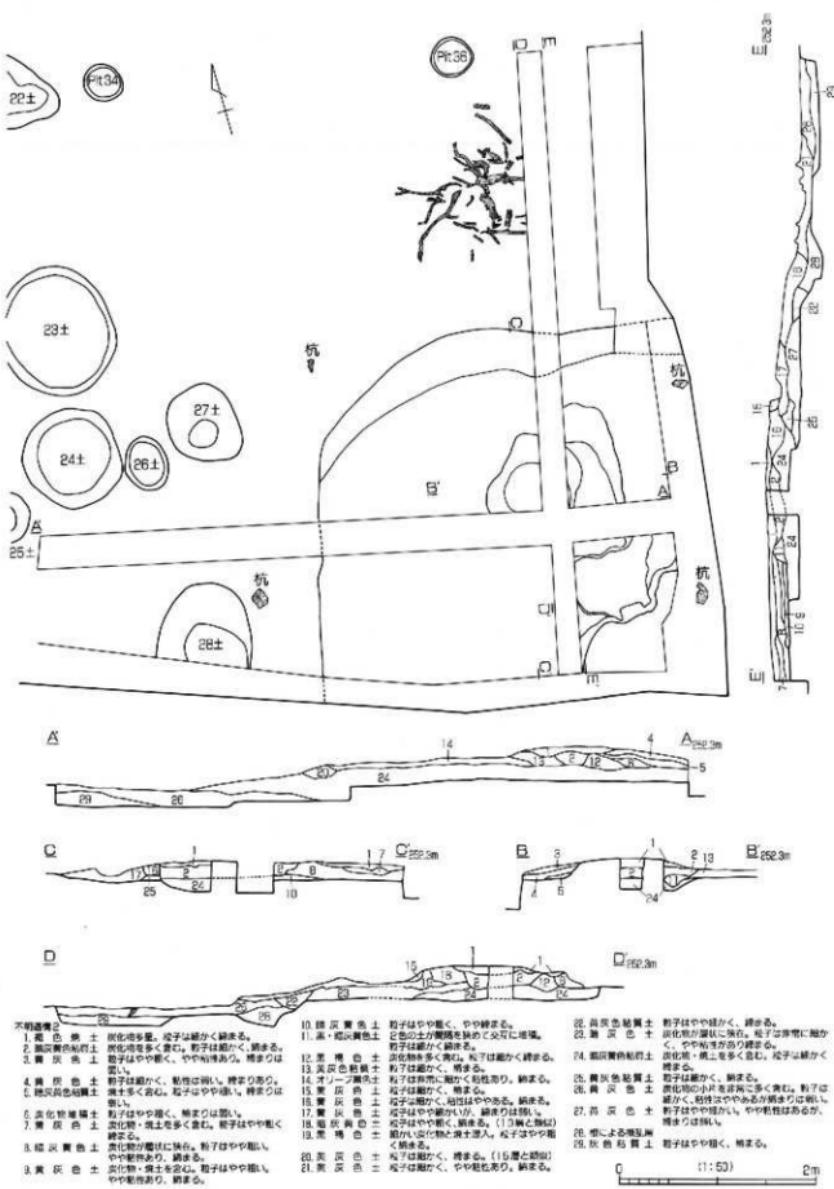
第13図 34号溝、11, 14~17号土坑



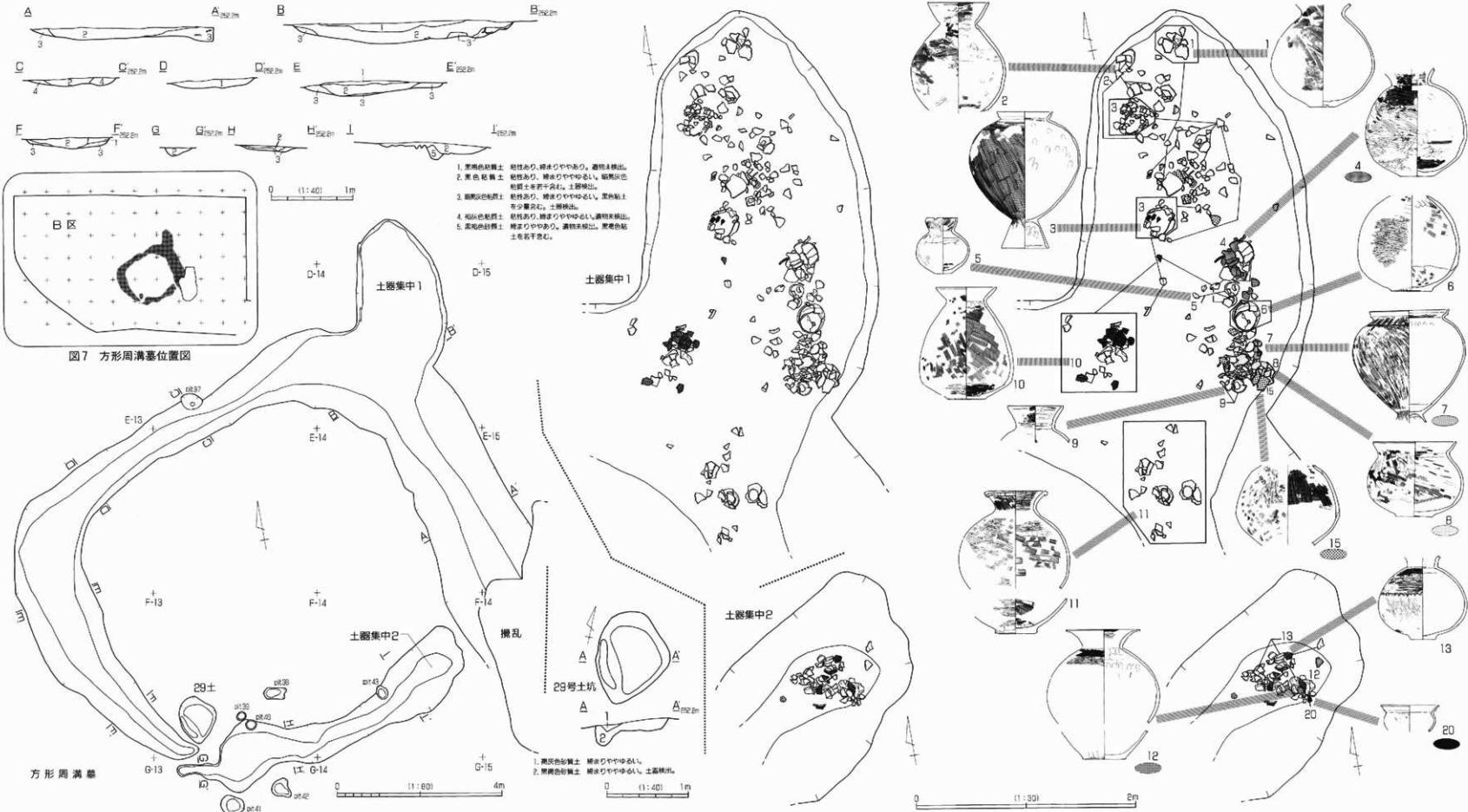
第14図 10, 12, 18, 19号土坑、Pit 26~28, 33、不明遺構 1

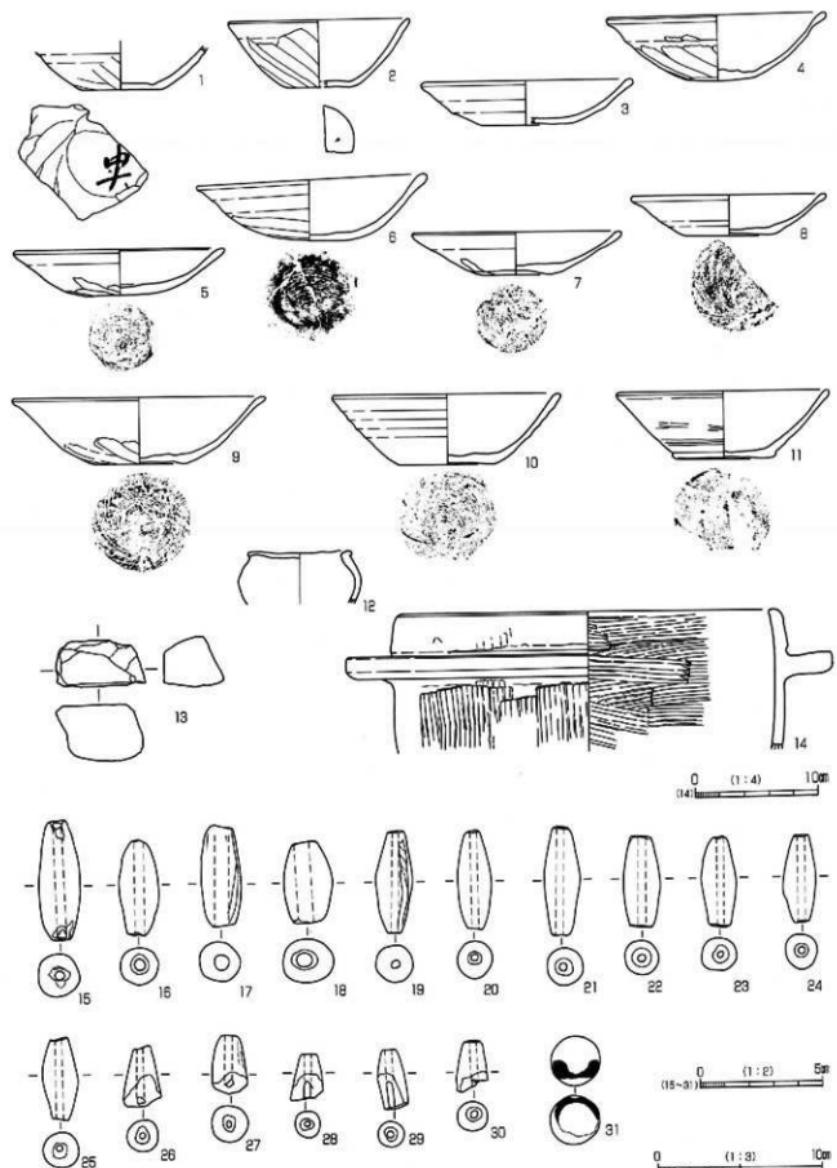


第15図 20~28号土坑、Pit 34, 36

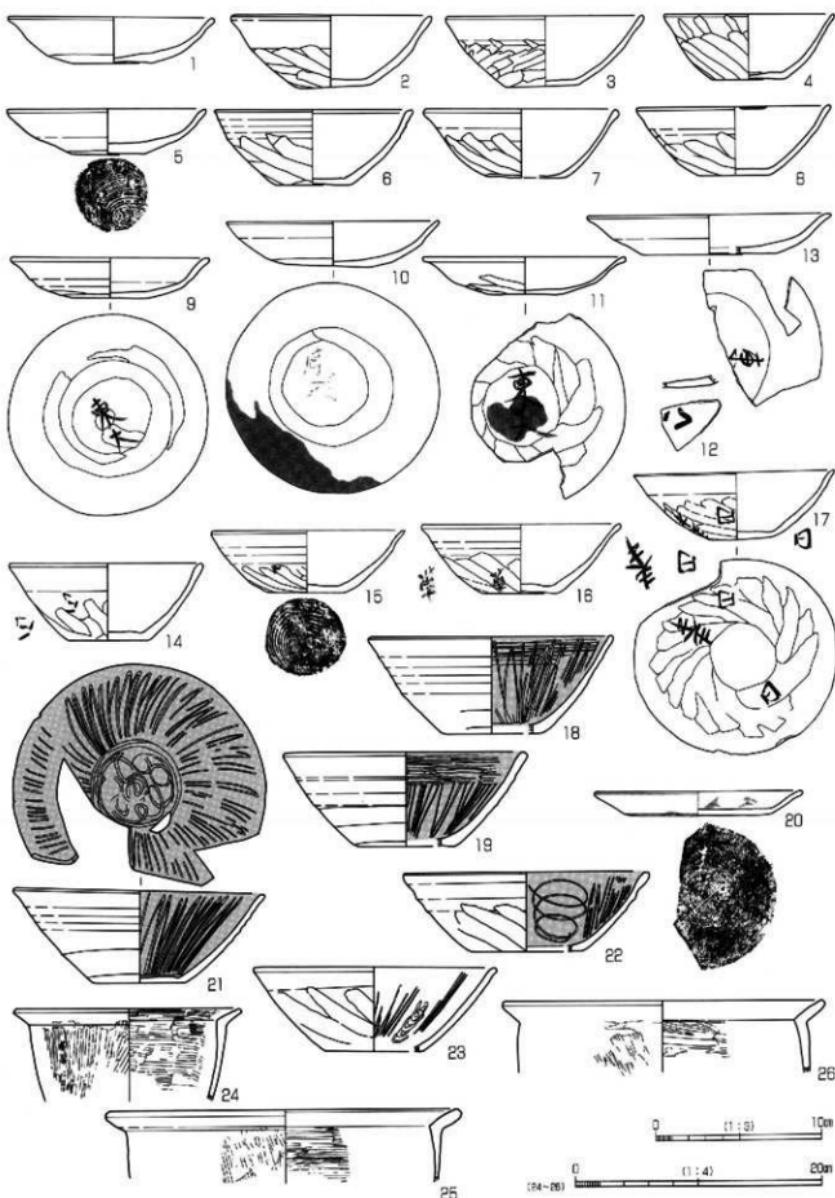


第16図 不明遺構 2



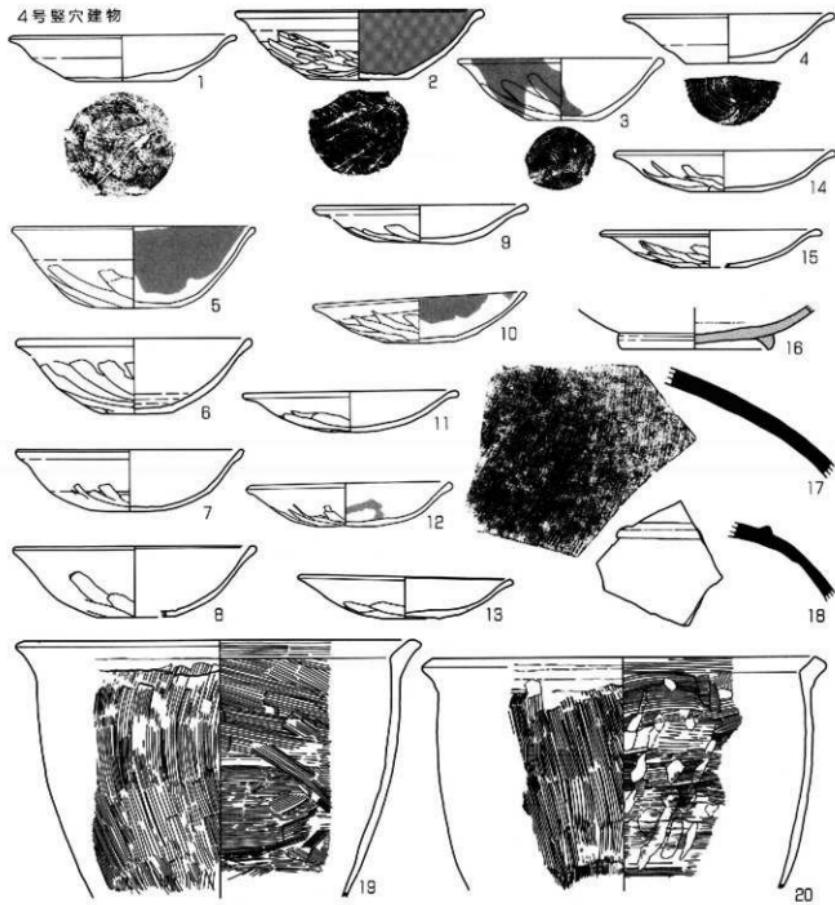


図版1 1号竪穴建物

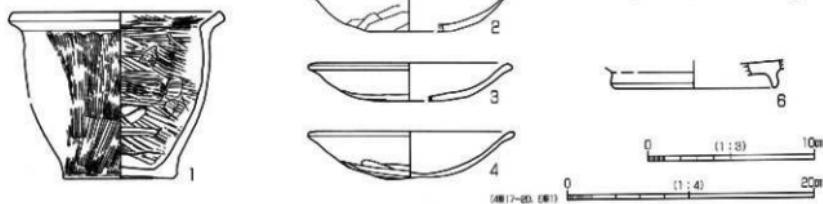


図版2 2・3号竪穴建物

4号竖穴建物

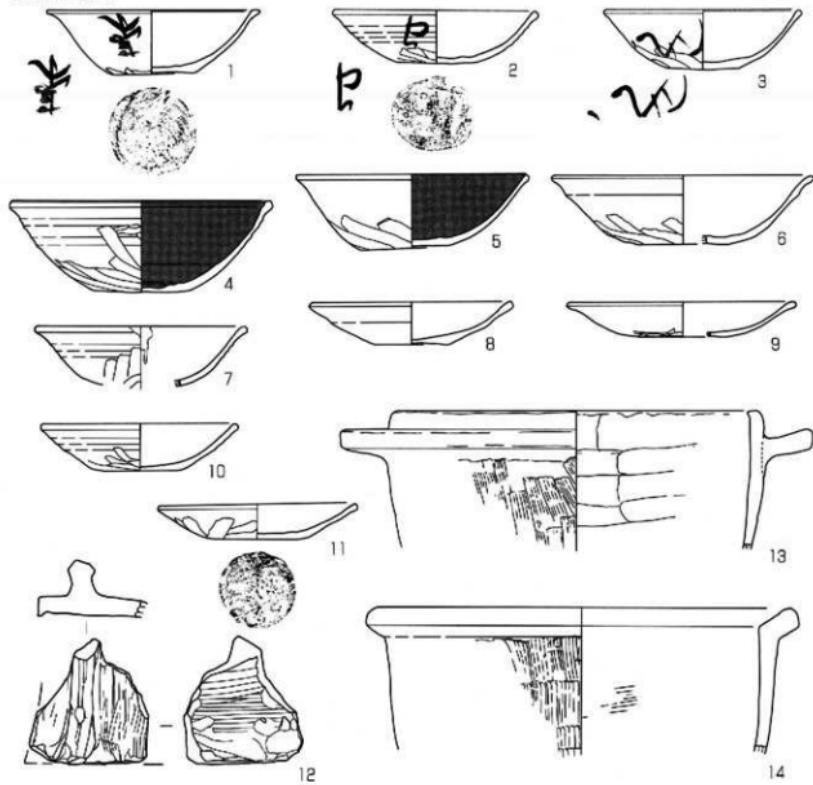


5号竖穴建物

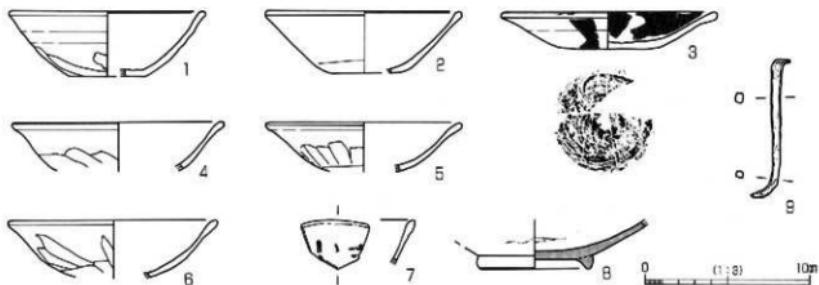


图版3 4号竖穴建物、5号竖穴建物

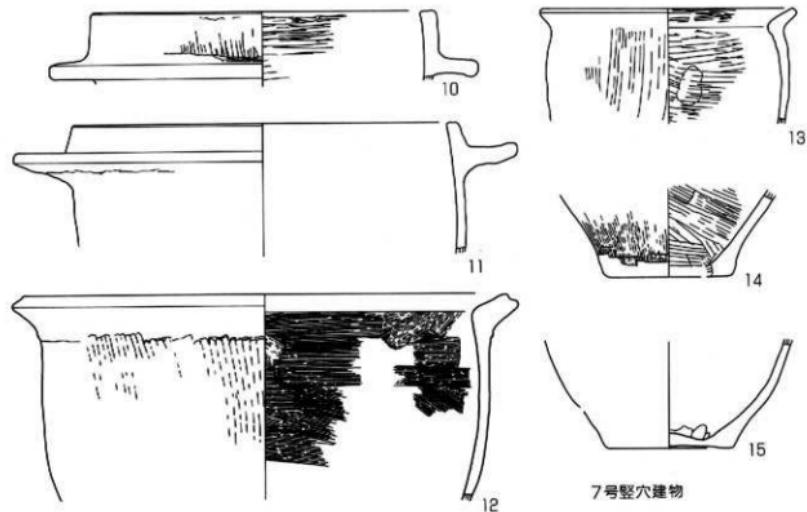
6号竖穴建物



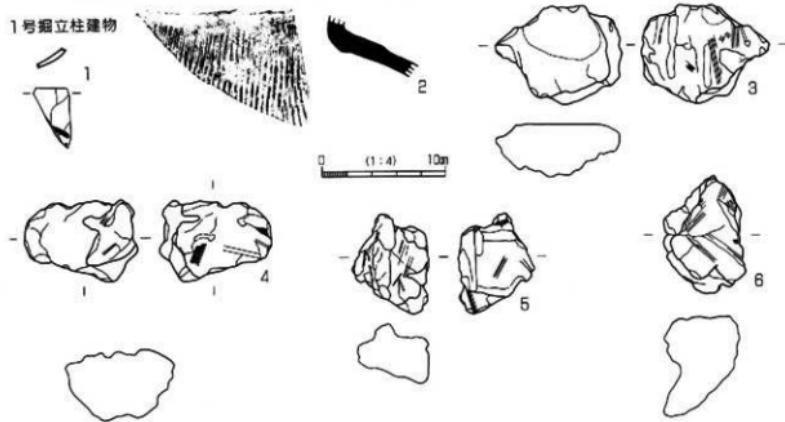
7号竖穴建物



図版4 6号竖穴建物、7号竖穴建物(1)



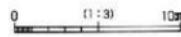
7号竖穴建物

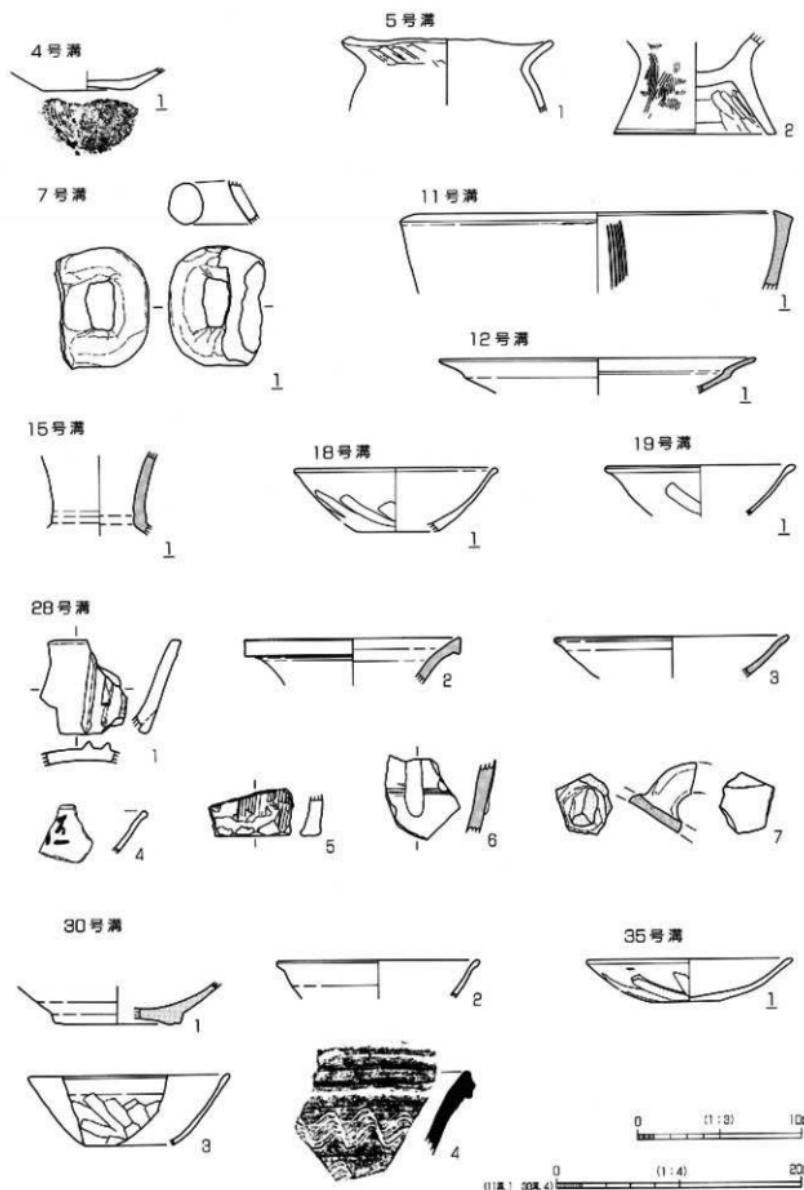


2号掘立柱建物



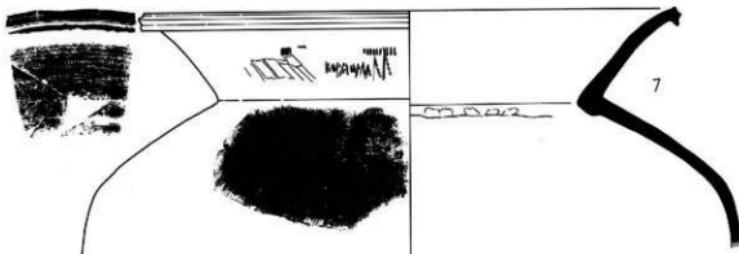
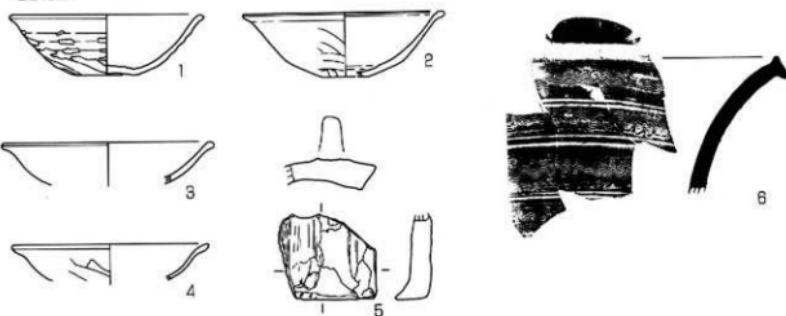
图版 5 7号竖穴建物 (2)、掘立柱建物



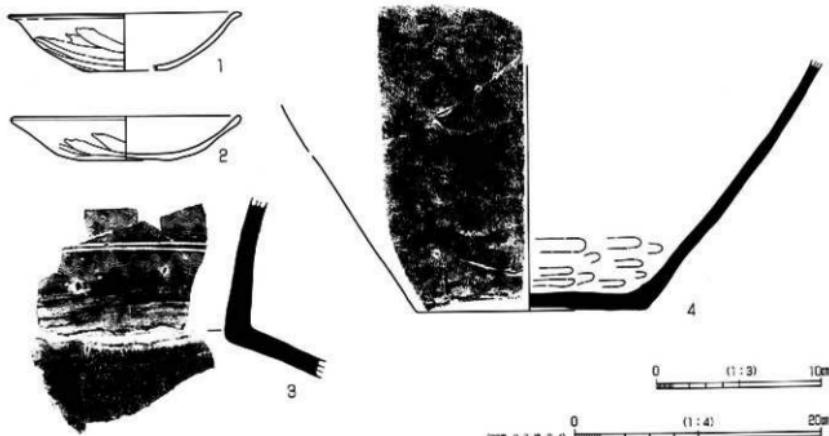


图版6 4, 5, 7, 11, 12, 15, 18, 19, 28, 30, 35号溝

36号溝

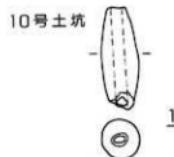
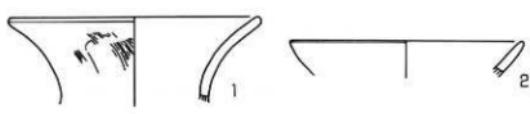


埋甕



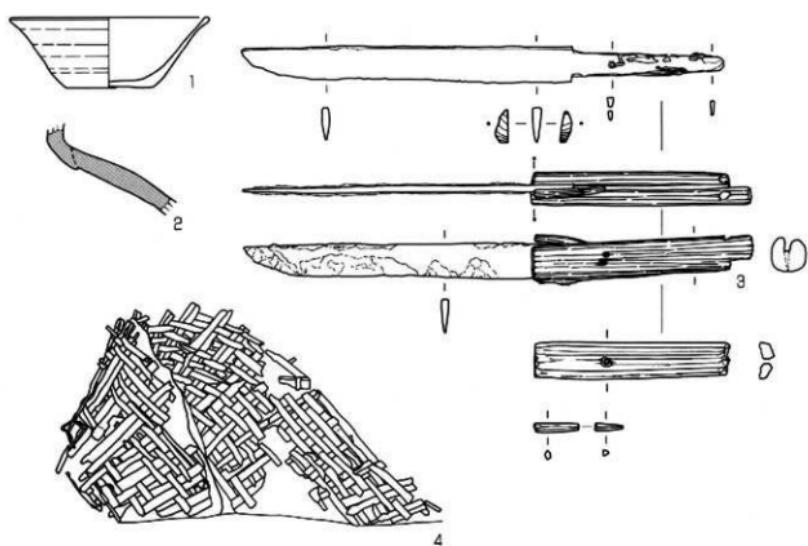
図版7 36号溝、埋甕

6号土坑

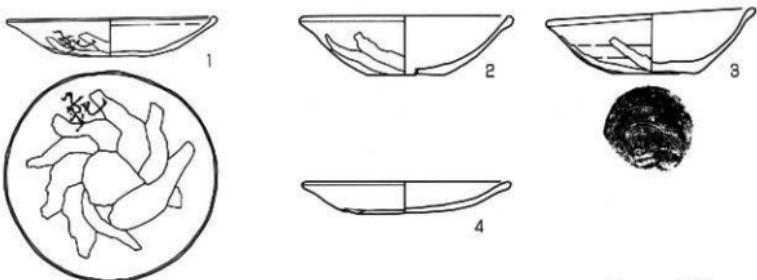


图版 8 (1 : 2) 45
(10cm)

11号土坑

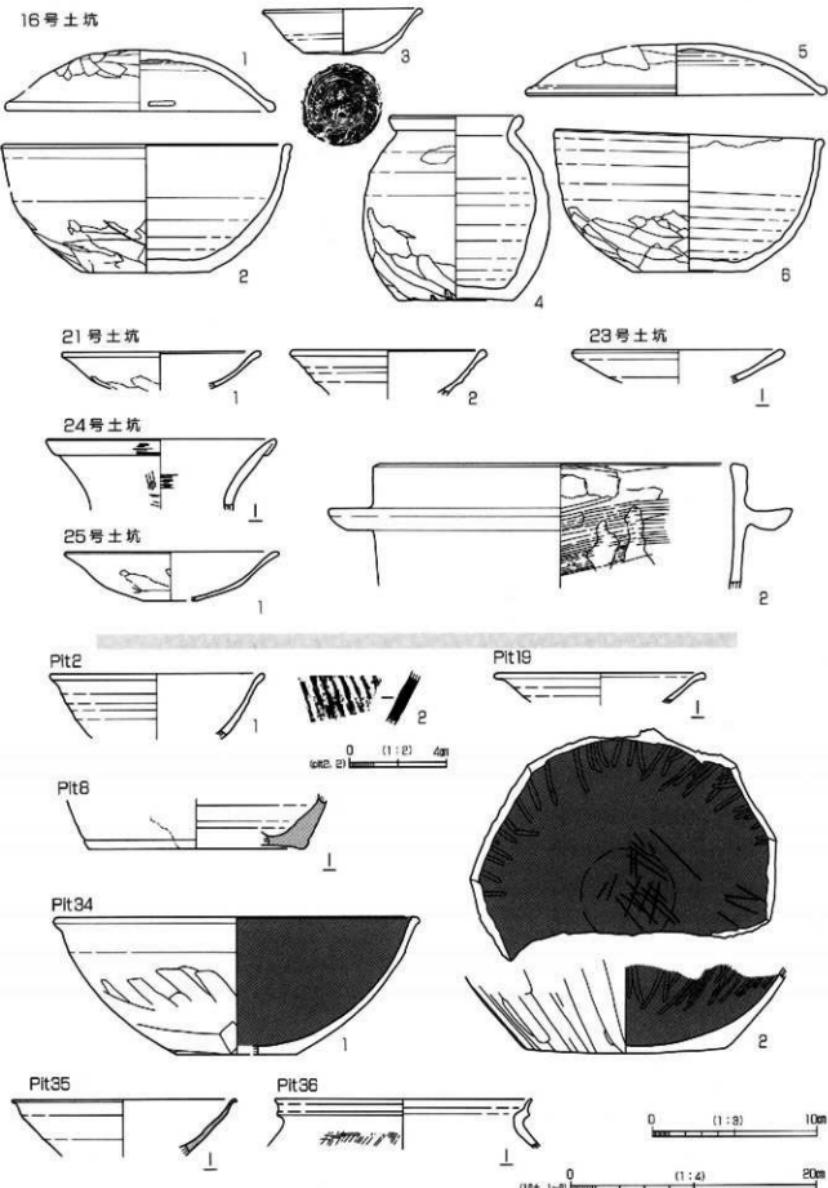


15号土坑

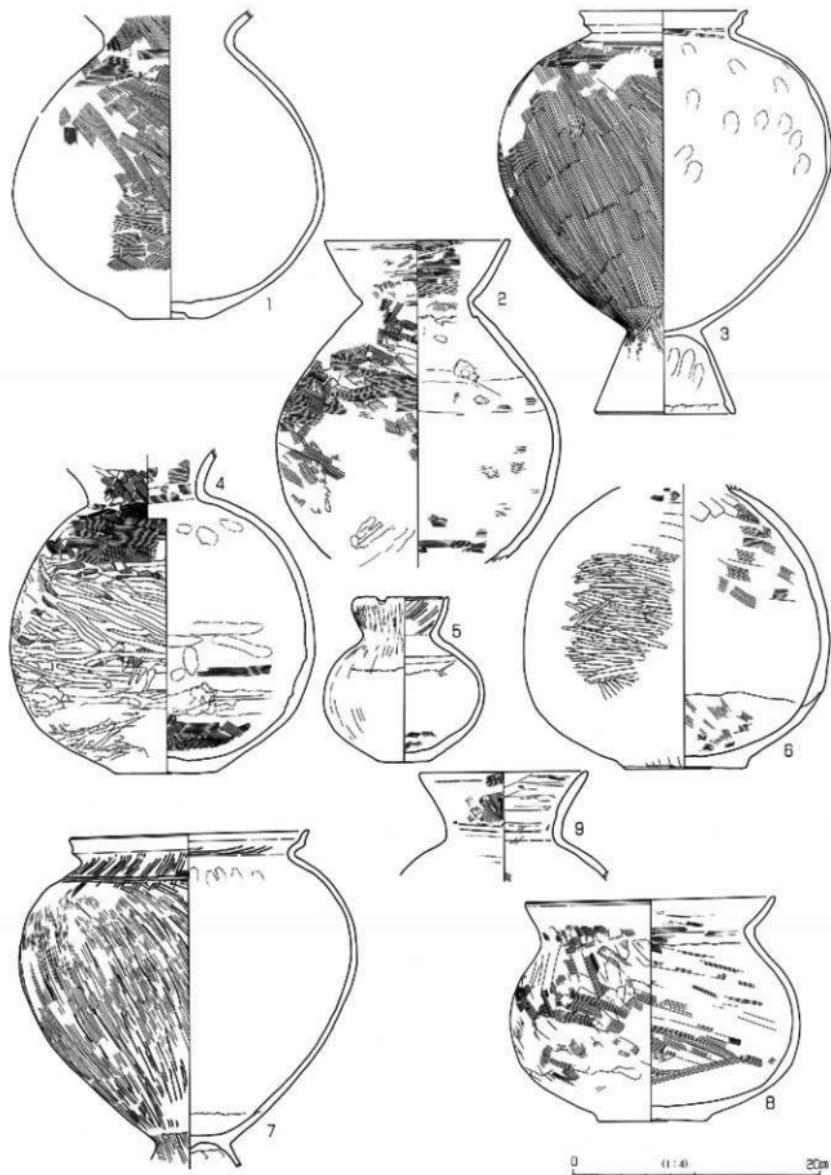


图版 8 6, 10, 11, 15号土坑

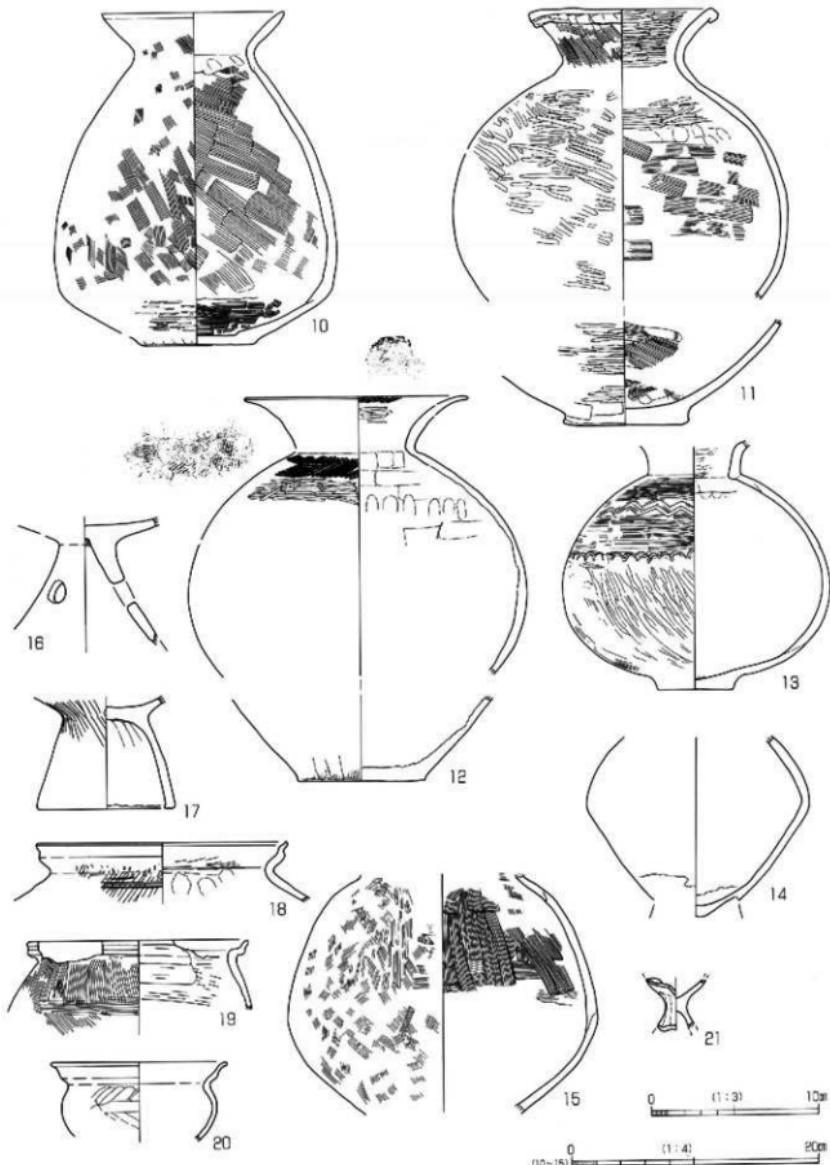
图版 8 (1 : 3) 10cm
(10cm)



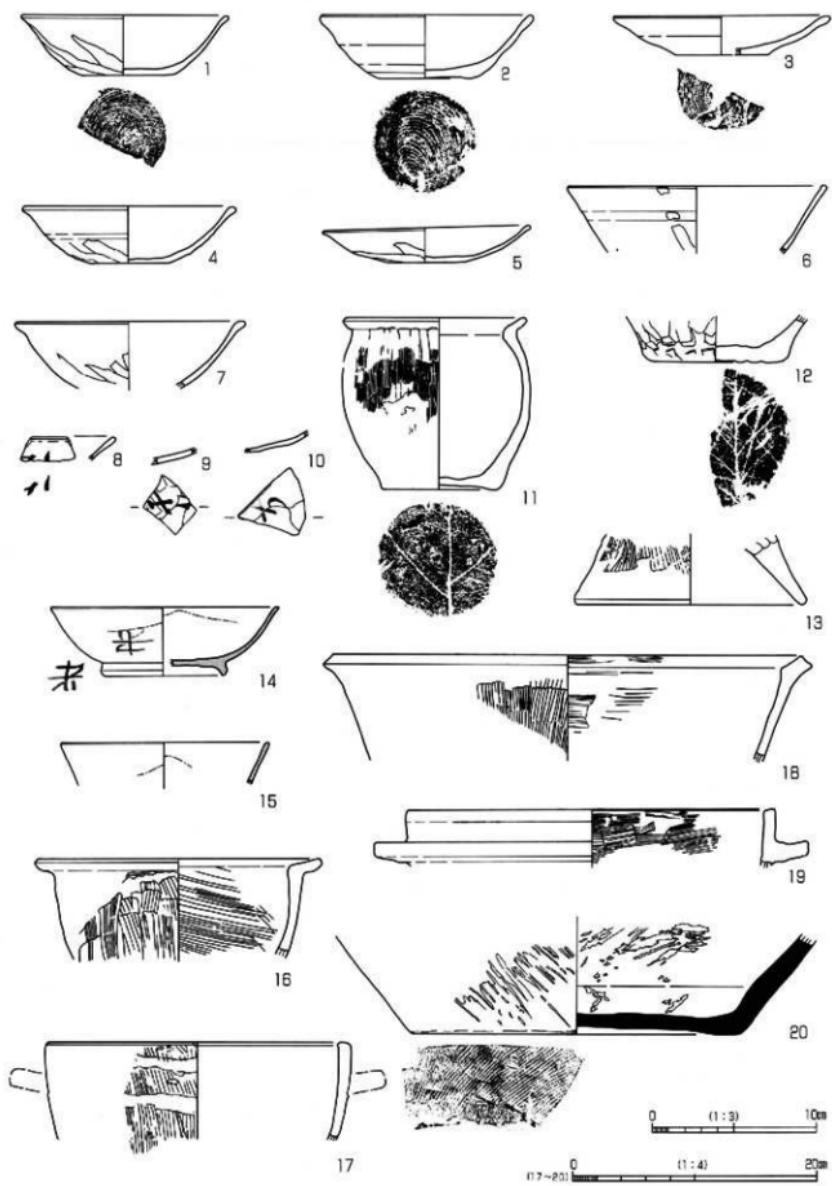
図版9 16, 21, 23~25号土坑、Pit 2, 8, 19, 34~36



図版10 方形周溝墓(1)

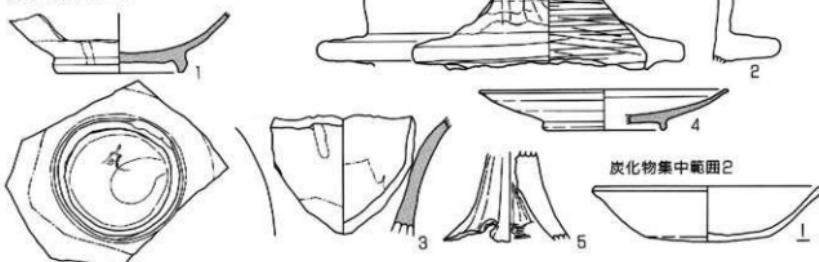


図版11 方形周溝基(2)

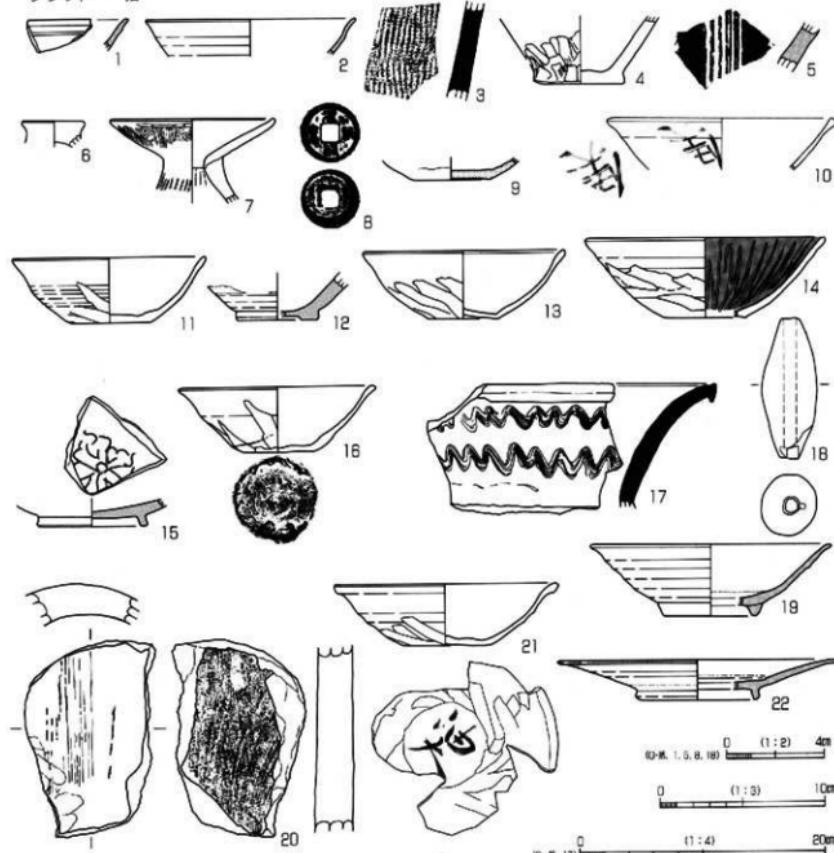


図版12 不明遺構2

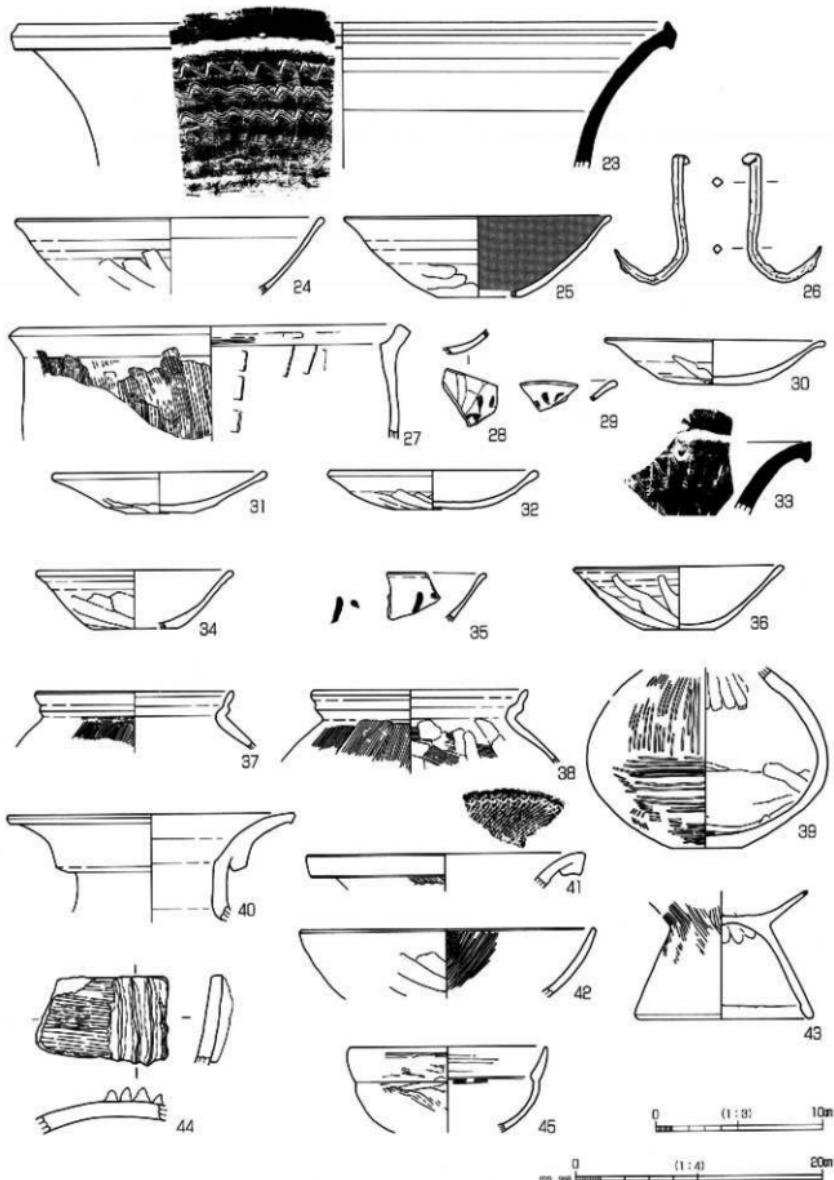
炭化物集中範囲1



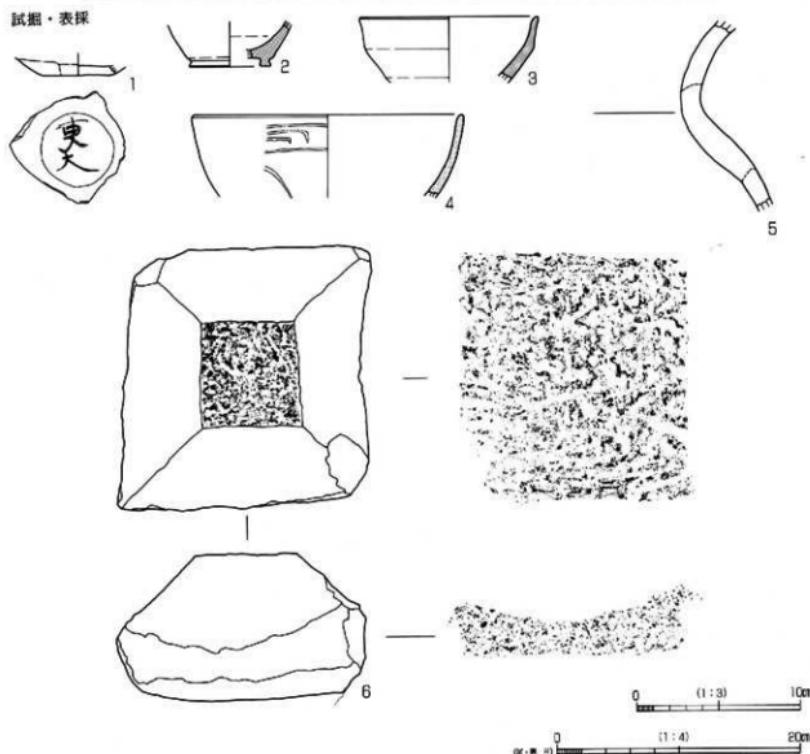
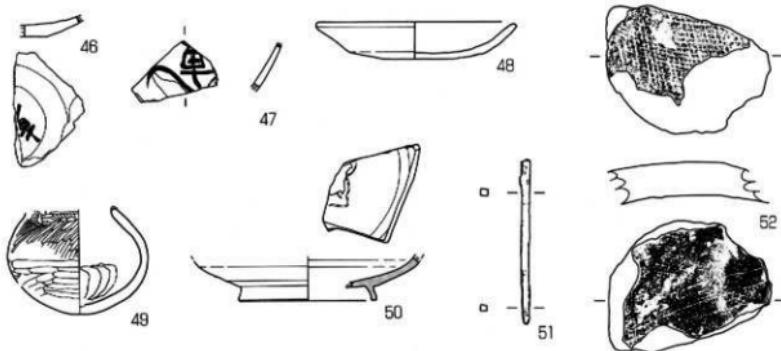
グリッド・一括



図版13 炭化物集中範囲、グリッド・一括 (1)



図版14 グリッド・一括(2)



図版15 グリッド・一括 (3)、試掘・表採

出土遺物調査表

品種名番号	判別	目録	法 規(cm)	灰 分 % 重 量	外 國	内 國	瓦 油	地 土		色 調	地 質
								口徑 直径 (mm)	壁 厚 (mm)		
1 1号多孔物 1 土器物 扁平	11.1 (1.1) (6.0) ●	高 口クロコヘ ヘラクスリ	ロコロナド	ヘタツギ	高 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 2 土器物 扁平	11.1 (1.1) (6.0) ●	高 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	高 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 3 土器物 扁平	11.2 (0.9) (5.4) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 4 土器物 扁平	11.4 (0.6) (5.0) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 5 土器物 扁平	13.0 (2.6) 4.3	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 6 土器物 扁平	13.9 (3.7) 4.8	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 7 土器物 扁平	12.8 (4.0) 4.2	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 8 土器物 扁平	12.9 (0.9) (5.5) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 9 土器物 扁平	15.4 (1.0) (6.0) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 10 土器物 扁平	14.0 (1.3) (6.0) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 11 土器物 扁平	12.0 (0.9) (5.5) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 12 土器物 小型	6.2	● 口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ナフ	ナフ	● 口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ナフ	ナフ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 13 土器物 小型	6.6	小片 圓筒形 灰色	ナフ	ナフ	小片 圓筒形 灰色	ナフ	ナフ	5.8	1.0	白色子	良好
1 1号多孔物 14 土器物 刻畫	6.0	● 口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ナフ	ナフ	● 口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ナフ	ナフ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 1 土器物 扁平	12.2 (2.6) 4.5	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 2 土器物 扁平	12.1 (1.4) 4.5	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 3 土器物 扁平	12.1 (1.3) 4.4	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 4 土器物 扁平	10.3 (0.8) 4.4	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 5 土器物 扁平	12.1 (2.8) 4.4	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 6 土器物 扁平	12.0 (1.6) (6.0) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 7 土器物 扁平	12.0 (1.2) 5.2	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 8 土器物 扁平	11.8 (1.2) (6.0) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 9 土器物 扁平	12.2 (2.5) 4.6	完形 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	完形 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 10 土器物 扁平	12.8 (2.7) 3.0	完形 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	完形 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 11 土器物 扁平	12.4 (2.3) 4.5	● 口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	● 口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 12 土器物 扁平	12.2 (1.2) 3.8	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ナフ	ナフ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ナフ	ナフ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 13 土器物 扁平	14.8 (0.8) (5.5) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 14 土器物 扁平	11.8 (1.4) 4.7	完形 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	完形 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 15 土器物 扁平	12.2 (1.3) 4.6	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 16 土器物 扁平	13.2 (0.9) 5.0	完形 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	完形 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 17 土器物 扁平	15.6 (1.0) (6.0) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 18 土器物 扁平	14.8 (0.8) (5.5) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 19 土器物 扁平	12.6 (1.5) (6.0) ●	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好
2 2号多孔物 20 土器物 扁平	12.4 (1.6) 5.6	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	口-底 50 口クロコヘ ヘタツギ	ロコロナド	ヘタツギ	5.8	1.0	白色子	良好

島嶼名	標高(m)	面積(km ²)	周囲長(km)	面積(%)	外洋	内洋	河川	海岸	地質	備考
1) 沖縄本島(1)	3.75	1,035	1,035	●	島	小(1.5)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/10月潮吹
2) 久米島(2)	1.5	13.0	13.0	●	島	小(1.5)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	10月10月潮吹
3) 阿嘉島(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	10月10月潮吹
4) 球磨島(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	10月10月潮吹
5) 奥武島(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	10月10月潮吹
6) 鹿児島本島(1)	1.4	1,035	1,035	●	島	中(1.4)	ロコナド→ヘタケダリ	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
7) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
8) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
9) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
10) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
11) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
12) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
13) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
14) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
15) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
16) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
17) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
18) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
19) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
20) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
21) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
22) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
23) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
24) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
25) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
26) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
27) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
28) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
29) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
30) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
31) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹
32) 佐多岬(2)	1.4	1.4	1.4	●	島	小(1.4)	ロコナド	海岸	島、海岸子(山地?)	7.37/9月潮吹

土製品調査表

回数	遺物名	番号	器種	長さ・幅・口径(cm)・重さ		色	調	焼成	備考	
1	1号堅穴建物	15	土鍤	(5.0) 2.7	0.4	13.9 g	青、赤色粒子 金雲母 白色粒子	7.5YR7/4にぶい黄	良好 完形	
1	1号堅穴建物	16	土鍤	3.9	1.6	0.5	9.3 g	青、赤色粒子 金雲母 白色粒子	10YR7/2にぶい黄	良好 完形
1	1号堅穴建物	17	土鍤	4.3	1.7	0.6	10.1 g	青、赤色粒子 金雲母 白色粒子	10YR7/4にぶい黄	良好 完形
1	1号堅穴建物	18	土鍤	3.4	2.0	0.6	12.1 g	青、赤色粒子 金雲母 白色粒子	10YR7/3にぶい黄	良好 完形
1	1号堅穴建物	19	土鍤	4.2	1.5	0.3	8.5 g	やや密、金雲母 白色粒子	7.5YR6/4にぶい	良好 完形
1	1号堅穴建物	20	土鍤	4.0	1.4	0.3	8.6 g	密、白色粒子 黑色粒子	7.5YR6/4にぶい	良好 完形
1	1号堅穴建物	21	土鍤	4.4	1.4	0.3	9.5 g	やや密、金雲母 白色粒子	7.5YR6/4にぶい	良好 完形
1	1号堅穴建物	22	土鍤	3.8	1.4	0.3	8.1 g	青、金雲母 白色粒子	7.5YR6/4にぶい	良好 完形
1	1号堅穴建物	23	土鍤	3.7	1.4	0.3	7.6 g	やや密、金雲母 白色粒子	7.5YR6/4にぶい	良好 完形
1	1号堅穴建物	24	土鍤	3.6	1.3	0.3	6.2 g	やや密、金雲母 白色粒子	7.5YR6/4にぶい	良好 完形
1	1号堅穴建物	25	土鍤	3.8	1.5	0.3	6.1 g	青、赤色粒子 金雲母 白色粒子	10YR7/3にぶい黄	良好 完形
1	1号堅穴建物	26	土鍤	(2.4)	(1.3)	0.3	4.4 g	やや密、白色粒子 黑色粒子 金雲母	7.5YR6/4にぶい	良好
1	1号堅穴建物	27	土鍤	(2.4)	(1.5)	0.3	4.2 g	青、金雲母 白色粒子	7.5YR6/4にぶい	良好
1	1号堅穴建物	28	土鍤	(1.8)	(1.0)	0.3	2.0 g	やや密、白色粒子 黑色粒子	10YR7/2にぶい黄	良好
1	1号堅穴建物	29	土鍤	2.5	1.1	0.3	2.2 g	青、白色粒子 黑色粒子 金雲母	7.5YR6/4にぶい	良好
1	1号堅穴建物	30	土鍤	(2.0)	1.3	0.3	2.5 g	青、金雲母 白色粒子	10YR6/4にぶい黄	良好
1	1号堅穴建物	31	土玉	2.0			8.0 g	青、赤色粒子 金雲母 白色粒子	10YR8/2灰白	良好 完形
8	10号土坑	1	土鍤	(4.1)	1.5	0.5	9.4 g	青、赤色粒子 金雲母 白色粒子	7.5YR6/3にぶい	良好 完形
14	遺構外(G-10)	18	土鍤	(5.8)	2.3	0.6	29.3 g	やや密、赤色粒子 金雲母 白色粒子	7.5YR6/6	良好 完形



調査区 (西から)



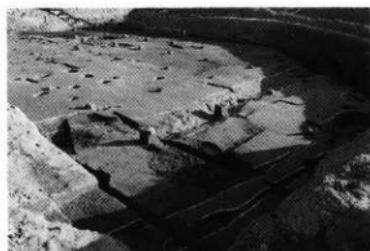
D区 近景 (東から)



A区 近景 (西から)



D区 中央部近景 (南から)



D区 西側近景 (北西から)

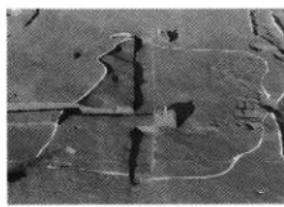


A区 近景 (西から)

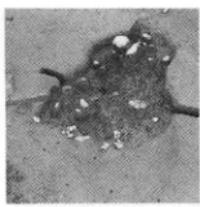


C区 近景 (北から)

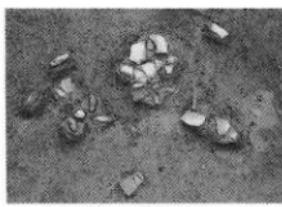
写真1 調査区近景



1号竪穴建物
(南から)



1号竪穴建物カマド
(南から)



1号竪穴建物土器等遺物出土
(南から)



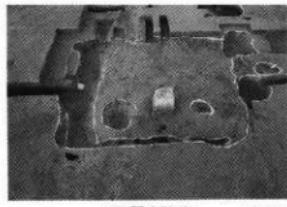
2号竪穴建物
(北西から)



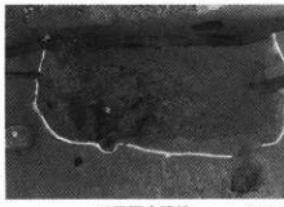
2号竪穴建物カマド
(北から)



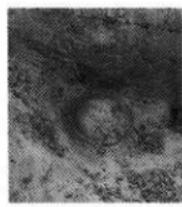
2号竪穴建物遺物出土
(西から)



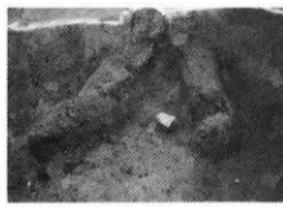
3号竪穴建物
(南から)



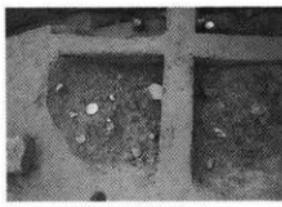
4号竪穴建物
(東から)



3号竪穴建物瓦出土
(南から)



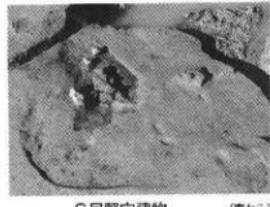
4号竪穴建物カマド
(東から)



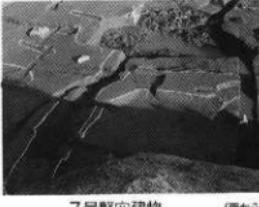
4号竪穴建物遺物出土
(東から)



5号竪穴建物、27号溝
(西から)

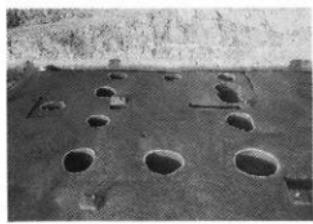


6号竪穴建物
(東から)

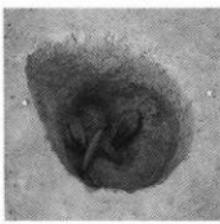


7号竪穴建物
(西から)

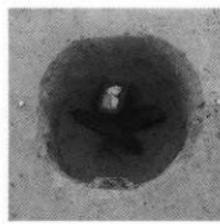
写真2 竪穴建物



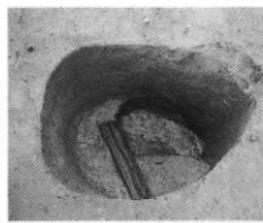
1号掘立柱建物
(南から)



1号掘立柱建物柱穴1
(北から)



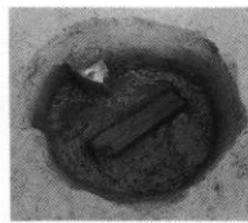
1号掘立柱建物柱穴2
(南から)



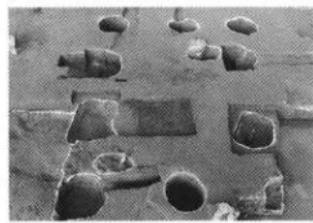
1号掘立柱建物柱穴4
(東から)



1号掘立柱建物柱穴7
(北から)



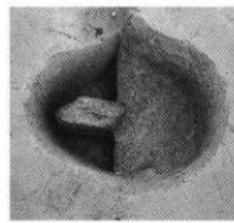
1号掘立柱建物柱穴8
(南から)



2号掘立柱建物
(南から)



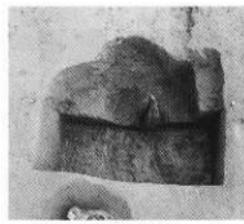
2号掘立柱建物柱穴1
(北から)



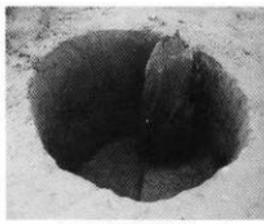
2号掘立柱建物柱穴2
(南から)



2号掘立柱建物柱穴3
(南から)



2号掘立柱建物柱穴5
(南から)

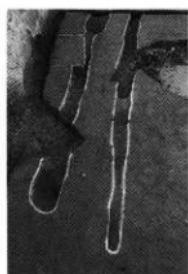


2号掘立柱建物柱穴9
(北から)

写真3 掘立柱建物



4号溝(上)、5号溝(下) (南から)



6, 7, 8号溝(左より) (南から)



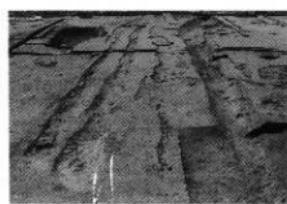
9号溝 (南から)



11号溝 (北から)



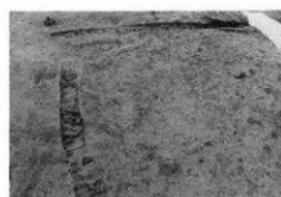
14号溝(上・下)、15号溝(左・右) (南から)



30-18-17-19-20-21-22号溝(右より) (北から)

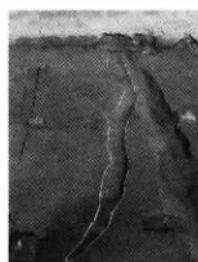


28号溝 (北から)



24号溝(上)
25号溝(下)

(北から)

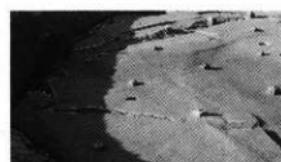


28号溝

(南東から)

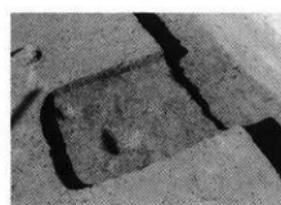


31号溝 (南から)



28号溝(上)
29号溝(下)

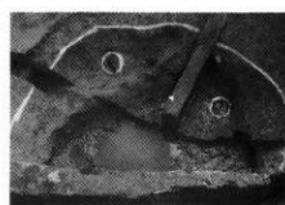
(南東から)



5号土坑 (南東から)

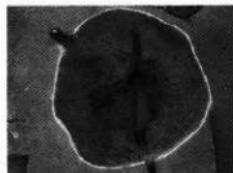


10号土坑 (南から)



12号土坑 (北から)

写真4 溝、土坑(1)



11号土坑 (西から)



11号土坑半截 (南から)



11号土坑小刀出土 (北から)



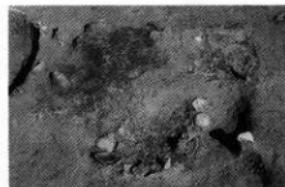
11, 14~17号土坑、34号溝 (東から)



16号土坑遺物出土 (北から)



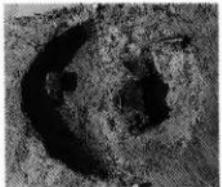
16号土坑土器下部炭化物出土 (南から)



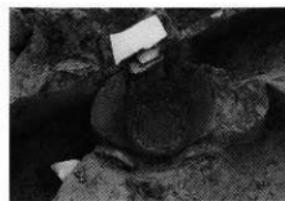
15号土坑遺物出土 (南から)



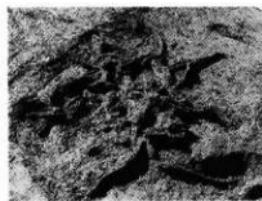
10号土坑遺物出土 (北東から)



25号土坑 (東から)



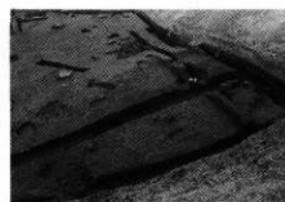
埋壺



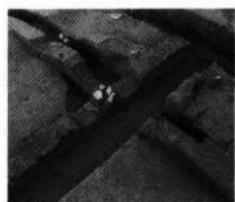
10号土坑木根痕 (北東から)



不明遺構1 (東から)



不明遺構2 (南西から)



不明遺構2 中央部 (南西から)



10号土坑炭化物集中範囲1・2 (東から)

写真5 土坑(2)、埋壺、木根痕、不明遺構、炭化物集中範囲



方形周溝墓完掘
(北東から)



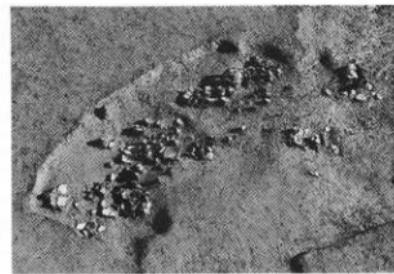
方形周溝墓完掘
(南西から)



南西隅29号土坑
(南から)



土器集中2
(北から)

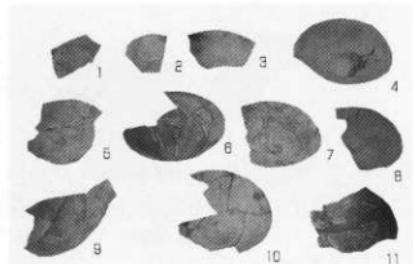


土器集中1
(北西から)



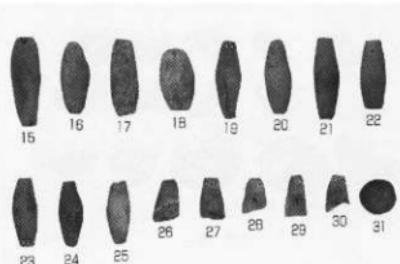
土器集中1部分
(東から)

写真6 方形周溝墓



1・整 坯

(図版1)



1・整 土鍤

(図版1)



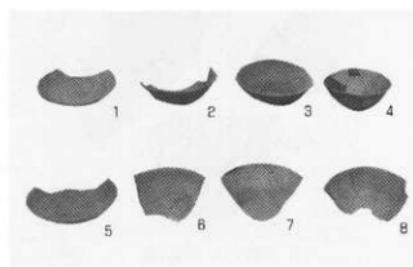
1・整 小壺

(図版1)



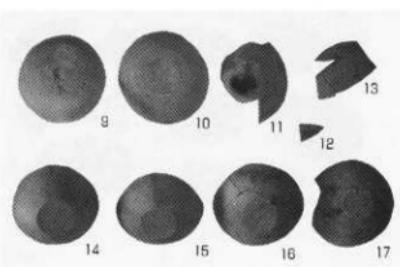
1・整 羽釜

(図版1)



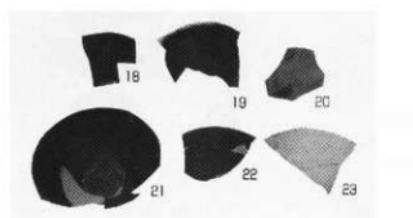
2・3整 坯

(図版2)



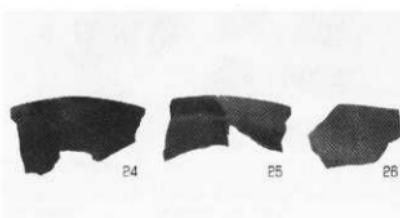
2・3整 墨書き土器

(図版2)



2・3整 暗文土器 他

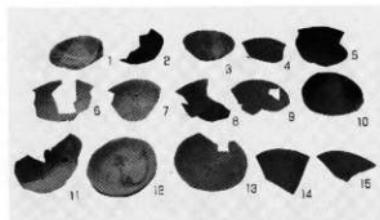
(図版2)



2・3整 豊

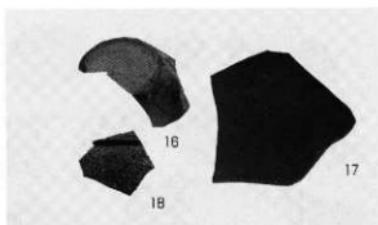
(図版2)

写真7 1・2・3号竪穴建物出土遺物



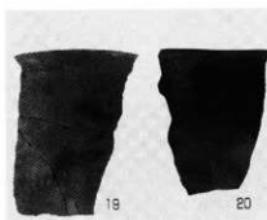
4号 环

(图版3)



4号 灰釉陶器、須志器

(图版3)



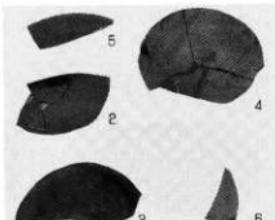
4号 环

(图版3)



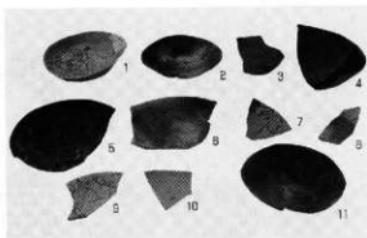
5号 小型甕

(图版3)



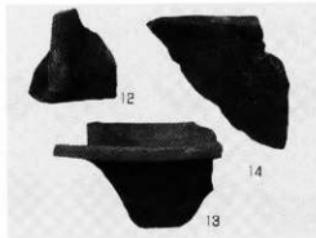
5号 环、灰釉陶器

(图版3)



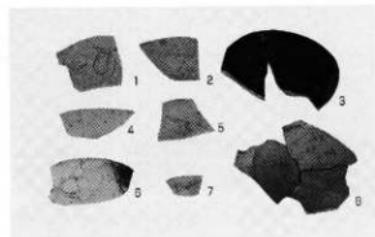
6号 环

(图版4)



6号 羽笠マド、羽笠、甕

(图版4)



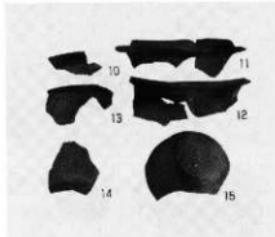
7号 环、灰釉陶器

(图版4)



7号 金属製品

(图版4)



7号 瓢、羽笠

(图版5)

写真 8 4・5・6・7号竖穴建物出土遗物

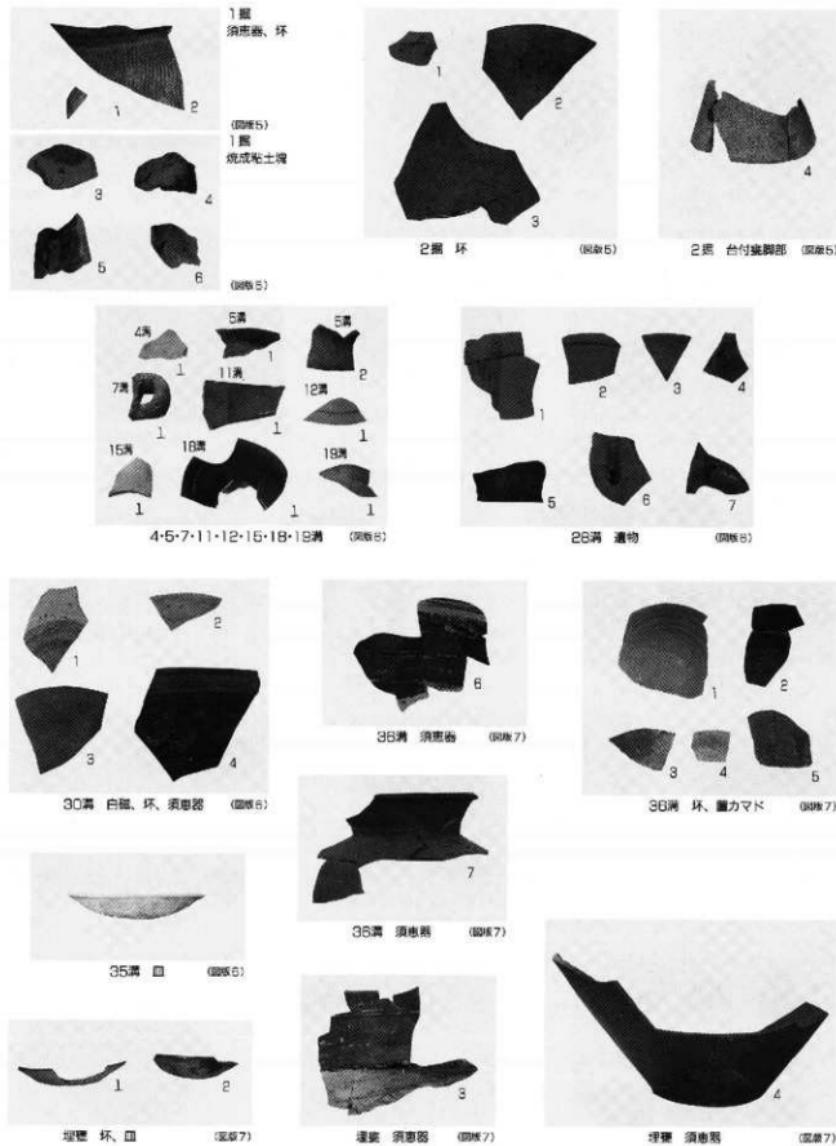
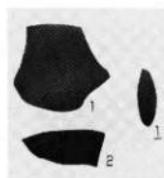


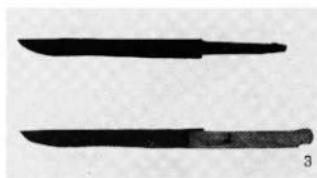
写真9 1・2号振立柱建物、溝、埋甕出土遺物



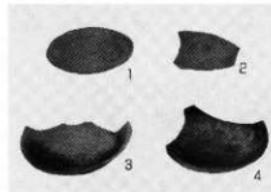
6土 土器 10土 土鐘
(図版8)



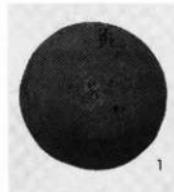
11土 壱、陶器
(図版8)



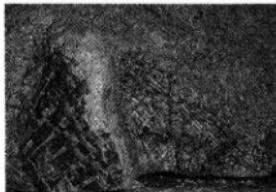
11土 小刀
(図版8)



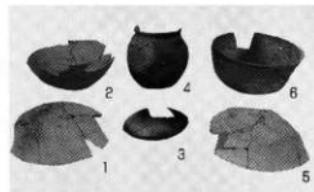
15土 壱、皿
(図版8)



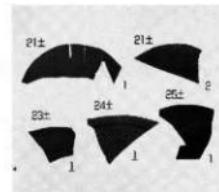
16土 墨書き土器
(図版8)



11土 瓢状製品
(図版8)



16土 土器
(図版8)



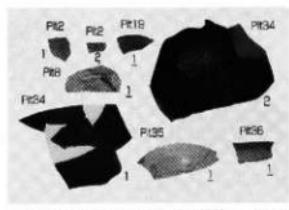
21-23-24-25土 土器
(図版8)



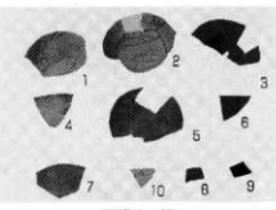
26土 羽釜
(図版8)



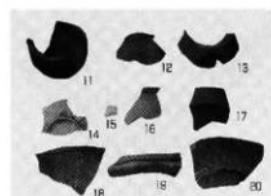
不明2 小型壺
(図版8)



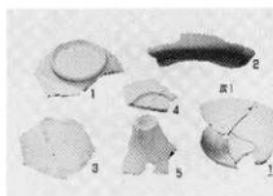
Pit 1-2-6-19-34-36 出土遺物
(図版8)



不明2 壱
(図版8)



不明2 出土遺物
(図版8)



炭1・2 出土遺物
(図版8)



炭1 灰陶器碗墨書き
(図版8)

写真10 土坑、ピット、不明遺構、炭化物集中範囲出土遺物

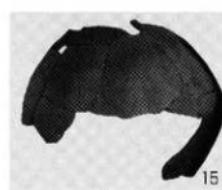
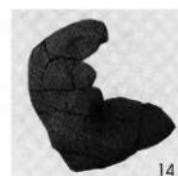
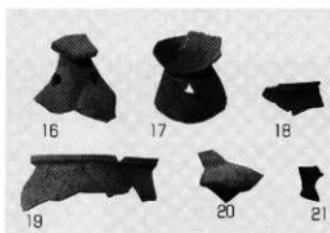
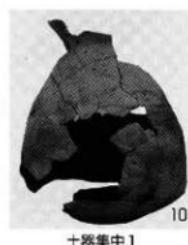
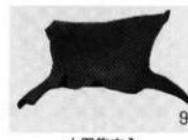
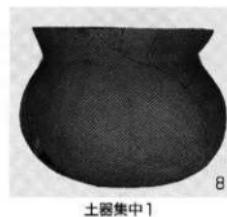
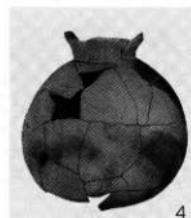
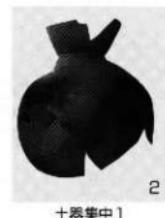
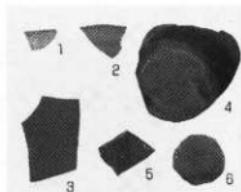
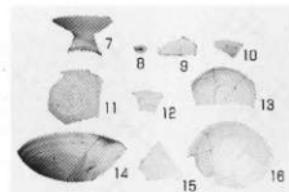


写真 11 方形周溝墓出土遺物

1~9 図版 10、10~21 図版 11



A区 グリッド・一括 (回収13)



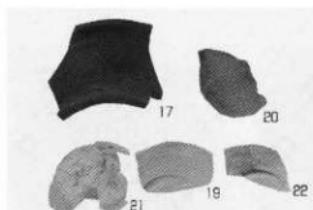
B区 グリッド・一括 (回収13)



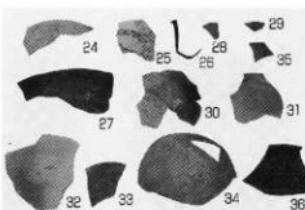
元祐通宝 (回収13)



土鍤 (回収13)



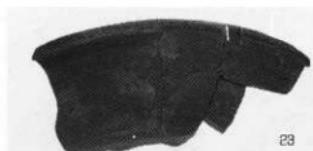
D区 グリッド・一括 (回収12)



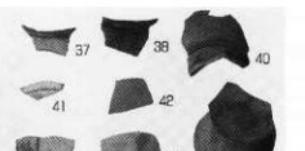
C区 グリッド・一括 (回収14)



金属製品 (回収14)



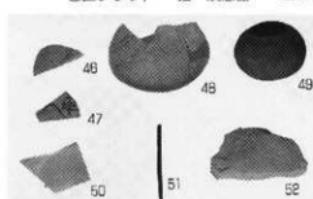
C区グリッド・一括 須恵器 (回収14)



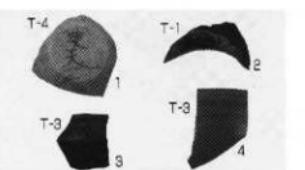
C区グリッド・一括 古墳時代土器 (回収14)



古墳時代土器 小西 (回収14)



C区グリッド・一括 (46はD区) (回収15)



試 挖 (回収15)



試掘T-1 土器 (回収14)



表採 五輪塔(火鉢) (回収14)



金属製品
(回収15)



玉諸小学校 4~6年生見学風景



発掘調査参加者

写真12 グリッド・一括、試掘・表採遺物

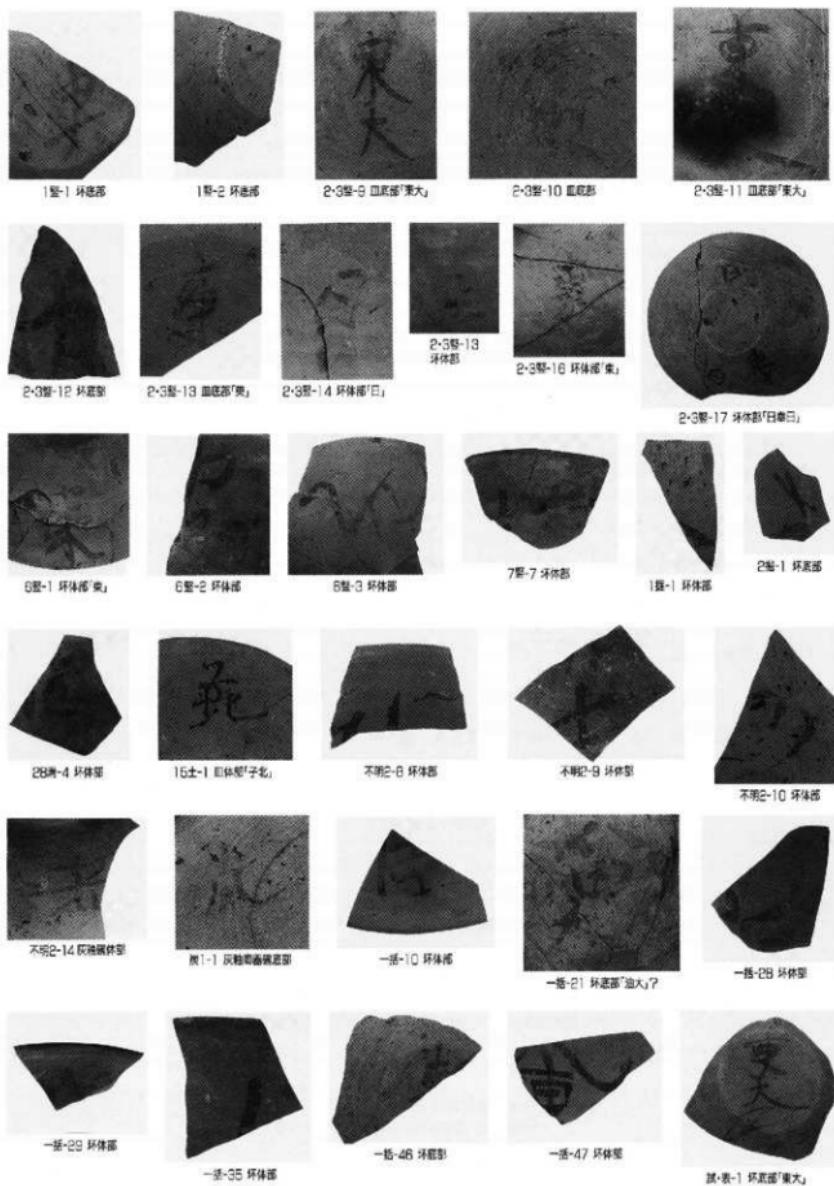


写真 13 墨書土器一覧

報告書抄録

ふりがな	チクヤいせき						
書名	チクヤ遺跡						
副書名	一般廃棄物最終処分場建設に伴う発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	甲府市文化財調査報告						
シリーズ番号	22						
編集機関	甲府市教育委員会						
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話 055(223)7324						
発行年月日	平成15年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °°'	東經 °°'	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号				
チクヤ遺跡	山梨県甲府市 蓬沢町1014番 地、西高橋町 389-1番地ほか	19201	216	35° 38' 18"	138° 35' 41"	H13.8.17 ~ H13.12.27	一般廃棄物最 終処分場建設
2,200m ²							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
チクヤ遺跡	集落	古墳時代 古 中	溝・掘立柱建物・ 竪穴建物・方形周 溝墓・土坑・井戸	土師器・須恵器・ 灰釉陶器・土鍬・ 金属製品・炭化米			

甲府市文化財調査報告22

チクヤ遺跡

—一般廃棄物最終処分場建設に伴う発掘調査報告書—

平成15年3月31日

発行 甲府市教育委員会

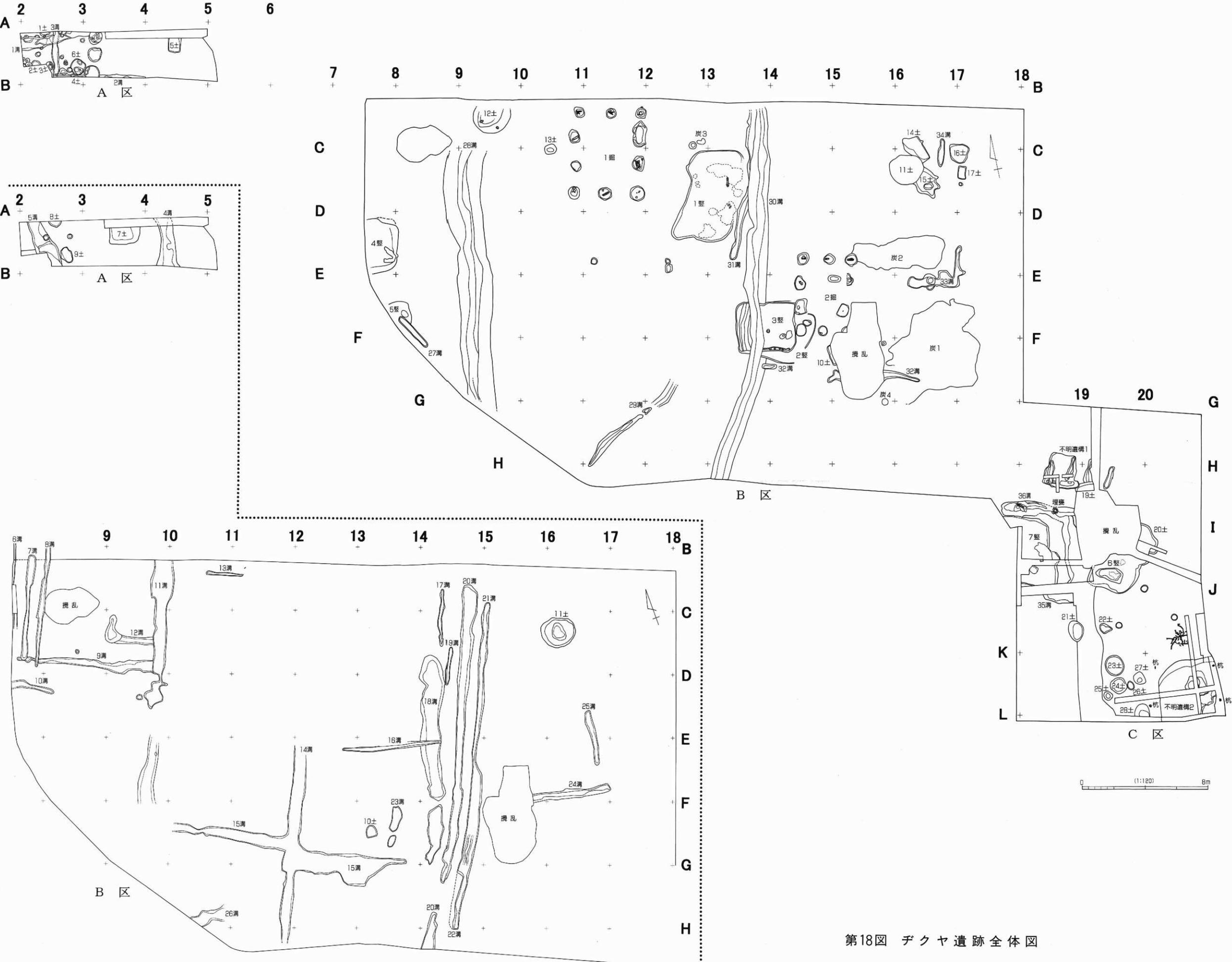
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1丁目18番1号

TEL 055(223) 7324

FAX 055(226) 4889

印刷 内田出印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18



第18図 デクヤ遺跡全体図

